





©2010 SANDRA B. FAST. 聖徒は神の愛に感謝

### 「うずらの奇跡」 サンドラ・B・ラスト画

1846年に、イリノイ州ノーブーから、最後の末日聖徒たちが追い出されました。  
ほとんどの人が貧しく、病気で、年老いていました。  
物資が何も無いまま彼らはミシシッピー川を渡り、仮のキャンプを設営しました。  
苦しみの真ただ中に、数百匹のうずらが飛んで来てキャンプに落ちました。  
とても手なずけられていたので、聖徒たちが手で捕まえることができました。  
飢えていた聖徒たちにとっても必要だった食物が、こうして与えられたのです。



リアホナ 2012年7月号

メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——  
いつも途中である  
ディーター・F・ワークトドルフ管長
- 7 家庭訪問メッセージ——  
愛と奉仕によって自分たちが  
主の弟子であることを示す

特集

- 16 わたしたちの受け継ぎの  
すばらしさ  
L・トム・ペリー長老  
開拓者が砂漠をばらのように美しくしたように、わたしたちが開拓者の価値や伝統に従うならば、わたしたちの生活も向上できます。
- 20 神と交わす聖約を理解する——  
わたしたちが交わす  
最も重要な約束の概要  
わたしたちは天の御父に何を約束したでしょうか。御父はわたしたちに何を約束されたでしょうか。

- 24 広報——教会と地域社会を  
結びつけるもの  
フィリップ・M・ボルマー  
地域の広報評議会は、教会が、地域社会やメディアや他の教会と良い関係を作れるように支援しています。
- 35 希望をもって将来と向き合う  
ジョセ・A・ティシエラ長老  
この世の所持品をすべてなくしたにもかかわらず、グリロ兄弟は今の状況に前向きで、将来への希望に満ちていました。

シリーズ

- 8 4月の大会ノート
- 10 キリストについて語る——  
川のような平安  
ラニス・ヒートン
- 12 教会での奉仕——  
学習者はレッスンをすでに  
理解している  
ラッセル・T・オスガソープ

- 30 わたしたちの家庭、  
わたしたちの家族——  
決してあきらめない  
アル・フライとエバ・フライ
- 38 末日聖徒の声
- 74 教会のニュース
- 79 家庭の夕べのためのアイデア
- 80 また会う日まで——  
世の汚れに染まらず  
ジュリー・トンプソン

.....  
表紙  
表紙——フォトライラストレーション/  
クリスティーナ・スミス  
裏表紙——写真/ロバート・ケーシー

注意——「リアホナ」2012年6月号には、ラグビーのプロ選手として契約するよりも専任宣教師として奉仕する方を選んだ若い男性の写真が掲載されました。ごく一般的なことですが、彼が着用している所属チームの公式ユニフォームには様々な会社のロゴが示されています。末日聖徒イエス・キリスト教会は、これらの会社およびその製品やサービスを支援・推奨していません。



42

42 良い計画がうまくいかないと

ステファニー・J・バーンス

ヤングアダルトが人生の旅路の中で様々な岐路に立たされながら、回り道をしててもやがて正しい目的地に導かれると考える人もいることを学びます。

今月号の中に  
隠れているリアホナを  
捜しましょう。  
ヒント——  
新しい葉をうら返して  
みてください。

46 神権の祝福の大切さ

ダリン・H・オクス長老

神権の祝福は、永遠の命にたどり着く道の途中で遭遇する障害を克服できるように助けてくれます。

49 ポスター——証

50 祈りの力

ポール・バンデンバーグ

気持ちが沈んだときフィリピン・セブ島の10代の若者は、祈りを通して「水面上」に自分たちの頭を出し続けます。

53 伝道地から——約束と祈り

パブロ・ミレレス・ベッツ

54 純粋な証とは？

エリス・アレクサンドリア・ホームズ  
証を得ることはパズルをするようなものです。でも、一つずつパズルをはめていくことで、福音の真実性を学べるのです。

58 人前で演じる

ブリタニー・トンプソン

わたしは人生を演じていました。役を替えるまでは。



66

59 親切なささやき

デボラ・ムーア

学校のいじめっ子が教会に来たら、ジェームズはどうするでしょうか。

61 特別な証人——

昔開拓者と呼ばれる人たちが生きていた時代がありました。彼らから何を学ぶことができるでしょうか？  
L・トム・ペリー長老

62 歴史を作る

チャド・E・ファレス

ソーマ、エスタ、そしてカタは、ハンガリーの教会の良い模範になるうとしています。

64 しょうきょうかいをかていでも

——わたしは ふういんの げんそくを まもって 生活することで せいぎを えらびます

66 トーマスのあかし

ジョシュア・J・パーキー

トーマスはあかしを分かち合う前にあかしが何かを学ぶ必要があります。

68 あかしを強める

一つの原則ごとに、自分じんのあかしを強めてください。

69 わたしたちのページ

70 ちいさな おともだちへ



58

リアホナ 2012年7月号  
第14巻7号(10487300)

末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトル

十二使徒定員会: ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ボール・B・パイパー

顧問: キース・R・エドワーズ, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, ペア・G・マーム

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: スーザン・パレット, ライアン・カー

編集スタッフ: プリタニー・ピーティ, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリン・ボーター, ガント, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, リア・マクラナハン, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロー, ボール・バンデンバーク, マリッサ・A・ウイティンソン, メリッサ・ゼンデノ

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・パン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ボット, コリー・ヒンクレー, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: コレット・ネベカー・オーヌ, コニー・ボウソープ・ブリッジ, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, レジナルド・J・クリステンセン, ブライアン・W・ギューギ, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, キニー・J・ニコルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長: デレック・リン・ウェスマン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名: 末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号 / 00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒1133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)  
普通号/大会号 120円

『リアホナ』へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ [liahona.lds.org](http://liahona.lds.org) からお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,  
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA  
電子メール: [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org)

『リアホナ』(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリジャ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2012 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本

『リアホナ』に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——[cor-intellectualproperty@ldschurch.org](mailto:cor-intellectualproperty@ldschurch.org) にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

July 2012 Vol. 36 No. 7. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

# インターネットで得られる追加情報

[Liahona.lds.org](http://Liahona.lds.org) (英語)

## 成人

神権指導者は、教会の広報評議会を通じて、地元地域に援助の手を差し伸べています(24ページ参照)。その取り組みについては、[publicaffairs.lds.org](http://publicaffairs.lds.org) (英語)でより詳しく見ることができます。

## 青少年

『若人の強さのために』に掲載されている標準についての音楽、霊的なビデオや記事を無料でダウンロードをする場合は、[youth.lds.org](http://youth.lds.org) (英語)にアクセスしてください。

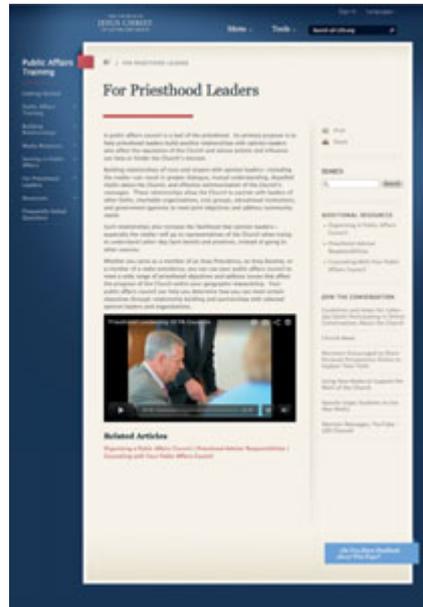
## 子ども

62ページで、ハンガリーのブダペストに住んでいるソーマ、エスタ、カタに会ってみてください。[liahona.lds.org](http://liahona.lds.org)で、彼らの写真をもっと見ることができます。

## 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

証, 30, 40, 49, 54,	準備, 4
66	正直, 70
イエス・キリスト, 10	人格, 58
祈り, 38, 50, 64	神権, 46
教え, 12	信仰, 35, 42
改宗・改心, 30	親切, 59
開拓者, 16, 61	神殿, 80
家族, 16, 30, 41	聖約, 20
家庭訪問, 7	聖霊, 12
儀式, 20	総大会, 8
希望, 35, 42	断食, 64
逆境, 35	伝道活動, 4, 24, 38,
結婚, 30	53
広報, 24	奉仕, 7, 24, 80
死, 10	学ぶ, 12
従順, 42	モルモン書, 38, 53
祝福, 46	赦し, 38



## あなたの言語で

[languages.lds.org](http://languages.lds.org)で、『リアホナ』や教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

大管長会第二顧問  
ディーター・F・  
ウークトドルフ管長

# いつも**途中**である

**世**界の多くの暦において、7月は1年の半ばです。物事の初めと終わりは祝ったり思い起こしたりする一方で、途中は意識せずに過ごしてしまう場合がよくあります。

「初め」は決意の時、計画を立てる時、活力がみなぎっている時です。「終わり」はぜんまいが緩んで止まるように終幕を迎える時であり、達成感や、喪失感を伴うこともあります。しかし、正しい物の見方をもって、自分は物事の「途中」であると考えるとき、人生について理解が少し深まるだけでなく、人生をさらにもう少し有意義なものとすることができます。

## 伝道活動の途中

わたしは若い宣教師たちに話すときに、よく「皆さんは伝道の途中です」と言います。前日到着したばかりであろうと、翌日務めを終えて帰ることになっていようと、いつも途中であると考えように言うのです。

新任の宣教師は、自分は効果的な働きをするにはあまりにも経験不足だと感じて、自信をもって大胆に語ったり行動したりするのを先延ばしにすることがあります。伝道を終えようとしている経験豊かな宣教師は、伝道が終わりに近づいていることを悲しく思ったり、伝道後に何をしようかと思いついて、働きのペースを落としたりすることがあります。

どのような状況にであろうと、どこで伝道していようと、実際のところ、主の宣教師は日々よきおとずれの無数の種をまいているのです。自分はいつも伝道の途中であると考え、これらの忠実な主の代表者たちは励ましと

活力を得ます。そして専任宣教師と同じことが、わたしたち全員についても言えます。

## わたしたちはいつも途中である

見方を変えてこのように考えることは、単に思いを操る巧みな手段以上のものです。わたしたちはいつも途中であるという考え方の背後には、崇高な真理があります。地図上で自分の現在地点を見るとき、まだ出発したばかりだとつい言いたくなります。しかし、もっとよく注意して見ると、現在地点がどこであろうと、そこはより広い範囲の中の、まさに途中なのです。

場所と同じことが、時間についても言えます。わたしたちは自分の人生は始まったばかりだ、あるいは終わろうとしていると感じることがあるかもしれません。しかし、自分の現在地点を永遠に照らして見るとき、すなわち、自分の霊がわたしたちには計り知れないほど長く存在してきたこと、そしてイエス・キリストの完全な犠牲と贖罪しよくざいのおかげで、この先も永遠にわたって存在することを理解するとき、自分が実際に途中にいることが分かります。

最近、わたしは両親の墓標を作り替えた方がよいと感じました。時の流れは墓地を大切にしてくれてはおらず、両親の称賛すべき生涯には新しい墓標の方がふさわしいと思ったのです。墓標には誕生日と死亡日が記され、何の変哲もない小さなダッシュ記号で結ばれていました。生存期間を表しているその小さな記号を見たとき、突如として、脳裏にたくさんの思い出があふれてきました。これらの大切な



思い出はその一つ一つが、両親の人生の途中の、そしてわたしの人生の途中の一瞬を表しています。

年齢にかかわらず、現在地点にかかわらず、人生の中で物事が起こるとき、わたしたちはいつも途中にいます。さらに重要なことに、わたしたちはこの先、永遠に途中にいます。

### 途中であることが与えてくれる希望

そうです、一生を通じて様々な始まりの瞬間と終わりの瞬間を迎えるでしょうが、それらは永遠に続く生活の途中というすばらしい道に立つ里程碑にすぎないのです。始めたばかりでも終わるところでも、若くても年老いていても、仕える能力を制限するような思いをすべて退け、主の御心のままに人生を築こうとさえするなら、わたしたちは主の目的のために使っていただくことができます。

詩篇の作者は次のように言っています。「これ

は主が設けられた日であって、われらはこの日に喜び楽しむ〔べきである〕。」(詩篇 118:24) アミュレクはわたしたちに次のことを思い起こさせています。「現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、*現世の生涯*は、人が各自の務めを果たす時期である。」(アルマ 34:32, 強調付加) また、ある詩人はこう述べています。「『永遠』とは、無数の『今』から成るものである。」<sup>1</sup>

いつも途中であるということは、試合が決して終わっていないこと、希望が決して失われていないこと、敗北が決して最終的なものでないことを意味します。どの地点にしよう、どのような状況にしよう、無限の初めと無限の終わりがわたしたちの前に広がっているからです。

わたしたちはいつも途中なのです。■

注

1. エミリー・ディキンソン, "Forever — is composed of Nows," *The Complete Poems of Emily Dickinson*, トーマス・H・ジョンソン編 (1960年), 624

### このメッセージから教える

**た**とえ何かを始めたばかりであったり終えるところであったりしても、家族の人たちがどのような意味で「いつも途中である」かを、一緒に話し合うとよいでしょう。過去のことにこだわったり、次の活動や計画まで待たせたりせず、現在取り組んでいることに最善を尽くすように勧めてください。この勧めを実践するために家族で行えることを一つ選んで、目標を達成したい日を設定するように提案するとよいでしょう。

## 伝道の準備の途中である

ウークトドルフ管長は宣教師に、自分は伝道の途中であると考えるように言っています。この考え方は、伝道の準備にも当てはめることができます。つまり、12歳であろうと18歳であろうと、伝道に出るための準備ができるのです。

伝道の準備の「途中」に、どのようなことができるでしょうか。

- いつも神殿に参入するのにふさわしくある。
- 促しを感じたときにその感じたことを書き留め、それに従って行動することによって、聖霊の促しに気づくことを学ぶ。
- 宣教師のために祈る。
- 自分の地域にいる宣教師に、伝道に出る備えとしてどのようなことをするとよいか尋ねる。
- 奉仕や聖文研究、日記を書くなどの大切な事柄を行うことを含め、時間を効果的に管理することを学ぶ。
- 家族と話すとき、最近霊が鼓舞された聖句を紹介する。その聖句について思うことを説明する。
- 友人に彼らの宗教について尋ね、どのようなことを信じているのか尋ねる。自分が信じていることを進んで紹介する。彼らを教会や活動に招待する。

自分が伝道の準備の途中であることを認めるとき、もっと主から信頼され、御霊を伴侶とするにふさわしくなれるよう生活することができます。



## みんな今、何かができます

1. ウークトドルフかんちょうは、あなたが何才でも、ほかの人をたすけるために何かができると教えています。日記か紙に、あなたのたまものやのりよくのリストを作りましょう。あなたのたまものは何だと思うか、りょうしんに聞いてみましょう。
2. 下の絵のような人がいるとき、あなたのたまものを使ってどのようにたすけられるか考えましょう。



3. たまもののリストのさいごに、今週、ほかの人をたすけるためにあなたのたまものをつかってできることを一つ書きましょう。





祈りをもってこの資料を学び、必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。  
質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、あなた自身の生活の中で扶協協会を生かすようにしてください。

## 愛と奉仕によって 自分たちが 主の弟子であることを 示す

この世での生涯を通じて、イエス・キリストは教え導くことによって人々に愛を示されました。主は次のように言っておられます。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:35) 救い主は「助けを必要としている人を助け[る]」ことについて模範を示し、わたしたちも同様に言うように望んでおられます(モーサヤ4:16)。主はその務めにおいて御自分とともに働く弟子たちを召し、人々に仕えてさらに主のような者になる機会を彼らにお与えになります。<sup>1</sup>

次の行いによって訪問先の人々に愛を示すとき、わたしたちが訪問教師として行う奉仕の業は、救い主の務めによく似たものとなるでしょう。<sup>2</sup>

- 訪問先の姉妹と家族の人たちの名前を覚え、友達になる。
- 裁かずに、愛する。
- 姉妹たちを見守り、救い主がされたように「一人ずつ」彼女たちの信仰を強める(3ニーファイ11:15)。
- 姉妹たちと偽りのない友情を築き、彼女たちの家などを訪ねる。
- 一人一人の姉妹を気にかける。誕生日や卒業、結婚、バプテスマなど、その姉妹にとって大切な日を覚える。



- 新会員やあまり教会に来ていない会員に手を差し伸べる。
- 孤独な人や慰めを必要としている人に手を差し伸べる。

### 聖文から

3ニーファイ11章；モロナイ6:4；  
教義と聖約20:47

### 注

1. 『わたしの王国の娘——扶協協会の歴史と業』105 参照
2. 『手引き 第2部——教会の管理運営』3.2.3 参照
3. 『わたしの王国の娘』3
4. 『わたしの王国の娘』6

### わたしたちの歴史から

「新約聖書には、有名無名を問わず、女性がイエス・キリストに対して信仰を働かせ……たという記述があります。これらの女性は……模範的な弟子となり……ました。イエスや十二使徒と旅を共にした女性もいました。女性たちは主の御業を支援するために自分の持ち物を差し出しました。主の死と復活の後も、変わることなく忠実な弟子でした。」<sup>3</sup>

パウロは「教会の執事」であったフィベという女性について書いています(ローマ16:1)。パウロは人々に次のように頼みました。「彼女があなたがたにしてもらいたいことがあれば、何事でも、助けてあげてほしい。彼女は多くの人の援助者で……あった。」(ローマ16:2) 「新約聖書に登場するフィベやその他偉大な女性たちが行った奉仕は、大勢の人々の援助者すなわち助け手として働いている現在の指導者、訪問教師、母親、その他の扶協協会会員に引き継がれています。」<sup>4</sup>

### 何ができるでしょうか？

1. ほかの人を見守り、助ける能力を、どのように伸ばしていますか。
2. 担当の姉妹たちに自分が彼女たちを愛していることを確かに知ってもらえるように、どのようなことを行っていますか。

# 4月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ[る。]……

わたし自身の声によろうと、わたしの僕<sup>しもべ</sup>たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1:38)

2012年4月の総大会を復習する際に、このページ(および今後の「大会ノート」)を使って、生ける預言者と使徒の最近の教えを学び、生活に取り入れることができます。

## 大会で話された実話や物語

### 神権の力

**第**二次世界大戦中の1944年初頭、神権に関してある経験をした人がいます。ハワイで新聞記者として働いていた教会員でない人が語りました。……彼とほかの記者たちは、クウェジェリン環礁で海兵隊の第二陣に同行しました。進んで行くと、若い兵士が海中にうつ伏せに浮かんでいるのに気づきました。明らかに重傷を負っています。周囲の浅瀬の水は血で赤く染まっていました。すると、もう一人の兵士が負傷兵のもとへ向かいました。この二人目の兵士も負傷しており、左腕が体のわきにだらりと垂れ下がっています。彼は水中に浮かんでいる兵を溺死させないように顔を上に向けさせました。うろたえた声で助けを求めて叫びました。新聞記者たちは、彼が支えていた青年を再び見て答えました。「わたしたちが彼にできることはもう何もないよ。」

記者は書いています。「すると、これまで目にしたことのない光景を見た。自分もひどく負傷しているこの青年は、もう息絶えていそうな仲間の兵士を何とか岸へ運んで行った。そして、仲間の頭を自分のひざに載せた。何という光景だったであろう。ひどく負傷したこの二人の青年は……窮地にあっても清く、立派な若者であった。一人の若者がもう一人の上に頭を垂れてこう言った。『イエスキリストの御名と、神権の力によって、医師の助けを得られるまで生き長らえるように命じる。』」記者は記事の最後にこう書いています。「わたしたち3人〔二人の兵とわたし〕は、今病院にいる。〔どうして生きていられたのか〕医師は知らない。しかし、わたしは知っている。」

トーマス・S・モンソン大管長

「奉仕する意志とふさわしさ」『リアホナ』2012年5月、67-68



#### 考えるための質問——

- 神権の力により、末日聖徒にどのような祝福がもたらされるでしょうか。
- 神権者と、祝福を受ける人にとって、信仰と神権はどのような結びつきがあるでしょうか。

あなたの考えを日記に書くか、ほかの人と話し合ってみてください。

このテーマの追加資料——LDS.orgの「テーマ別に学ぶ」の「神権」の項。ジュリー・B・ベック、「豊かに注がれる祝福」『リアホナ』2006年5月号、11-13。「福音の原則」(2009年)「神権」の項、67-71

総大会の説教を読んだり、見たり、聴いたりするには、[conference.lds.org](http://conference.lds.org) にアクセスしてください。



## 教会の現状

会員数(2011年現在)	14,441,346
ステーク / 地方部数	3,554
ワード / 支部数	28,784
伝道部数	340
専任宣教師数	55,410
教会奉仕宣教師数	22,299
改宗者数	281,312
儀式を執行している神殿数	136

## 学習コーナー

### 共通のテーマ——家族

**総** 大会では、ある非常に重要なテーマについて複数の話者が語るがよくあります。ここでは4人の話者が家族について語ったことを採り上げます。大会の話の研究する際に、ほかにも共通するテーマを探すようにしてください。

- 「夫と妻は、自分たちの第一の召しは、お互いに対するもの、それから子供に対するものであって、この召しから解任されることは決してないことを理解する必要があります。」<sup>1</sup>——十二使徒定員会 ボイド・K・バッカー会長
- 「物事を正しい順序で行う必要があります。結婚が先で、次に家族です。世のあまりに多くの人が物事の自然な順序を忘れ、順序を変えることや、逆にすることさえできると考えています。」<sup>2</sup>——十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老
- 「わたしたちは家族の聖文学習と家庭の夕べがいつも完璧にはできないことを知っています。どのような困難に直面しても、がっかりしないでください。」<sup>3</sup>——十二使徒定員会 クエンティン・L・クック長老
- 「子供が理解するように教えるとは、情報を伝えるだけにとどまりません。教義が子供の心にしみ込むように助けることを意味します。」<sup>4</sup>——中央初等協会会長会第二顧問 チェリル・A・エスプリン

#### 注

1. ボイド・K・バッカー「小さいわらべに導かれ」『リアホナ』2012年5月号, 8
2. M・ラッセル・バラード「道に迷った者が見つかるように」『リアホナ』2012年5月号, 99
3. クエンティン・L・クック「信仰の調べに波長を合わせる」『リアホナ』2012年5月号, 44
4. チェリル・A・エスプリン「子供が理解するように教える」『リアホナ』2012年5月号, 10

### 預言者の約束

「大会を後にする際、皆さん一人一人に天の祝福があるよう祈ります。……皆さんがここで聞いた真理について深く思い巡らして、昨日大会が始まったときよりもさらに善良な人になれますように。」

トーマス・S・モンソン大管長  
「今大会を閉じるに当たり」  
『リアホナ』2012年5月号, 116

# 川のような 平安

苦悩の中にあっても、わたしは天の御父とイエス・キリストに対して  
信仰と希望を持ち、胸を張って前進します。



## たといそうでなくても

「忠実な人であっても、この世での出来事から完全に逃れることはできません。だからこそ、危機に瀕したシャデラク、メシャク、アベデネゴの勇氣ある態度は、わたしたちが見習うべきものだったと言えます。彼らは神が自分たちを助け出してくださることを知っていました。しかし、『たとい〔助け出され〕なくても』、神に仕える気持ちに変わりはないと彼らは誓ったのです（ダニエル 3：16 - 18 参照）。

十二使徒定員会  
ニール・A・マックスウェル長老  
(1926 - 2004 年)  
『愛の腕の中に抱かれて』  
『リアホナ』2002 年 11 月号, 16

## ラニス・ヒートン

**い**ちばん上の息子が事故で亡くなった日、わたしは喪失感に襲われ、心は激しく痛みました。それでもわたしは、救い主の贖いの力に頼ることで、悲しみと苦痛の重荷が背負えるようになることを知っていました。夫とわたしはホームティーチャーをお願いして、一人ずつ祝福をしてもらいました。わたしたちは人知を超えた力が与えられることを知っていました。救い主はわたしたちを捨てて孤児とはしないと約束しておられます（ヨハネ 14：18 参照）。わたしはその約束に堅く寄りすがりました。主もその約束を固く守られたことを証します。

イザヤは救い主について、「悲しみの人で、病を知って」おられたと教えています（イザヤ 53：3）。わたしたちを救える人がいるとしたら、それは主であられることを、わたしは自分自身の経験で知っていました。しかし、主がわたしたちの苦悩を即座に取り除かれるならば、成長することも理解の目が開かれることもないと

いうことも知っていました。

苦悩の中にあっても、わたしは心の底に救い主から絶え間なく流れ出る川のような平安を経験してきました（1 ニーファイ 20：18 参照）。特につらいその時を経験し、そしてそれが何日も何週間も続いたことがあります。そのようなときですら、主の平安はわたしの悲しみを取り除いてくれました。わたしたちは願ひ求めさえすればいいのです。天の御父はわたしたちが何の助けもなく現世の生涯を送ることを望んではおられないのです。

息子の命を奪った事故について思い巡らすと、旧約聖書のある物語が心に浮かびます。

「わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。

たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません。」（ダニエル 3：17 - 18、強調付加）



大切なのは「たといそうでなくても」という言葉です。わたしたちは何が起ころうと信仰を守らなければならないのです。天の御父は天使を遣わし、息子に災いを避けさせることもできたことでしょう。しかし、そうはなさいませんでした。御父はわたしたちを聖別し、御自分のもとへ帰ることができるよう備えさせるためには何が必要なのか御存じなのです。結局、すべてはうまくいくのですが、だからと言って、亡くなった人を思い出して、悲しんだり、泣いたりすることが繰り返されないわけではありません。わたしたちは愛があるから嘆き悲しみます。しかし、心を悩ませる必要はないのです。

幕の両側に住む人々に対してわたしたちができる最大の贈り物、それは、たとえ一歩ずつ足を踏み出すときに涙が頬を伝っていても、天の御父とイエス・キリストに対して信仰と希望を持ち、胸を張って前進することです。というのは次のような約束があるからです。「墓は勝利を得ず、死のとげはキリストにのみ込まれてしまう。」(モーサヤ 16:8) ある日、「主なる神はすべての顔から涙をぬぐ〔う〕。」(イザヤ 25:8) ■

### 悲しみにどう対処するか

十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老(1917-2008年)は、2006年10月の総大会における説教でこの質問を投げかけています。

「世界の歴史が始まって以来、〔救い主が十字架にかけられた〕この金曜日ほど暗い日はなかったでしょう。

しかし、その悲しみは続きませんでした。

失意は消え去りました。なぜなら日曜日に、復活された主が死の縄目を解き放たれたからです。主は墓からよみがえり、栄光のうちに勝利を収め、全人類の救い主として御姿を現されたのです。

一瞬にして、とめどなくあふれる涙でいっぱいだった目は乾きました。苦悩と悲嘆の祈りをささやいていた唇は、驚くべきことを賛美する言葉を語り始めました。なぜなら、生ける神の御子イエス・キリストが、よみがえりの初穂として人々の前に立ち、死が新たな驚くべき人生の始まりにすぎないことを証明したからです。……

世の救い主の生涯と永遠の犠牲のおかげで、わたしたちは大切な人々と再び会えるのです。」

「日曜日は必ずやって来る」『リアホナ』2006年11月号, 29-30

次回の家庭の夕会で、死、復活、そして救いの計画について話し合うとよいでしょう。一例として、ニーファイ第二書第9章とアルマ書第11-12章を参照してください。

# 学習者は レッスンを すでに理解している

学習者一人一人のすばらしい可能性を認めるときに、  
神と同じ視点で物事が見えるようになってきます。

中央日曜学校会長  
ラッセル・T・オスガソープ



**教**会の割り当てでペルーのクスコを訪問したとき、妻とわたしは神権会と扶助協会の合同クラスに出席しました。その日、レッスンをしてくれたのは成人を対象とする福音の教義クラスの教師でした。先に行われた二つの集会在予定よりも延びたため、教師が準備したレッスンを教えるのに残された時間は20分ほどしかありませんでした。

教師は、レッスンの最初の方で、過去2年の間に教会に加わったすべての会員は立つように促しました。5名の会員が立ちました。ホワイトボードに5という数字を書くと、教師はこう言いました。「兄弟姉妹、最近教会に加わった会員が5名、わたしたちとともにこうして集っていることはすばらしいことです。問題が一つだけあります。それは過去2年の間にこのワードでバプテスマを受けた新しい改宗者は16名いたということです。」

すると教師は16という数字を5という数字の横に書きました。そして心を込めて、こう尋ねたのです。「それでは、兄弟姉妹の皆さん、これから何をしますか。」

一人の姉妹が手を挙げ、こう言いました。「その人たちを捜しに行き、呼び戻す必要があります。」

教師はその提案に賛成し、ホワイトボードに**呼び戻す**という言葉を書くと、こう言いました。「このワードには呼び戻すべき新会員が11名います。」

それから、教師は呼び戻すことの大切さについて語ったトーマス・S・モンソン大管長の言葉を引用しました。また、失われた羊を探すために救い主がどのような行動を取られたかについて、新約聖書の言葉も読みました(ルカ15:6参照)。その後で、教師はこう尋ねました。「では、どのようにして彼らを連れ戻しますか。」

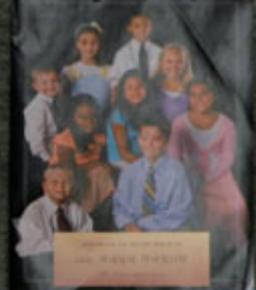
幾つもの手が挙がり、教師は次々に指名しました。生徒たちは、最近の改宗者が教会に戻るのを助けるために、ワードに集う家族や個人として協力して働くことができると提案したのです。すると教師はこう尋ねました。「では、町を歩いているとき、道路の反対側に一人の男性が目にとまったとします。その男性が最近の改宗者の一人だと分かったら、皆さんはどうしますか。」一人の会員がこう答えました。「道路を渡って彼にあいさつします。

わたしたちがどれほど彼に戻って来てほしいか、どれほど彼の帰りを待ちわびているか知らせます。」

クラスに集うほかの生徒もこの提案に賛成し、そのような会員を助ける方法について、ほかにも具体的な提案を出してくれました。教室は熱意に満ちていました。最近バプテスマを受けた会員が再び活発な状態へと戻るのを助けるために必要なことをしようと決意したのです。

妻とわたしは、自分たちもだれかが教会で活発な状態に戻れるよう助けたいという新たな望みを抱いて、そのクラスを後にしました。そのクラスの生徒は全員がきっと同じような思いを抱いて帰ったことと思います。このような経験をした後で、わたしは自問しました。時間的には短かったのに、あれほど効果的なレッスンになったのはなぜだろうか。クラスを去るときに、だれもが皆、もっと完全に福音に従った生活を送りたいという意欲をあれほど強く感じたのはなぜだろうか。

これら二つの質問について思い巡らしているうちに、このクラスが効果的に教え学ぶ経験となった根底には4つの原則があることに気づきました。



1. 目標は改心
2. 動機は愛
3. 鍵は教義かぎ
4. 教師は御霊みたま

### 目標は改心

モンソン大管長がわたしたちにすべきではないと勧告したとおり、この教師は「生徒の頭に『情報を流し込む』」のではなく、「福音の原則に従って生活することについて考え、感じ、行動に移せるよう一人一人を鼓舞する」ための努力を払っていました。<sup>1</sup>

手短かに言えば、この教師の目標は、生徒がそのレッスンに出席しなければ行わなかったであろうことを行うことができるように助けることでした。そしてそのような行いが、個々の生徒が救い主の真の弟子となるうえでの

助けとなったのです。

このような教え方が目標としているのは改心です。改心という言葉は、向きを変える、新しい行動規範を受け入れるということを意味します。真の弟子となる改心は、たった1回で終わる出来事ではなく、生涯にわたるものです。<sup>2</sup> あのレッスンでは、生徒たちの行いは、自分にとって助けとなるだけでなく、最近の改宗者が教会に戻って来るのを助けるためのものでもあったのです。わたしたちがさらに完全に福音の原則に従った生活を送るとき、ほかの人たちも直接的、間接的に祝福を受けます。だからこそ、福音を学び教えることは他に類のない活動なのです。福音を学ぶことによって、わたしたちはただ知識を獲得するというよりは、むしろ個人として改心するのです。



愛は、  
もし救い主が  
教室におられたら  
こう教えられるだろう  
という方法で、  
わたしたち教師が  
教えられるように  
助けてくれます。

## 動機は愛

ペルーでのレッスンに参加したとき、最近の改宗者の中であまり活発ではない会員にクラスの生徒が働きかけるよう教師は勧めていました。わたしは教師がそのどちらの会員も愛していることを感じることができました。愛が部屋に満ちあふれ、その愛が教師から学習者へ、学習者から教師へ、そして一人の学習者からほかの学習者へ、さらには学習者たちから最近の改宗者たちへと伝わっていくようでした。

愛は、もし救い主が教室にいたらこう教えられるだろうという方法で、わたしたち教師が教えられるように助けてくれます。まさしく、「愛があれば、熱心に準備もし、教え方にも変化を持たせようとする」のです。<sup>3</sup>

レッスンの題材をこなすことが教師の動機である場合、教師は一人一人の学習者に必要なことではなく、教える内容に焦点を当てます。ペルーの教師は何かをこなす必要性は一切感じていないようでした。クラスの生徒が愛をもって自分たちの兄弟姉妹に手を差し伸べるよう鼓舞することだけが教師の望みでした。主に対する愛と互いに対する愛が推進力となっていました。動機は愛だったのです。わたしたちの動機が愛であるとき、神の子供たちを助けるという主の目的を成し遂げられるように、主がわたしたちを強めてくださるのです。教師として何語る必要があるか、どのようにそれを語ればよいか靈感を与えてくださいます。

## 鍵は教義

ペルーの教師は教えるときにテキストを読んでいませんでした。レッスンを準備するためにテキストあるいは総大会説教から学んだはずですが、

福音を  
福<sup>フ</sup>学び教える目的は、  
情報を得ることではなく、  
弟子としての  
ふさわしさを身に付ける  
ことなのです。

教えるときには、聖典を使って教えませんでした。失われた羊の話をし、次の一節を暗唱しました。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ 22:32) 道を誤った人々を救助するようにという、モンソン大管長の全会員に対する勧めを紹介しました。あの教師のレッスンの中心を成す教義は、信仰と慈愛でした。クラスの生徒は行動するための十分な信仰が必要でした。また、愛に根差して行動する必要がありました。

イエス・キリストの回復された福音の教義を明確に、また確信をもって教えるときに、主は学習者と教師の双方を強めてくださいます。あまり活発でない兄弟姉妹に手を差し伸べる方法について、より多くの生徒が提案するにつれ、だれもが救い主をより近くに感じました。主はこの地上における務めの間、周囲の人々に対して常に手

を差し伸べられました。効果的に福音を学び教えるための鍵は教義です。教義は心と知性の鍵を開け、神の御霊がクラスの出席者全員を鼓舞し教化するための道を開きます。

## 教師は御霊

福音を教える優れた教師は、実際の教師が自分たちではないことをよく理解しています。福音は御霊を通して教え学ぶのです。御霊がなければ、福音の真理を教えても、学ぶことができません(教義と聖約 42:14 参照)。教師が靈感を受けて生徒に行動するよう勧めれば勧めるほど、御霊がレッスン中に注がれます。ペルーの教師は、靈感を受けて行動するよう生徒に勧めました。その後、クラスの生徒はこの勧めにこたえて提案をしました。その結果、御霊をより強く感じ、全員が強められたのです。

教師はレッスンをこなすように努めてはいませんでした。むしろ、学習者がすでに理解しているレッスンを引き出すよう努めていたのです。御霊の力を通して生徒に勧めることで、教師は生徒が行動すること、すなわちほかの兄弟姉妹に愛をもって手を差し伸べたいという自分の望みに気づくよう助けたのです。クラスの生徒は、自分の考えを分かち合うことで互いに啓発し合いました。なぜなら皆ともに御霊に近づいていたからです。

わたしたちが周囲の人々を助けることによって福音に従った生活を送ろうとするとき、主はわたしたちがなすべきことを行えるように、わたしたちを鼓舞してくださいます。したがって、教師であるわたしたちが、自分たちのクラスでもっと御霊の現れを望むなら、クラスの生徒にもっと完全に福音の原則に従った生活を送るよう勧める必要があります。わたしたちが福



音の原則に従った生活を送る決意をするとき、わたしたちはもっと神に近づき、神ももっとわたしたちに近づいてくださいます（教義と聖約 88：63 参照）。

#### 学習者一人一人の可能性

わたしたちは知識を得るためだけに福音を学び教えるのではありません。わたしたちは昇栄を得るために福音を学び教えるのです。福音を学び教える目的は、情報を得ることではなく、弟子としてのふさわしさを身に付けることなのです。家庭で自分の子供を教えるにせよ、ワードまたは支部の会員を教室で教えるにせよ、学習者は教師が教えようとしているレッスンをすでに理解しているということを覚えておく必要があります。わたしたちが両親または教師として果たす役割は、自分たちが頭や心ですでに理解して

いるレッスンの真の意味を見いだすことができるよう学習者を助けることなのです。

学習者一人一人のすばらしい可能性を認めるときに、神と同じ視点で物事が見えるようになってきます。そうすると主が望んでおられるように語り、主が望んでおられるように行動できるようになります。このように学び教える道を追い求めるときに、わたしたちの目標は改心となり、わたしたちの動機は愛となり、そして教義が鍵となり、御霊が教師となるのです。このように学び教えるときに、主は学習者と教師の双方を祝福し、「すべての者が互いに教化し合うように」なるのです（教義と聖約 88：122）。■

#### 注

1. トーマス・S・モenson, Conference Report, 1970年10月, 107
2. ダリン・H・オークス「主の望まれる者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 40 - 43
3. 『教師——その大いなる召し』（1999年）, 31

したがって、  
教師である  
わたしたちが、  
自分たちのクラスで  
もっと御霊の現れを  
望むなら、  
クラスの生徒に  
もっと完全に  
福音の原則に従った  
生活を送るよう  
勧める必要があります。





十二使徒定員会  
L・トム・ペリー長老

# わたしたちの 受け継ぎのすばらしさ

開拓者のような信仰は、どの時代にも必要であるように、  
今日こんにちの世界でも必要とされています。

**わ**たしは開拓者の話を聞くといつも心を鼓舞されてきました。子供のころ、祖母が隣に住んでいました。祖母は8歳のときに、大草原を越える道のほとんどを歩き通しました。開拓者のころの経験をたくさん覚えていて、わたしはその話を夢中になって何時間も座って聞いたものです。

ブリガム・ヤング大管長（1801 - 1877年）は、わたしにとって常に特別な英雄の一人です。様々な問題に対する彼の答えは、基本的かつ根本的なものであり、人々の役に立ちました。聖徒たちを西部に導いたときの彼の気概と熱意に、わたしは驚嘆します。

新しい改宗者をヨーロッパからユタに移住させる費用が法外にかかることが明らかになったとき、大草原を越えるために手車を使うという案がヤング大管長に提示されました。ヤング

大管長はすぐにその利点が分かりました。費用を節約できるだけでなく、肉体的な恩恵、すなわち、そのように遠い地まで歩いてソルトレーク盆地に到着する人々には、そこまでの経験の後で十分な気力と活力に恵まれるということです。ヤング大管長はこのように言っています。

「そのような隊は出発できるどの雄牛隊よりも速く旅ができると、わたしたちは確信しています。ミルクを供給するために少数の健康な雌牛と、車を駆り、必要な場合に食肉にするために少数の肉牛を連れて行かなければなりません。この方法を使うと、牛や馬に車を引かせる場合に生じる費用や危険性、損失、面倒をなくすることができます。また、聖徒たちは、非常に多くの兄弟姉妹をしばしばちりの中に横たえてきた苦しみと苦悩と死という事態をもつ

と効果的に回避できます。

わたしたちは上記の提案を実行するために、適当な設備のある幾つかの地点に、適切な指示を携えた信仰深く経験豊かな人々を派遣するつもりです。したがって、翌年に移住を考えている聖徒たちに、歩いて荷物を引いて平原を渡るように期待されていることと、ほかの方法ではなく〔永代移住〕基金により援助されるということを理解させてください。』<sup>1</sup>



開拓者のような信仰は、どの時代にも必要であるように、こんにち今日の世界でも必要とされています。わたしたちはその受け継ぎを知る必要があります。受け継ぎを教える必要があり、誇りに思う必要があり、守る必要があります。

1856年から1860年の間に、数千人の末日聖徒が、首尾よく手車で1,300マイル（約2,090キロ）の旅をしました。うまくゆかなかつたのは、初冬の雪を避けられないほど遅い時期に出発したウィリー手車隊とマーティン手車隊の二つの悲惨な旅だけでした。もう一度、ヤング大管長の非凡な才能に注目してください。1856年10月の総大会で、彼は、その全大会を使って、窮地に陥ったその聖徒たちを助けるために救援活動を組織しました。そして、1週もあるいは1か月も待つことなく出かけるよう兄弟たちに指示しました。次の月曜日には4頭立ての馬車を数台準備して出かけ、雪の中で苦しんで

いる聖徒たちを救援したいと思ったのです。そして、実際にそのとおりにになりました。

最初の救援隊は、次の月曜日には途上になりました。その最初の救援隊を迎えたウィリー隊の喜びの記録には、そのときの気持ちが表れています。ウィリー隊長は小規模な隊を後に残し、隊員一人を伴って救援隊を探しに出かけていました。

歴史にはこう記されています。「ウィリー隊長が出発してから3日目の夕方、野営地のすぐ西方の台地にある遠くの丘に太陽がちょうど美しく沈みかけていたところ、4頭立てのほろ幌馬車が数台、わたしたちの方に向かって来るのが見えた。その知らせは燎原の火のように野営地全体に伝わり、ベッドを出ることのできた者全員が、幌馬車を見るために一団となって外に出た。数分後には救援隊はよく見える所までやって来て、そのすぐ前にわたしたちの誠実な隊長の姿があった。歓声が空気をつんざいた。屈強な男たちも泣き、しわが寄り日焼けした頬ほおに涙がとめどなく流れた。また、小さな子供たちは喜び合い、中にはほとんど理解できない子もいたが、小躍りして喜んだ。だれも皆喜びのあまり我を忘れ、兄弟たちが野営地に入ると、姉妹たちは彼らに

飛びついてキスを浴びせた。兄弟たちは勢いに押され、しばらくの間言葉を発することができなかったが、むせび泣きながらも……感情を……表に出さないようにこらえた。しかし、間もなく、気持ちはやや収まった。これほどの握手、これほどの歓迎の言葉、またこれほどだれかに神の祝福があるようにお願い光景は、めったに目にすることがない。』<sup>2</sup>

### 堅固な家庭を築く

その勇敢な開拓者から伝統と受け継ぎがはぐくまれ、それらが堅固な家庭を築き、堅固な家庭は合衆国西部と世界のほかの地に多大

の貢献をしてきました。

わたしは数年前に、ソルトレーク・シティーの地域に4店舗の開設を発表した、ある小売会社が主催する昼食会に招かれました。わたしは小売業の経験があったので、社長と同席した折に、新しい商業圏で同時に4店舗を開設するのにどれほど勇気が必要であったか尋ねました。彼の返答はほぼわたしが期待していたとおりでした。彼の会社は合衆国内のすべての大都市圏について人口の統計調査を行ったそうです。若い家族向けのデパートを建てるのに最も顧客を見込める地域がどこかを調べたいと思ったのです。その初期の開拓者の目的地であったソルトレーク地域が、国内で第1位でした。

会社はまた、調査の結果として、ソルトレーク地域の労働者は正直で勤勉なことで注目されているということも知りました。御存じのように、その地域では開拓者の受け継ぎが明らかに第3世代、第4世代に今なお継承されているのです。

しかし、わたしは最近自分のデスクに届いた統計に衝撃を受けました。統計によれば、合衆国内で育てられている子供のうちで、父親が働き、母親が専業主婦で、子供が一人以上いるという伝統的な家庭に生まれる子供はわずか7パーセントにすぎません。<sup>3</sup> わたしたちは毎日、伝統的な家庭の崩壊が引き起こす結果を目にしています。夫に虐待される妻、身体的また性的な虐待を受ける子供、校内暴力、10代の犯罪率、未婚の10代の若者の間の妊娠、拡大家族からの慰めがなく年を取る高齢者の数が驚くほど増加しています。

預言者たちは、家庭は社会を救う場所であると論じてきました。<sup>4</sup> もちろん、若い男女が恋に落ちて結婚すればふさわしい家庭が自動的に作られるわけではありません。結婚生活がうまくいくためには、開拓者の家庭で教えられていた同じ美徳、すなわち、信仰、勇気、自制心、献身が必要です。開拓者が砂漠をばらの

ように美しくしたように、わたしたちが彼らの模範に従い、彼らの伝統を喜んで受け入れるならば、わたしたちの生活と家庭も美しく栄えることでしょう。開拓者のような信仰は、どの時代にも必要であるように、今日の世界でも必要とされています。もう一度言います。わたしたちはその受け継ぎを知る必要があります。受け継ぎを教える必要があります、誇りに思う必要があります、守る必要があります。

わたしたちは何と祝福されていることでしょう。わたしたちの知識と理解には何と責任が伴うことでしょう。アメリカの偉大なゴルファーであるアーノルド・パーマーは次のように語ったとされています。「勝つことがすべてではない。勝ちたいと望むことです。」「望むことです」とは、何とすばらしい言葉ではないでしょうか。

神が神の子供たちに下さったあらゆる<sup>たまもの</sup>賜物の中で最も大いなるもの、すなわち永遠の命の賜物を獲得したいという望みを、神がわたしたちに授けてくださいますように。神の祝福があって、わたしたちが自分の可能性を理解できますように。わたしたちが学び、成長し、自分の受け継ぎを理解する力を増し、また神の子供として授かっているそれらの大いなる賜物を守る決心ができますように。わたしは<sup>あかし</sup>厳粛に証します。神は生きておられ、イエスはキリストであられ、イエスの道はわたしたちを永遠の命に導きます。■

1980年8月3日にブリガム・ヤング大学で行われたファイヤサイドでの話から。英語の全文は、[speeches.byu.edu](http://speeches.byu.edu)をご覧ください。

#### 注

1. ブリガム・ヤングの言葉、B・H・ロバーツ、*A Comprehensive History of the Church*, 第4巻、85で引用
2. ジョン・チスレット、*A Comprehensive History of the Church*, 第4巻、93-94で引用
3. 米国人口統計局、[www.prb.org/Articles/2003/additionalFamiliesAccountforOnly7PercentofUSHouseholds.aspx](http://www.prb.org/Articles/2003/additionalFamiliesAccountforOnly7PercentofUSHouseholds.aspx) 参照。この内容が発表された1980年当時の統計は13パーセントだった。
4. 例えば、トーマス・S・モンソン「天の家——永遠の家族」『リアホナ』2006年6月号、66-71；スベンサー・W・キンボール、「Home: The Place to Save Society,」*Ensign*, 1975年1月号、3-10参照

結婚生活が  
うまくいくためには、  
開拓者の家庭で  
教えられていた  
同じ美徳、すなわち、  
信仰、勇気、自制心、  
献身が必要です。



開拓者が砂漠を  
ばらのように  
美しくしたように、  
わたしたちが彼らの  
模範に従うならば、  
わたしたちの  
生活と家庭も  
美しく栄える  
ことでしょう。

# 神と交わす 聖約を理解する

わたしたちが交わす  
最も重要な約束  
の概要



「**末**日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、神聖な約束を尊ばなければなりません。……聖約を忠実に守ることは、幸福になるための条件です。この聖約の中には、バプテスマの聖約、神権の聖約、結婚の聖約などが含まれます」と、トーマス・S・モンソン大管長は説明しています。<sup>1</sup>

教会における儀式は、神権の権能によって執行される神聖な、公式の行為です。救いに不可欠な儀式が幾つかあります。わたしたちは、これらの「救いの儀式」の一部として、神と厳粛な聖約を交わします。<sup>2</sup>

聖約は双方向の約束であり、その条件は神によって定められています。<sup>3</sup> わたしたちが聖約を交わすときに受け入れた条項を守ることに対して、神は特定の祝福を授けると約束していただきます。

わたしたちがこれらの救いの儀式を受けて関連した聖約

を守るときに、イエス・キリストの贖い<sup>あがな</sup>がわたしたちの生活の中で有効になります。そして、神が下さるすばらしい祝福——永遠の命——を受けられることができます（教義と聖約 14：7 参照）。

聖約を守ることが今の幸福と、いずれ受ける永遠の命を得るため不可欠であるので、わたしたちは天の御父に何を約束したかを理解しておくことが重要です。以下は、救いの儀式に関連する聖約とさらに詳しく学べる記事の提案の概要です。

## バプテスマと確認

権能を持つ者によって行われる水に沈めるバプテスマは、福音の中で救いにかかわる最初の儀式であり、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になるために必要なものです。バプテスマと切り離せないのが、それと対を成す確認の



儀式、すなわち聖霊の賜物を授けるための接手です。

わたしたちはバプテスマを受けるとき、イエス・キリストの名を受け、いつもイエス・キリストを覚え、イエス・キリストの戒めを守ることを聖約します。また、「最後までイエス・キリストに仕える」ことも約束します（教義と聖約 20：37。モーサヤ 18：8 - 10 も参照）。

それに対して、天の御父は、わたしたちが自分の罪を悔い改めるならば赦され（アルマ 7：14 参照）、「いつも御子の御霊を受けられる」（教義と聖約 20：77）と約束していただきます。これは幾分かは聖霊の賜物を受けることによって可能となる約束です。

バプテスマと確認の儀式は、永遠の命を求めるすべての人が入らなければならない門です（ヨハネ 3：3 - 5 参照）。バプテスマの聖約を尊ぶことは永遠の命に通じており、その途上でほかのすべての救いの儀式に関連する聖約を交わすうえで重要な要素です（2 ニーファイ 31：17 - 21 参照）。

#### バプテスマについてさらに詳しく学ぶ

ロバート・D・ヘイルズ「バプテスマの聖約——王国にあって王国のものとなる」『リアホナ』2001年1月号、6 - 9を参照してください。

#### 聖餐

バプテスマと確認の儀式を受けた人々は、毎週聖餐を受けてそれらの聖約を新たにします。パンと水を受けている間、救い主がわたしたちのために犠牲となってくださったことを思い起こします。さらに、交わした聖約について深く考えます。イエス・キリストの名を受け、いつもイエス・キリストを覚え、イエス・キリストの戒め

聖約は  
双方向の約束です。  
わたしたちが  
聖約を交わすときに  
受け入れた条項を  
守ることに対して、  
神は特定の  
祝福を授けると  
約束していただきます。

を守るという聖約です。それに対して、神は、神の御霊がいつもわたしたちとともにいると約束していただきます（教義と聖約 20：77, 79 参照）。

聖餐の儀式は、毎週神聖な聖約を更新する機会であり、これによってわたしたちは、バプテスマと確認の霊的な清めと同じ効果をもたらす救い主の贖いの恵みにあずかる者となることができます。

教会の指導者たちも、わたしたちは聖餐を受けるときに、バプテスマの聖約を更新するだけでなく、「主と交わしたすべての聖約」も更新すると教えています。<sup>4</sup>

#### 聖餐についてさらに詳しく学ぶ

ダリン・H・オークス「聖餐会と聖餐」『リアホナ』2008年11月号、17 - 20

#### 神権の誓詞と聖約

天の御父は、神権を受けたときに交わした聖約を守る人々に特定の祝福を授けるという誓詞（保証）を与えていただきます。

男性はアロン神権とメルキゼデク神権を受けるにふさわしい生活をして「自分の召しを尊んで大いなるものと」するとき、神は「御霊により清められてその体が更新され」と約束しておられます。これらの者は……モーセ、アロン、そしてアブラハムに交わされた約束の相続人となるのです（教義と聖約 84：33 - 34 参照）。

メルキゼデク神権を保持することは男性にとって神殿に参入するために必要なことです。そこで、男性と女性は結婚により豊かな神権の祝福をともに受けるのです。

神権の救いの儀式をすべて受けることに

## 質疑応答

**あ**なた、またはあなたと出会う人が、「なぜ神殿は一般に開放しないのか」と不思議に思うかもしれません。末日聖徒の神殿は、だれでも出席を歓迎される毎週の日曜礼拝には使われません。神殿では神聖な儀式が執行されるので、神殿はその儀式を受ける資格がある、バプテスマを受けた会員に対してのみ開放されています。

新しい神殿が建設された後、一般の人々は、一般公開中に神殿を見学することができます。神殿が主に奉献された後は、一般の人々はその敷地を訪れることはできますが、神殿に入れるのは有効な神殿推薦状を持つ人に限られます。

詳しくは、Mormon.org [英語]のFrequently Asked Questionsにある“Temples”を参照してください。

よって、人は皆「父が持っておられるすべて」についての約束を受けることができるのです(教義と聖約 84:35-38)。

十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はこう教えています。「この誓詞と聖約によって、世界中のふさわしい男性、女性、そして子供たちにすばらしい祝福が注がれます。」<sup>5</sup>

### 神権の誓詞と聖約についてさらに詳しく学ぶ

ヘンリー・B・アイリング「信仰と神権の誓詞と聖約」『リアホナ』2008年5月号、61-64

## エンダウメント

神殿のエンダウメントは、展望と力を備えた賜物です。

神殿のエンダウメントで、わたしたちは教えを受け、永遠の昇栄に関する聖約を交わします。エンダウメントに関連して、洗いと油注ぎの儀式、ならびに神聖な聖約を思い出させるものとして神殿ガーメントを着せられる儀式があります。<sup>6</sup> 神殿の儀式と聖約は非常に神聖であるため、神殿の外では詳しく話されません。そのため、十二使徒定員会会長のボイド・K・パッカー会長はこう助言しています。「大切なのは、これらの儀式が執行されるときには、注意深く耳を傾け、約束された祝福と約束が実現するための条件を心に留めるようにすることです。」<sup>7</sup>

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老が教えているように、反対のものに打ち勝ち教会を前進させるために神の力を受ける鍵は、「神殿で交わす聖約です。わたしたちは御父に対して従順に従い、犠牲を払い、奉献することを約束し、御父はわたしたちに『大いなるエンダウメント』をもって力を与えてくださるという約束です。」<sup>8</sup>

次の記事を研究することによって、エンダウメントで交わす聖約の背後にある原則についてさらに詳しく学ぶことができます。

- 「従順」『福音の原則』(2009年) 200-206
- M・ラッセル・バラード「犠牲の律法」『リアホナ』2002年3月号、10-20
- 「福音の律法」(教義と聖約 104:18) に関しては、教義と聖約 42章を参照してください。
- 「純潔の律法」『福音の原則』(2009年) 224-231
- D・トッド・クリストファーソン「奉献された生活についての熟考」『リアホナ』2010年11月号、16-19

### エンダウメントについてさらに詳しく学ぶ

『聖なる神殿に参入する備え』(2002年) 29-36: デビッド・A・ベドナー「名と地位を立派に維持する」『リアホナ』2009年5月号、97-100を参照してください。

## 結び固め

「神殿結婚」や「結び固め」と呼ばれる神殿儀式は、夫婦の永遠の関係を築くものであり、夫婦がともに忠実であればその関係は死を越えて続くようになります。親子の関係も現世を越えて永続するものとなり、永遠の家族関係の中で世代をつなぐことができます。

人が神殿で結婚の聖約を交わすとき、その人は神と伴侶の両方と聖約を交わします。夫婦は互いに、また神に忠実であることを約束します。二人は、昇栄、ならびにその家族関係が永遠にわたって存続できるという約束を受けます(教義と聖約 132:19-20参照)。神殿で結び固められた夫婦に生まれた子供、あるいは後に両親に結び固められた子供は、永遠の家族の一員となる権利を持ちます。

ほかの儀式の場合と同じように、地上で執行される儀式が約束の聖なる御霊によって結び固められるためには、すなわち天において有効とされるためには、その人が聖約に忠実であることが必要です。<sup>9</sup> 自分の聖約を守る人は、配偶者が聖約を守らない場合でも、結び固めで約束された祝福を失いません。



### 結び固めについてさらに詳しく学ぶ

ラッセル・M・ネルソン「先祖と愛によって結ばれる」『リアホナ』2010年5月号, 91 - 94を参照してください。

### 神聖な聖約を交わし、守る

わたしたちはこれらの重要な聖約を交わすとき、新しくかつ永遠の聖約、「すなわち……〔イエス・キリストの〕完全な福音」にあずかる者となります(教義と聖約66:2)。新しくかつ永遠の聖約とは、わたしたちが交わした「福音の聖約と義務のすべてを総括したものです」<sup>10</sup>。そして、その結果として授かる祝福には、永遠の命をはじめ、御父が持つておられるすべてが含まれます。

わたしたちは、聖約を理解して守ろうと努めるとき、聖約を守ることは単にリストにある項目を行うことではなく、救い主のようになる決意を貫くことであるということを心に留めなければなりません。

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は次のように教えています。「最後の裁きとは、善悪の行為——つまりわたしたちが何を**行ったか**——を集計して評価するだけにとどまるのではなく、行いと思いがもたらす最終的な結果——つまりわたしたちがどのような人物



聖約を守ることは  
救い主のようになる  
決意を貫くことです。

になったか——を確認することであると結論することができます。表面的な行動だけでは不十分です。福音の戒め、儀式、聖約は、天の口座に預金しておかなくてはならない行為のリストではないのです。イエス・キリストの福音は、天の御父がわたしたちに望んでおられる状態に到達する方法を示す設計図です。』<sup>11</sup> ■

### 注

1. トーマス・S・モンソン「幸福——すべての人の願い」『聖徒の道』1996年5月号, 5
2. 『手引き 第2部——教会の管理運営』(2010年) 20.1
3. ラッセル・M・ネルソン「聖約」『リアホナ』2011年11月号, 86参照
4. デルバート・L・ステイブレイ, Conference Report, 1965年10月, 14. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 561; *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 220も参照
5. ラッセル・M・ネルソン「聖約」『リアホナ』2011年11月号, 88
6. ラッセル・M・ネルソン「神殿の祝福のために備える」『リアホナ』2010年10月号, 46参照
7. ボイド・K・パッカー「神殿に参入してください」『リアホナ』2007年10月号, 16
8. ジェフリー・R・ホランド「聖約を守る——伝道に出ようとする人たちへのメッセージ」『リアホナ』2012年1月号, 50
9. 「聖霊」『真理を守る』(2004年) 131参照。教義と聖約132:7, 18 - 19, 26も参照
10. ジョセフ・フィールディング・スミス, *Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコスキー編, 全3巻(1954 - 1956年), 第1巻, 156
11. ダリン・H・オークス「主の望まれる者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 40

広 報

# 教会と地域社会を

神権指導者が  
ステークや地方部の  
広報評議会と  
一緒に働くとき、  
地域社会を強める  
助けができる  
だけでなく、  
地上に  
神の王国を築き上げる  
助けをすることが  
できるのです。



# 結びつけるもの



教会機関誌

フィリップ・M・ボルマー

**キ**ャロル・ウィット・クリステンセンは、カンザス州トピーカステーキの広報ディレクターに召されたとき、ステーキの指導者を代表して新聞記者や編集者と交流を図るという務めに「恐れと自分の力不足」を感じました。

「報道関係者と初めてコンタクトを図ろうと思ったときには、少し震えました」と彼女は振り返ります。彼女自身は大学で英語を専攻したのですが、「報道資料の書き方などはまったく分かりませんでした」と語ります。

自信を持たずにいたクリステンセン姉妹は、自分の証に頼ることにしました。また、地元に関する豊富な知識に頼り、さらに自分の召しが靈感を受けた神権指導者からもたらされたものであるという信仰に頼ることにしました。そこで、まず広報部から訓練を受けることになりました。そして、「自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するように」(教義と聖約 107:99) することから始めたのです。

彼女はまず地元の新聞の宗教欄を毎週熟読し、報道価値のある記事とはどんなものか見定めることにしたのです。そして、宗教欄の記者に電話をして、自分の最初の記事を送る前に、締め切りはいつかと問い合わせました。

「わたしは、どのような種類の小さなニュースが記事になるのか分かってきたので、教会の活動や興味深い人々、地元の新聞に載せてもよいと思われるような教会の業績などに特別な関心を払うようにしたのです」とクリステンセン姉妹は当時を振り返ります。

時間が経過するにつれて、クリステンセン姉妹はメディア向け広報担当者の役割とは、ただ単に記事になりそうな情報を提供する以上のものであることを知ります。つまり、メディアのことをよく知って、記者たちが良い仕事ができるように助けると同時に、記者たちが教会のことを理解するように助ける役割もあったのです。

ステーキのセミナープログラムに関する記事が地元の新聞に掲載されるなど、数々の成功を重ねた彼女に自信が芽生えました。そして「『<sup>くらやみ</sup>暗闇から』(教義と聖約 1:30

フォトクレジット: ショーン・ヘビッド・スターカー

参照) 教会を表に出したいという望みに火がついた」のです。それから何年かたった今、クリステンセン姉妹はなおステーキの広報ディレクターとして奉仕をしており、「あの火は今でも燃え続けていますよ」と話します。

彼女はこう説明しています。「わたしたちが広報活動で行おうとしていることの大半は、わたしたちがイエス・キリストを愛し、信じ、礼拝していることを示すことにあります。また、同じ地域に住む兄弟姉妹たちと仲良くなり、一緒に働き、その人々のために奉仕をします。そして、回復された福音と教会に対して温かい思いを抱けるよう助けます。」

世界中の神権指導者たちは、広報のスペシャリストや評議会を指導し、励まし続けています。そのために、それぞれの地域の人々と手に手を取って働き、地域社会の役に立ち、誤解を正し、教会員がイエス・キリストに従っていることを示そうと努力しています。

クリステンセン姉妹の最初の取り組みはメディア関係に向けられたものでしたが、教会広報評議会が靈感を受けた神権指導者の指示に従って行う方法は数多くあります。どれも、地域社会と神の王国を築き上げる助けになっています。

### 地域社会と政府との関係

トピーカからちょうど65マイル(105キロメートル)離れたカンザス州レネクスステーキでステーキ会長を務めるブルース・F・プライデー会長は、ステーキの広報ディレクターを務めるキャロル・デシュラー姉妹と協力して、地域社会に影響を持つ人々と良好な関係を築こうと努力しています。末日聖徒というのは「良い隣人で、地域社会に良い影響を与え、イエス・キリストに従っている人々である」という認識を人々に持ってもらうよう助けたいと願っています、とプライデー会長は語ります。

デシュラー姉妹は、ステーキ会長会やステーキのほかの広報評議会の会員と一緒に働きながら、ほかの宗教団体や地域組織と共同して、地元の市民にさらに奉仕する機会を求めています。

「地域社会の団体と一緒に働くという成功を味わうことができた理由の大半は、1対1の人間関係を作ってきたことから生まれてきたものです。」デシュラー姉妹はそう言います。例えば、ほかの教会の信者と彼女のステーキの会員と一緒に昼食を取りながら、二つの団体が共同して地域社会のために何か役に立つことができないか話し合ったことがあります。その話し合いから、それぞれの教会から3人ずつ、合わせて6人が集まり、「一緒がいい」委員会を結成して共同活動のアイデアを出すことになったのです。

この共同活動の成果として、2010年には慈善コンサートが開催され、幾つかの教会の聖歌隊が参加しました。入場料は、食料品1袋というもので、そのために地元の貧困者のための食糧保存庫が潤いました。新しく完成したばかりのステーキセンターで開催されたこのコンサートには、700人余りの地域住民が参加しました。レセプションが計画され、コンサートの前に、地域社会と宗教の指導者が交流する機会も生まれたのです。

コンサートが終わった後、ほかの4つの教会、二人の市議会議員、そして警察署長が「一緒がいい」委員会に代表を送りたいという申し出があり、現在では、月例の委員会が開かれています。コンサートは2011年にも開催されました。このときはほかの教会が主催者になり、全部で7つの教会が加わって、地元に住む約1,000人の住民が参加しました。

「参加した教会はどれもイエス・キリストに従う者として、一致して善を行おうという強い気持ちを抱いていました。」デシュラー姉妹はそう語ります。そんな気持ちは後日結実します。プライデー会長が、自宅から1,000マイル(1,600キロメートル)以上も離れた空港にいたときのことで。見知らぬ女性が近づいて来て、「一緒がいい」慈善コンサートで姿を見かけたと話しかけてきたのです。彼女もそのコンサートに参加していて、すばらしい印象を持ってくれたのです。

その女性はこう言いました。「あの慈善事業に参加して、これまでにないほど地元の人



アメリカ合衆国カンザス州  
レネクスステーキでは、  
2年にわたって  
地域のほかの教会と提携して、  
慈善コンサートを開催してきました。  
入場料は、食料品1袋で、  
その食料品は  
地元の貧困者のための  
食糧保存庫に寄付されました。  
2011年には  
地域から約1,000人の人々が  
コンサートに集まり、  
中には幾つかの教会や政府の高官も  
含まれていました。



たちに対して愛を感じました。あのコンサートを共催してくださってありがとうございました。わたし自身はほかの教会に所属していますが、わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会に対して、深い敬意と称賛の念を抱いています。」

「それこそ広報活動の目的そのものです。」 プライデー会長はそう語ります。「活動の範囲を広げ、広く目を向けてきたからこそ、わたしたちは地域全体に特別な友人をたくさん作ることができたのです。わたしたちはお互いの宗教に敬意を払っていますし、お互いに心からの愛で結ばれています。」

そのような提携関係を築き上げ、地域社会の指導者から敬意を払われるようになることが効果的なことは、東ヨーロッパでも証明されています。ウクライナ広報評議会のメディア広報担当ディレクターを務めるカチア・セルデュークは、広報宣教師や地元の神権指導者と共同して、教会と地域社会の関係の改善のために働いています。「教会について思い違いをしている人や、誤った考えを持っている人は大勢います。」セルデューク姉妹はそう言います。「神権指導者と一緒に働く広報スペシャリストとして、わたしたちはオピニオンリーダーやメディアや一般の人々に働きかけて、そうした考え方を変えてもらうよう努めています。広報活動がうまくいくようになると、影響力のある人々の中に、教会がその目的を達成するために支援しようという雰囲気生まれますし、同時に、わたしたちもそうした人々の目標の達成を支援することができるのです。」

ウクライナのジトーミルでは、数名の教会員がアレクサンデル・ミコライビッチ・ボチコフスキー市長主催のレセプションに参加し、市内の7つの学校に必要な教材や施設を提供するという教会の人道支援事業が表彰されました。また、2011年の4月と10月に市のガガーリン公園で行われた教会員の地域奉仕活動についても言及されました。こうして、ジトーミル支部のアレクサンドル・ダビドフ会長が教会を代表して、市から感謝状を受け取ったのです。

## 行事の計画

メディアや地域社会への広報活動に加えて、行事を計画したり主催したりすることで広報の機会が与えられることもあります。そう語るの最近カリブ海地域での広報伝道を終えたばかりのダニエル・マーとレベッカ・マーの二人です。

「共通の基盤を持つ活動、例えば文化行事や夕食会、奉仕活動などを通して友人を啓発するために会員の協力を得ることは、特にお互いの関係を築くうえで非常に有効



## 神権指導者へのメッセージ

「わたしたちは、世界中のステーキ会長、地方部会長、地域七十人の皆さんに、ステーキあるいは複数のステーキを対象とした広報評議会が確実に召され、訓練が行われるよう勧告します。地方部によっては、あるいは教会の発展途上地域では、最初は広報活動は小規模にとどまる

かもしれません。また、評議会も完全に組織できないまま立ち上げないといけないかもしれません。しかし、皆さんの地域の広報ディレクターが訓練の計画を立て、重要な資料を見つける手伝いをするのもできます。

皆さんが、地域社会の指導者や報道関係者、あるいはオピニオンリーダーたちと関係を築き、提携できるようになると、広報が神権の目的を達成するためのすばらしい道具になり得ることに気づくでしょう。この活動に関心を寄せることは、教会の評価を高めることにも通じるものがあります。わたしたちがイエス・キリストに従っていることを一般の人々から理解してもらう助けになるからです。」

十二使徒定員会 L・トム・ペリー長老、広報委員会委員長

です。」マー姉妹はそう言います。

しかしながら、マー兄弟は広報スペシャリストが犯す最大の過ちの一つを次のように警告しています。「それは地域社会のニーズも考えず、神権指導者と協議することもせずに、活動を計画し始めることです。」

マー長老とマー姉妹は、ステーキやワードの神権指導者とその目標を反映した年間計画を立てるときに、彼らに行事計画を最初から立ち上げてもらうのが良いと考えています。マー姉妹は、そのような年間計画を作成するときには、次に示す4つの手順を踏んで計画することにより行事を調整したらどうかと勧めています。その手順を踏むと、将来を見通したうえで成果を考えることができ、地域社会の必要や神権指導者の目標にも焦点を当てて計画することができるからです。

- 地域社会で最も必要とされていることは何か。
- この地域では、どのような問題が教会の発展に良い影響を与えるか。あるいは悪い影響を与えるか。
- この地域では何が必要なのかをともに語り、問題の解決を図ってくれる指導者はだれか。
- そのような指導者と面識を持ったり、関係を維持したりするためにはどうしたらよいか。



日本では  
2011年の大震災を受けて、  
神権指導者が  
広報スペシャリストと協力して働き、  
モルモン・ヘルピングハンズを通じて  
支援活動を促進しました。  
こうした人道支援活動について、  
ある新聞記者が  
次のように書いています。  
「モルモン教会の  
言葉を広める能力に  
匹敵するものがあるとすれば、  
それは危機に対応する能力である。」



この4つの質問に答えられれば、神権指導者と広報評議会は、マー姉妹の言う「活動のための活動」を作り出すのを避けることができます。そして、地域社会と神権指導者との間で信頼関係を作り上げられるような行事を計画し実行することができるようになります。そうした行事は、教会員と地域の住民との間に交流の場や友情を築く機会を提供することにもなります。

例えば、2010年にドミニカ共和国では、神権指導者と広報評議会それに地域の住民が協力して、「モルモン・ヘルピングハンズ」の活動に焦点を当てた行事を開催しました。マー長老とマー姉妹は、その行事に以前一緒に働いたことのある政府の高官を数名招待しました。

「各界や組織を代表する著名な方々が大勢出席してくださいました。」マー兄弟は当時を思い出して語っています。そこには、教会の地域会長会も出席しました。

「この行事は大成功でした。市長や市の組織から、様々な清掃活動を支援してもらいたいという要請も増えています。それに加えて、数多くの団体が教会に対してより良い感情を抱くようにもなりました。」

もちろん行事の計画を成功させるためには神権者の指示が必要なことは言うまでもありませんが、考慮しなければならないことは決してそれだけではありません。キャシー・マーラーはアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴの複数のステーキを対象とした広報評議会で奉仕しています。ほかの教会に集う彼女の友人がこう言ったことがあります。「末日聖徒は自分の教会主催の活動にほかの人を招待するのは上手だけれど、ほかの教会の行事のためにその教会の人と協力するのは、あまり上手じゃないわね。」

マーラー姉妹はその友人が言った言葉を今でも覚えています。「あなたがたは、ほかの人にただ来てと言うだけなの。『何か助けが必要なことはないですか』と尋ねてくれたら、すばらしいと思うわ。そう尋ねられたら、わたしたちは声をそろえて『ええ、もちろんよ』って答えるわ。」

マーラー姉妹はこう言います。ほかの人が何を必要としているかが分かれば、広報評議会は時には自分たちで行事を主催するよりも効果的にもっと地域社会を助けることも可能です。

### 緊急時の報道と危機管理

大半の広報活動は、地域社会の日常的な場面の中で行われていますが、ステーキや国、あるいは教会のある地域が緊急時に対応できるよう支援することもあります。昨年の日本がその例でした。

管理ビショップのゲーリー・E・スティーブソンビショップがアジア北地域の会長だったとき、2011年の地震で一晩のうちに、メディアの報道内容が一変した様子を見ました。「あの地震と津波のために、世界と日本全体の目が、東北地方沿岸の被災地に吸い寄せられました」と回想しています。

スティーブソンビショップは、あの被災者のために日本の人道支援やボランティア活動への「関心が非常に高まった」と言っています。それはわたしたちの教会の活動に対しても同様です。

津波のわずか数日後に、教会は被災地の教会員や教会員ではない人々に対して、必要な物資の提供を開始しました。スティーブソンビショップは「国内外のメディアは、そうした動きを逐一追いかけて始めました」と言っています。

教会では、人道支援のために250トン以上にも及ぶ物資を提供し、24,000人以上のボランティアが、延べ18万時間以上にも及ぶ奉仕活動に携わりました。こうした支援活動はしばしば地元の市町村の指導者の関心と呼ぶことになった、とスティーブソンビショップは振り返ります。クリスチャンの数が人口の2パーセントにも満たない国で、そうした指導者の中から、それほどの活動を行う教会の役割についてもっと知りたいという声が上がったのです。そのような好奇心は、ビショップによれば、是が非でも援助を必要としている人々を支援する機会だけでなく、同時に理解と

いう橋を架ける機会をも、広報スペシャリストにもたらしたのです。例えば、日本が津波に襲われた1週間後に、ある記者は次のように書いています。「モルモン教会は言葉を広める能力には優れたものがあるが、それに匹敵するものがあるとすれば、それは危機に対応する能力である。……教会は自分たちの羊の群れについてだけ関心を寄せているわけではない。」<sup>1</sup>

こうした前向きな報道が可能になったのは、長年にわたり関係を築いてきた成果でした。2010年8月からアジア北地域の広報代表として奉仕をしているコナン・グレースとシンディ・グレースは、こう言っています。「日本の広報評議会は長年にわたって国内各地の主要な政府指導者たちと一緒に働いてきました。そうして築き上げてきた友情が、地方自治体への扉を開けさせ、彼らも喜んでわたしたちの支援を受けるようになったのです。」日本の教会の広報評議会のディレクターとして夫婦で奉仕する新山靖雄長老は、その点を次のように指摘しています。「日本国政府の指導者たちでさえ、教会が効果的かつ迅速に、支援物資の提供を行えることを理解するようになってきました。」

日本の指導者たちが教会の迅速な支援に感心した例の一つを紹介しましょう。地元の神権指導者が、ある孤立した地域の学校が避難者であふれ返っている事態に気づきました。そこで、神権指導者たちは、広報評議会と地元の教会福祉マネージャーと協力して、食料やほかの救援物資を調達し、その避難所に届けたのです。この避難所には、津波で住まいを失った270人余りの被災者が避難していたのです。

避難所にいた人々は最初キリスト教会から支援物資を受け取ることに驚いていましたが、モルモン・ヘルピングハンズボランティアたちが、黄色のベストを着て、再度訪れたときには、今度は一人の子供がこう叫んだのです。「ほら、あの人たちが来たよ。今度は何を持って来てくれたのかなあ。」

支援物資を受け取った避難所の世話係の人

は、グレース夫妻にこう言いました。「あの大地震の後、最初に肉と新鮮な野菜を持って来てくださったのは、皆さんの教会です。」

グレース姉妹はこう言っています。「避難所の人たちだけでなく、困っている人たちを助けようと必死に働いてくれている神権指導者のためにも、ほんとうの意味で助け手になったのは、実にうれしいことでした。」

新山長老は、評議会の取り組みがもう一つの良い結果をもたらしたと説明しています。「教会の援助活動について、会員にも外部のオピニオンリーダーにも、その情報を伝えることが、わたしたちの広報の目的を達成するうえで非常に重要だということが分かったのです。今では教会外の人々が教会に対して抱いたイメージも向上しましたし、教会員が日本の教会の強さにもっと自信を持つようになったとも感じています。」

#### 地元の神権指導者の道具としての広報

世界に広がる組織の重要な役割の一つとして、神権指導者たちは広報評議会から恩恵を受けることができます。広報評議会は、地元の状況をよく知っており、地域社会に必要な奉仕をすることができるからです。ウクライナのセルデューク姉妹はこう語っています。「神権指導者たちが、神権の目標を達成するための手段として広報を上手に活用しているのを目にすると、実にやりがいを感じます。そのような例の一つは、モルモン・ヘルピングハンズの活動の一環として地域社会で奉仕をすることです。これは、参加した支部やワードの会員の中に一体感を生み出し、教会と地域社会との間により密接な関係を築き上げる役割も果たしています。」■

教会の広報に関するウェブサイト [publicaffairs.lds.org](http://publicaffairs.lds.org) (英語) にアクセスすると、ほかにも有益な情報が入手できます。

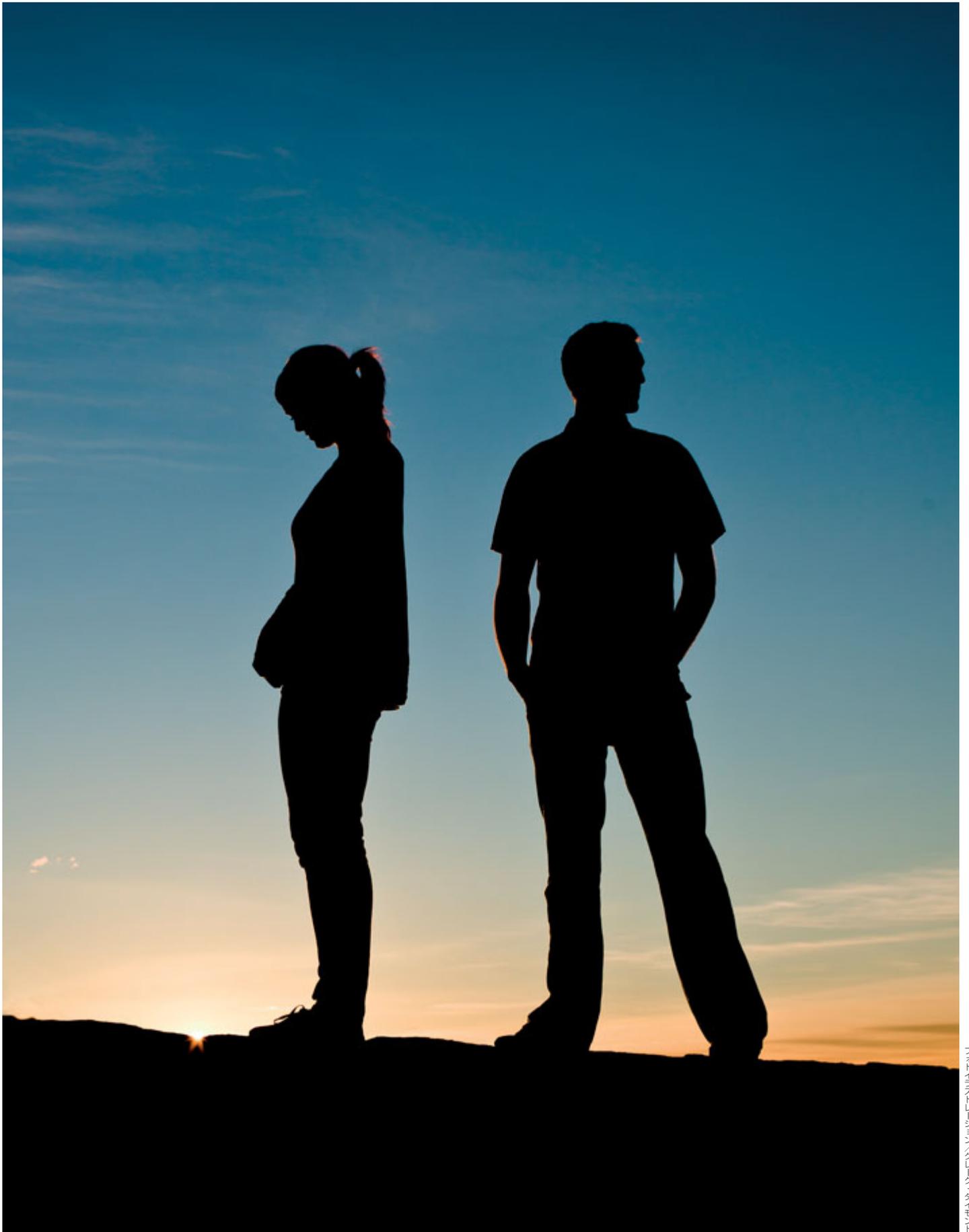
#### 注

1. カーリ・フース, "In Japan, the Mormon Network Gathers the Flock," 2011年3月18日付, NBCニュースのワールド・ブログ [http://worldblog.msnbc.msn.com/\\_news/2011/03/18/6292170-in-japan-the-mormon-network-gathers-the-flock](http://worldblog.msnbc.msn.com/_news/2011/03/18/6292170-in-japan-the-mormon-network-gathers-the-flock).

## 広報に関する 預言者の指示

以下の話は、神権指導者、広報評議会、そのほかの会員が読むと、広報がいかに地域社会を強め、神権の目的を達成する助けになるかがさらに深く理解できるようになります。

- ・ L・トム・ペリー「完全な愛は恐れを取り除く」『リアホナ』2011年11月号, 41-44
- ・ M・ラッセル・バラード「名前の大切さ」『リアホナ』2011年11月号, 79-82
- ・ M・ラッセル・バラード「信仰, 家族, 概要, 実」『リアホナ』2007年11月号, 25-27
- ・ ゴードン・B・ヒンクレー "What Are People Asking About Us?" *Ensign*, 1998年11月号, 70-72
- ・ エズラ・タフト・ベンソン「神の王国を出て行かせたまえ」『聖徒の道』1978年10月号, 46-49



フォトイラストレーション/クレク・ダイヤモンド

# 決して あきらめない

35年の時を隔ててイエス・キリストの福音に帰依した夫婦の改宗談

アル・フライとエバ・フライ

## 妻の話

**35**年間、わたしは夫が教会の会員になる日を待ち望んでいました。その長い年月に心からの祈りをたくさんささげましたが、特に忘れられない転機になった祈りが3度ありました。

アルとわたしは1959年に結婚しました。それから10年後、わたしたちは3人の子供とカナダの小さな町に住んでいました。アルは建設業を営み、わたしは専業主婦として子供の世話をしながら、時々アルの仕事を手伝っていました。週末には夫婦で友人と一緒に遊び、お酒を飲むのが常でした。父がアルコール依存症だったわたしは、飲酒が大きな部分を占めるそんなライフスタイルに嫌気がさしていましたが、それはもうわたしたちの社交スタイルになってしまっていたのです。

1969年、わたしは人生に行き詰まりを感じ、親として子供により良い生活を提供する責任があることを自覚しました。ある夜、いつもの酒宴の後に、わたしはひざまずいて祈りました。「神様、ほんとうにおられるなら、どうぞ生活を変えられるよう助けてください。」そのとき、もう二度とお酒を飲まない<sup>めい</sup>と神に約束しました。以来、約束を固く守ってきました。

それが最初の忘れられない祈りでした。そして、祈りはすぐにこたえられました。義妹の娘、つまりわたしの姪が末日聖徒の友人から初等協会に誘われ、教会についてよく知るようになった義妹が靈感を受けて、わたしのために

教会機関誌の定期購読を申し込んでくれたのです。あの最初の祈りをささげてから1か月以内に最初の機関誌が家に届きました。わたしはモルモンとは何か知りませんでした<sup>めい</sup>が、機関誌のメッセージをととても気に入り、最初から最後まで読み通しました。教会について詳しく調べてみよう<sup>めい</sup>と決心し、そこに探し求めている答えを見つけることができました。わたしは実際に生活を変え、1970年6月19日にバプテスマを受けました。

アルの願いはわたしとは違っていました。彼は前からのライフスタイルを好み、そのような生活を続けました。夫、父親、一家の大黒柱としてはそれまでどおり申し分なかったのですが、それから35年というもの、こと福音に関しては、わたしは独りきりでした。

わたしは子供を教会の教えに従って育てていましたが、数年たつと、子供は皆、日曜日にわたしと一緒に教会に出席するよりも、父親とボート遊びをする方を選んでしまいました。わたしはほんとうにがっかりしました。1975年のある日、ステーキ会長と会い、このままでは家族がばらばらになってしまうので教会を去る決心をしたと告げました。会長は辛抱強くわたしの話に耳を傾けて、こう言いました。「すべきことをしてください。ただし、天の御父の承認を得てからにしてください。」そこでわたしは家に帰り、断食して祈りました。それが2番目の忘れられない祈りです。その結果、自分が家族にとって福音の鎖の輪であるという



### 実現に向けて努力し祈る

「地上における生涯を通じて理想の家族を追及することにより、人生の基本的な目的を成し遂げるよう熱心に努めてください。たとえまだこの理想に到達していなくとも、従順と主を信じる信仰により、可能なかぎりこの理想に向かって着実に近づいていくよう全力を尽くしてください。どのようなことがあっても途中で投げ出してはなりません。……現時点で、義になかった伴侶と神殿で結び固めができなければ、実現に向けて努力してください。祈ってください。成し遂げられるという信仰を動かしてください。神殿での結び固めを実現するために必要なふさわしさを失うようなことをしないでください。永遠の結婚に対するビジョンを見失ったら、もう一度その思いを燃え立たせてください。夢の実現に忍耐を求められるのであれば、忍耐してください。わたしは、母と教会員でない父が神殿で結び固めを受けるまで、兄弟たちとともに30年間にわたってあきらめずに祈ってきました。思い悩みすぎることをないようにしてください。最善を尽くしてください。幕のこちら側でその祝福が与えられるのか、あちら側で与えられるのか、わたしたちには分かりませんが、主は約束を守ってくださいます。」

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老  
「第一のものを第一に」『リアホナ』2001年7月号、7参照

印象を答えとして受けました。わたしがその輪を切ってしまうと、家族全員が失われてしまうのです。その答えが神から与えられたと知っていたので、わたしは絶対に教会を離れないと決意し、それを守り通しました。

忠実であり続けるのは簡単ではありませんでした。しかし、信仰を保ち、アルが福音に対する気持ちを変える日を忍耐強く望み続ける助けになったことが幾つかあります。

- わたしはアルを愛し続けました。彼の世話をよくして、妻として支え、誠実であるように、最善を尽くしました。
- 絶えず祈りました。天の御父とイエス・キリストが福音における友となってくださいました。福音の標準に従って生活していないアルとの生活が難しく感じられたとき、天の御父と語り、救い主を知るようになりました。
- 欠かさず聖文を読み、『エンサイン』(Ensign)をはじめ手に入る教会の資料は何でも読みました。第3ニューファイ第13章33節と教義と聖約第75章11節の

二つの聖句が特に意義深く感じられ、強く胸を打たれました。夫と子供たちが心を変えるのを待つ間、これらの聖句のおかげで力を得、忍耐できました。

- 独りで忠実に教会に行き続けているうちに、子供は一人また一人と教会に戻って来ました。今、子供たちは皆活発です。子供が成長して家を出て行くと、また独りで教会に行き続けました。
- わたしたちはアルがそれと気づかないまま家庭の夕べをしました。夕食のとき、わたしが一つの話を持ち出し、家族で話し合うようにしたのです。
- 従順であり、正しいことを行うよう、いつも努力しました。
- 神権の祝福をお願いすることにより、さらなる力を得ました。
- 神権指導者に助言を求めました。
- 教会の友人に家族のように接しました。
- 神殿に行き、自身のエンダウメントを受けました。決断するのに何年もかかりました。そうすることでアルとの関係がより難しくなることを恐れたからです。結局、それはわたしにとって最善の決断だったことが分かりました。アルが後押ししてくれたことがうれしかっただけでなく、エンダウメントを受けた後は、神殿に行かないことをアルのせいにして反感を持つことがなくなったからです。神殿に参入したときに、祈りの名簿にしばしばアルの名前を書き込みました。

要するに、わたしは忠実な教会員として生活を続けたのです。ささいな方法を探してはアルと福音を分かち合うよう心がけました。彼がたいてい聞こうともしませんでした。そうしました。それでも、どんなことを、どんなときに、どんなふうに伝えるべきかについて、聖霊が靈感を与えてくださるということを知りました。後になって、わたしが彼に誠実で献身的だったためにアルが御霊を感じるということが時々あったと知りました。

アルが何度か宣教師から福音を聞くのを承諾してくれたこともあります。しかし、その度に彼はいつも前のライフスタイルに戻ってしまい、わたしは失望しました。でも、そんな失意のときにも、天の御父はわたしを見守り続け、それに代わる祝福を下さいました。わたしは最初からずっと、アルの中には待つだけの価値がある何かが存在することを知っていました。

アルはゆっくりと変わり始めました。まず、ののしることをやめました。飲酒もやめました。前にも増してわたしに優しくなりました。教会にも行き始めました。

そして、わたしは祈り続けました。

2005年4月、3番目の忘れられない祈りに対して信じ難い答えを受けました。わたしはアルガイエス・キリストの福音を受け入れる日がほんとうに来るのかと疑問を抱いていました。少し絶望的になっていたのです。わたしは天の御父に助けを願い求めました。ようやく機が熟したに違いありません。なぜなら、7月9日にアルがバプテスマを受けたからです。

ここまでたどり着くのは簡単ではありませんでした。けれども、信じない心を信じる心に変える驚くべき神の力を目の当たりにすることができ感謝しています。わたしは、35年にわたってささげてきた多くの祈りを主が聞いて、こたえてくださったことを知っています。主がこたえてくださったからこそ、わたしは今、すっかり変わった、わたしに負けないくらい天の御父を愛する夫と暮らしているのです。そして、わたしたちは以前よりもずっと深く愛し合っています。

教会には愛する人が教会に入ることを待ち望み、祈っている人たちがいることを知っています。そのような兄弟姉妹に、愛する人のためだけでなく、自分自身のためにも「わたしのもとに来なさい」という救い主の招きを受け入れるようお勧めします(アルマ5:34)。そうすることで、ほかの何からも得られない力を授けられるということを、わたしは経験から知っています。天の御父の近くにとどまり、戒めを守って、今ある祝福を喜ぶならば、幸せになり、主がわたしたちを通して働かれるようになります。

神がわたしたちの祈りを聞いてくださることを<sup>あかし</sup>証します。主に仕え、主の時刻表を信仰をもって受け入れることは必ずしも簡単ではありませんが、主の選ばれる時機が常に正しいということをわたしは知っています。

## 夫の話

35年間、多くの人々がわたしと福音について話し合ってくれました。妻は福音のことを話す機会を決して逃しませんでしたが、モルモン書や『エンサイン』を目につく場所にうまく置いていました。もちろんわたしは一度も手にしたことはありません。妻は何度も宣教師を招待しました。そのうち2、3組はわたしに福音を教えてくださいました。

ではわたしがバプテスマの水に入るのを妨げていたのは何だったのでしょうか。

わたしにはいつも言い訳がありました。長時間働いていたので、福音のために時間を取れるとは思えませんでした。お金を稼ぐのに忙しかったのです。エバにはこう言っていま

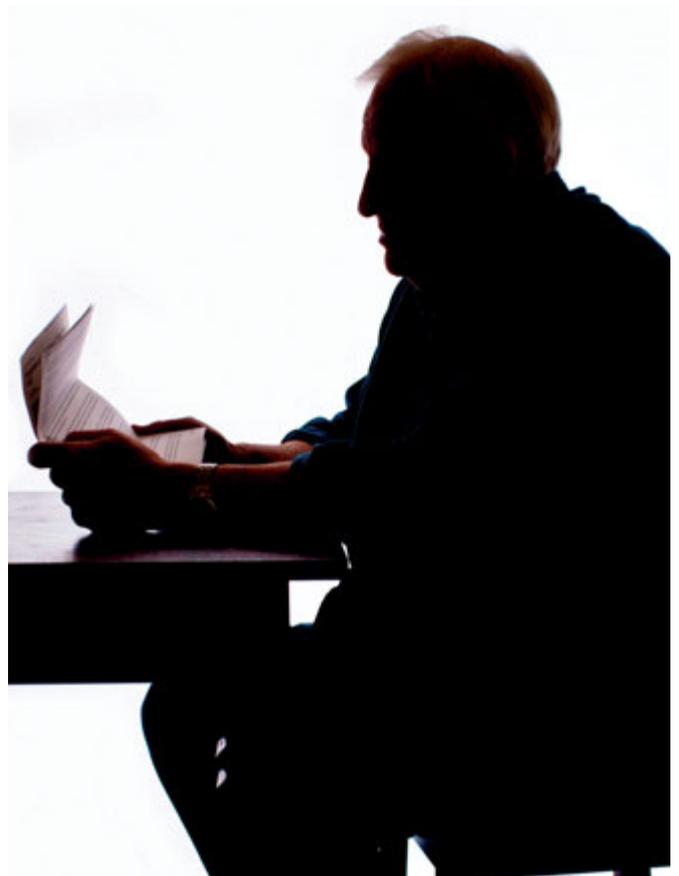
した。「いつか仕事が落ち着いて時間ができたら、モルモン書を読むよ。」

でも読むことはありませんでした。それに、もともと読むのがあまり得意ではなかったのです。聖書を読もうとしたことがありましたが、全然理解できず、それっきりやめてしまいました。

教会に入るのを妨げるものがもう一つありました。もっと深刻なことです。それは自分が送っていた罪深い生活でした。ベニヤミン王は「聖なる御霊の勧めに……従わないかぎり」「生まれながらの人は神の敵であ[る]」と教えています(モーサヤ3:19)。わたしは御霊の勧めに従いませんでした。どっちつかずの態度でいました。救い主は、「わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであ[る]」と言われました(マタイ12:30)。わたしは生き方によって主に反対していたということが今では分かります。わたしは変わる必要がありました。

わたしは福音の近くで生活していましたが、実際には

*娘の手紙を読みながら、もう言い訳はできないことを悟りました。*



福音に従って生活していませんでした。しかし、時がたつにつれて、御霊を感じ始めました。友人との遊びや飲酒をやめました。生活を変えると、御霊をもっと頻繁に感じるようになりました。改善の余地がまだまだありました。言葉遣いがあまり良くなかったですし、ほかにも悪い習慣が残っていましたが、わたしは次第に変わっていきました。

そんなある日、わたしあてに小包が届きました。娘のリンダからでした。中にはモルモン書と聖書が入っていて、多くの聖句に印が付いていました。一緒に入っていた手紙には、彼女がどれほどわたしを愛しているか、そして自分が知っていることをわたしにも知ってほしいとどれほど思っているかが書かれていました。

また、「イエス・キリストの福音が真実かどうか知る唯一の方法は誠心誠意問うことです」と書いてありました。

それからリンダは一連の聖句を分かち合ってくれ、それがわたしを祈りと聖文研究の道に導いてくれたのでした。

手紙には、「わたしが救い主と天の御父を知ることができた方法はただ一つ、祈り、御二方について聖文を読んだからです」と書いてありました。

次いで、謙遜であることがどれほど大切か、また彼女の生活に神がおられなかったら、平安を感じることはできないだろうとも書いてありました。最後に、このように結んでありました。「もう引き延ばすのはやめてください。お父さんはたくさんのものを与えられてきました。今こそ、天の御父にお返しする時です。これは真の幸福への唯一の道です。」

もう言い訳はできませんでした。仕事も楽になり、時間に余裕もありました。そこで、リンダがまとめてくれた聖句を読み、研究し始めました。すると、モルモン書を読み通したいという願望が生まれました。しかしまだ理解できないことが多々ありました。

このころには聖餐会せいさんに出席し始めていました。一緒に来て隣に座ってくれたらうれしいと妻が言ったからです。妻は教義と聖約を読むように勧めてくれました。読んでみると、モルモン書よりもよく理解できました。それから妻の助けを借りながらモルモン書を読み、聖文が生き生きと感じられるようになりました。多くの祈りを通して、御霊を強く感じ始めました。

何がわたしを変えたのでしょうか。聖なる御霊と聖文の知識です。その二つがわたしに生活を変え、神に罪ゆゑの赦しを請う勇気をくれたのです。その罪こそ、わたしを長年教会に入れないようにしていたものでした。

罪を告白するのは非常につらいことでした。それは大きな苦しみをもたらし、わたしは悲しみのあまり3日間ベッド



すばらしい幸せが訪れました。福音によって一つに結ばれているからです。

から出られませんでしたが、イエス・キリストの贖罪しよくざいを通して、わたしは赦されました。それから天の御父は、立ち上がって新たな人生に踏み出す力を下さいました。

2005年7月9日、息子のケビンがわたしにバプテスマを施してくれました。数十年前に妻に教えを伝えた宣教師の一人も出席してくれました。2年後、わたしは家族をカリフォルニア州サンディエゴ神殿に連れて行き、この世と永遠にわたる結び固めを受けました。

それからの7年間は、わたしにとって人生で最も幸福な時でした。ようやく家族の族長また霊的な指導者として、妻、子供たち、9人の孫たちと福音を分かち合えるようになったのです。このように家族が一致することで皆が霊的に強められました。娘の夫が教会に入り、伝道を終えた孫と伝道中の孫が4人います。教会員としてのわたしの新生活は奇跡と言えます。教会がこのようにすばらしい幸せと成長をもたらすとは予想もしていませんでした。

このように再出発のチャンスを得たことに心から感謝します。わたしは今感謝しつつ、かつて無為に過ごした年月を埋め合わせるように神の業に励んでいます。■

# 希望

をもって将来と向き合う

七十人  
ジョセ・A・  
ティシエラ長老



主と主の王国と家族を優先すれば、  
現在と将来の難しい問題に  
立ち向かうために必要な  
希望を得ることができます。

**20**代半ばのころ、アーナルド・テレス・グリロ兄弟と親友になりました。エンジニアだったグリロ兄弟は退職後、62歳のときに、当時のポルトガル・オエイラス地方部会長会でわたしの顧問の一人として召され、数年間ともに奉仕しました。

分別と経験に富んだ彼は、当時若い神権指導者だったわたしに大変貴重な助言をし、洞察を示してくれました。生来の楽道家で、どんな状況でも常に物事の明るい面をとらえ、素晴らしいユーモアのセンスがありました。彼の考え方は、周りにいる多くの人、特にわたしにとって素晴らしい靈感の源でした。なぜなら、わたしは彼が過去に直面した厳しい試練を知っていたからです。

グリロ兄弟は、工学を学んで卒業すると、ポルトガルの国立農業局に研究者として入局し、後にアフリカにあるポルトガル植民地の一つに赴任して、綿花に関する研究プロジェクトを指揮しました。その後、プロジェクトが縁でその国の大手国際銀行の上級管理職に就き、輝かしいキャリアを築くことになりました。ほぼ30年間をアフリカで過ごし、素晴らしい家庭を築き、



1956年当時(右)と、友人が戦火を逃れられるように譲り渡した自動車と1960年に写る(上)アーナルド・テレス・グリロ兄弟。グリロ兄弟はそれまでに働いて得たものをすべて残して帰国しなければなりません。しかし、彼は確固とした原則と、家族に対する愛と、イエス・キリストを信じる信仰をしっかりと守り通しました。



生活を楽しんでいましたが、紛争と戦争という悲劇のために、家族はあるとき突然、ポルトガルに帰国せざるを得なくなったのです。

グリロ兄弟と家族は、戦争が愛する国にもたらした悲惨な結果を身をもって体験し、それまでに働いて得た財産や所持品をすべて残して帰国したのです。

アフリカにいた最後の数か月間、戦争による混乱と騒ぎの中で平安や安定が徐々に失われていたにもかかわらず、グリロ兄弟はドイツで購入した高級車を譲り渡すことで友人を救いました。車のおかげで、友人とその母親は戦火を逃れることができたのです。

生涯勤勉に働いて得た豊かな物的財産も、グリロ兄弟の優先順位の判断を曇らすことはありませんでした。彼は確固たる原則と家族に対する愛をしっかりと守り通しました。

52歳でポルトガルに戻った彼は、すべてをゼロから始めなければならないという現実と直面しました。このような苦難と悲劇に見舞われた彼の人生を左右したのはどんなことだったのでしょうか。現在と将来について、どうしてそれほど楽観的であられたのでしょうか。なぜそれほど自信を持つことができたのでしょうか。

グリロ兄弟は、ポルトガルの教会では初期に改宗した開拓者であり、大黒柱でした。家族を連れてスイスの神殿まで往復4,500キロを数回旅し、信仰と献身を表しました。長年の奉仕を通じて、グリロ兄弟姉妹はその子供たちのみならず、多くの人に喜びをもたらしました。

グリロ兄弟の信仰の中核を成していたのは、イエス・キリストと、最後にはイエス・キリストが統治されるという知識でした。これが彼に現在と将来への希望を持たせたのです。

新約聖書の終わりには大いなる希望のメッセージが記されています。<sup>1</sup> 黙示者ヨハネなど、預言者たちは、これから起こることを見て、義にかなった生活を続けて最後まで堪え忍べば得られる祝福について述べています。

ヨハネは7つの封印のある巻き物、すなわち7つの時代を表す巻き物を見ました。そして、サタンがどのようにいつも義人に敵対してきたかも記しています(黙示5:1-5:6章参照)。しかしヨハネはまた、サタンが縛られ、キリストが勝利を収めて統治されるのを見ました(黙示19:1-9;20:1-11参照)。そして終わりに、最後の裁きを経て義人が神とともに住むのを見たのです(黙示20:12-15参照)。

今日の大きな課題の一つは、試練や誘惑に打ち勝つために、恐れや絶望感を乗り越えることを学ぶことです。ほんの短時間新聞を広げたり、インターネットを検索したり、ラジオやテレビでニュースを聞いたりするだけで、わたしたちは毎日起こっている犯罪や自然災害の痛ましい報道に直面します。

聖文には主がどのように悪に打ち勝たれ、真理がどのように過ちに打ち勝つかということに関する約束が書かれています。そうした約束を理解することにより、わたしたちは希望を持ち、楽観的に将来に向き合うことができるようになります。現代の世界には戦争や自然災害、経済危機があります。時には、遠くから眺めて済むものだけではなく、じかに影響が

ある場合もあります。

この世の財産を失ったことを嘆いたり、物質的なものに固執したりする必要はありません。なぜならば、そうしたものは人生の素朴で気高いものから得られる喜びを奪いかねないからです。

アーナルド・テレス・グリロ兄弟の模範に感謝します。彼は霊的な事柄を第一に保ちました。つまり家族関係と人への奉仕をはじめ、「終わりの時に、〔わたしたちにとって〕大いに価値のあるもの」を最優先にしたのです（2 ニーファイ 25：8）。

悪の軍勢が打ち負かされることを知っているのですから、わたしたちは皆、希望をもって将来と向き合うべきです。今日わたしたちには聖典、生ける預言者の

教え、神権の権能、神殿、そして教会員同士の支援があるので、難しい問題に直面しても楽観的な展望を持ち続けるべきです。祈りにより、わたしたちは皆「勝利者となる」べきです（教義と聖約 10：5）。そして何よりも大切なことに、主の完全な贖罪<sup>しよくざい</sup>の犠牲があるので、永遠の命について希望を持つべきです（モロナイ 7：41 参照）。

正しい優先順位を持つとき、より豊かで実り多い人生を歩むことができます。主と主の王国と家族を優先すれば、現在と将来の難しい問題に立ち向かうために必要な希望を得ることができるのです。■

注

1. 黙示 19 - 22 章参照。『新約聖書 福音の教義クラス教師用手引き』（1997 年）第 46 課も参照

こんにち  
今日わたしたちには  
聖典、  
生ける預言者の教え、  
神権の権能、神殿、  
そして教会の  
会員同士の助けが  
あるのですから、  
難しい問題に  
直面しても  
楽観的な展望を  
持ち続けるべきです。



## この文章はヘブライ語です

**数**年前に旧約聖書を読んだ後、わたしはその教え、特にイザヤ書の文章に興味を持ち、勉強を続けました。2010年に、わたしは飛行機でユダヤ教のラビの隣に座ったことがありました。わたしはイザヤ書の幾つかの文章について彼に尋ねることから会話が始まりました。会話が進むにつれて、旧約聖書の中で理解されているように、神権の権能の重要性について話し合いました。

わたしの教会の会員は神権の権能をどこから得ているのかとラビは尋ねてきました。わたしはこれを機に、ジョ

セフ・スミスの最初の示現とアロン神権とメルキゼデク神権の回復について彼に伝えました。また、モルモン書の翻訳と「イエス・キリストについてのもう一つの証<sup>あかし</sup>」としての目的について話し合いました。

ラビは興味津々でした。彼はジョセフ・スミスが最初の示現を見たとき何歳だったかと尋ねてきました。わたしがジョセフは旧約聖書のサムエルと同じくらいの年齢、つまり14歳だったと言うと、彼は多くの預言者は若いときに召されていると答えました。神が10代のジョセフ・スミスを召されるの

**わたしの教会の会員は  
神権の権能をどこから得ているのかと  
ラビは尋ねてきました。  
わたしはジョセフ・スミスの最初の示現と  
メルキゼデク神権とアロン神権の  
回復について彼に伝えました。**

はそれと一貫していると彼は言いました。

わたしは聖典を開き、一緒に三人と八人の証人の証を読みました。証人の何人かは教会を去りましたが、だれも金版を見たことを否定しなかったと彼に言いました。

「彼らは天使と金版を見た後にどうして教会を去ることができたのでしょうか」と彼は尋ねました。

「イスラエルの人々は紅海が分かれたのを目の当たりにして程なく、金の子牛を造りました」とわたしは答えました。

彼はニューファイ第一書を開き、読み始めました。しかし読むのをやめてこう言いました。「この文章はヘブライ語です。」

そして彼は文章がヘブライ語の英語翻訳であるように見えた理由を説明してくれました。わたしはモルモン書がイスラエルの部族によって書かれたものだ<sup>と</sup>彼に伝えました。そして、ユダの木とヨセフの木について語っている、エゼキエル書第37章15-20節を引用しました。わたしたちはユダの木が聖書を表すことに合意し、わたしはヨセフの木がモルモン書であることを説明しました。

3時間の会話の後、ラビはモルモン書を得ることに関心を示しました。わたしは家に帰ってから、自分の証を書いたモルモン書を彼に送りました。旧約聖書を努力して勉強してきたことが、ラビである新しい友人と聖典について話し合い、証を分かち合うための備えとなったことに感謝しています。■

デーク・バルフレイマン  
(アメリカ合衆国、ユタ州)



## まず祈りましょう

**わ**たしはステーク会長との不一致が原因で教会を去ろうとしました。彼が正しくないことをしたと感じたのです。彼の行動は、わたしが物事はこうあるべきだと思うやり方に添っていなかったのです。教会に行くのをやめました。

妻はわたしに「真剣な祈りと断食なくしてそのような決断を下してはいけないわ」と言いました。

彼女は正しかったのです。わたしがしばらく祈った後、以下の言葉がはっきりと心に浮かんできました。「神の僕は神によって召されています。」

その夜わたしは夢を見ました。その夢の中で、わたしの祖父はわたしが指導者に敵対したことをしかりつけました。そのときわたしは夢から覚めて、朝まで眠ることができませんでした。夜の間ずっと深く考えた後、わたしは何をしなければいけないのかが分かりました。わたしはステーク会長のところへ行って謝罪しました。彼は喜んでわたしの謝罪を受け入れ、わたしたちは一緒に祈りました。

すぐにわたしは教会に戻りました。2週間後わたしは会社の都合でナイジェリアの首都アブジャに転勤になりました。努力して和解したのに、なぜステークを離れることになるのか困惑し、疑問に思いました。

わたしはすぐに主がわたしを備えておられたことを知りました。アブジャに来て2か月目に、わたしは支部会長として召されました。

天の御父はわたしを指導者に召す前に、教会指導者を支持することの大切さを教えられたのだと、わたしは確信しています。この経験はわたしの



わたしがしばらく祈った後、以下の言葉がはっきりと心に浮かんできました。  
「神の僕は神によって召されています。」

証を強めました。今は指導者が神から召されていると知っているの、彼らの勧告に耳を傾けるよう精いっぱい努めています。そして、主が召される人はだれでも、その召しを受ける資格があります。<sup>1</sup>

指導者たちは人間です。靈感を受けているものの、彼らは完全ではありま

せん。もし彼らと一致できないのなら、神と神が選ばれた僕を信頼することができるよう、わたしたちは支え、励まし、彼らと自分自身のために祈る必要があることをわたしは学びました。■

マーティンズ・エニーシュ (ナイジェリア)

注

1. トーマス・S・モンソン「召しの義務」『聖徒の道』1996年7月号、52参照



あかし  
証をするつもりなのか彼に尋ねました。  
彼はそうだと行って、わたしに尋ねました。  
「あなたは？」

## あかし 証をするつもりですか？

**最**近、他州でわたしの知らない教会員と聖餐会せいさんに出席する機会がありました。隣に座っていた兄弟と会話をするために、時間が来たら証をするつもりなのか彼に尋ねました。彼はそうだと行って、わたしに尋ねました。「あなたは？」

「いいえ、たぶんしません。」とわたしは答え、またこう付け加えました「でも、教会は真実で、福音もまた真実です。」

わたしはすぐにその短い会話を忘れてしまいました。証をする時間になり、多くの人が証を分かち合う機会が持てるよう、証を短くするようにと勧められ

ました。わたしが話していた兄弟が立って証をしたとき、彼は福音とそれがもたらす幸福について、すべてを分かち合う時間がないことを認め、代わりに、さっき出会ったわたしの会話の言葉を分かち合い、わたしの簡潔な文がすべてをまとめていると話しました。つまり、教会は真実で、福音もまた真実です。それが重要なのです。

その経験について考えると、わたしたちは多くの方法で証をすることができ、少しの短い時間でも他人に良い影響を与えられることが分かります。だれかと接するとき、それがどんなに

短い時間でも、福音と自分自身の良い印象を残すことができるのです。

その日わたしは壇上で証はしませんが、わたしと話をした兄弟と彼の証を聞いた人々の両方が、わたしの短い証を分かち合い、わたしの影響を受けることになったのです。■

ラレイナ・ヒングソン  
(アメリカ合衆国、インディアナ州)

## ぼくもイエス様のひざの上に座りたい

**荷女**官が道路のわきでわたしたちの孫を保護したとき、彼はまだ4歳でした。彼は約5マイル(8キロ)離れたおばあちゃんの家に向かっているとしました。

家にいるのが辛くて、わたしのもとに逃げて来ようとしたのは2度目のことでした。次の数か月で、容易には受け入れられないと思いましたが、孫と彼の二人の妹を育てる責任がわたしの肩に降りかかってくるのだと分かってきました。

夫とわたしは福音の原則に従って子供たちを育てようと最善を尽くしましたが、彼らは結局それらの原則を拒みました。わたしは50代に入り、やっと自分が興味あることをやれるようになったと感じていました。夫が退職したら夫婦で伝道に出る目標を大切にしていました。幼稚園児を連れて買い物に行くことや、食事の時間の調整、何千回もの洗濯、そしてまたティーンエイジャーの母親になることを考えると泣けてきました。

しかしある日の午後、何かがわたしの心を変えました。ある小さな出来事によって孫の気が動転してしまったので、わたしは彼をひざの上に乗せ、涙をぬぐいました。彼を抱き締めながら、イエス様がどれだけ彼を愛しているか話しました。近くに救い主の絵が描かれた壁掛けカレンダーがあったので、わたしたちはその美しい絵を1枚ずつ見ました。

わたしの孫は特に、救い主が小さな茶色の髪の少女をひざの上に乗せ、石の戸口に座っておられる絵に興味を持ちました。その絵の中で、救い主と子供は平和の光を放っていました。

孫は近くでよく見て、女の子を指して、その子を彼の妹の名前で呼びました。

「おばあちゃん、どうしてケイティーはイエス様のひざの上に座れるの?」彼は尋ねました。「ぼくもイエス様のひざの上に座りたい!」

「今はイエス様のひざの上に座れないのよ、坊や。でもわたしのひざの上には座れるわよ。」わたしは言いました。「イエス様は小さな子供たちにおばあちゃんを与えて、必要なときに、愛して、抱き締めて、世話をしてくれるようにされたのよ。」

突然、わたしは、わたしを必要とする3人の愛する子供たちを救い主が愛してくださるように、わたしもこれから先、子供たちを愛し、受け入れていくことができると思いました。彼らもはや重荷ではなく、すばらしい祝福であり、主に仕える機会となりました。

あの午後、わたしに与えられた主の深い慈しみをわたしは永遠に感謝するでしょう。それはわたしの人生を変え、わたしたちの家庭を強め、祝福し続けています。■

匿名

*気が動転した孫を抱きながら、イエス様がどれだけ彼を愛してくださっているかを話しました。*



# 良い計画が うまく いかない とき

ステファニー・J・バーンス

将来のことを計画するのは、  
特にヤングアダルトたちにとって  
大切なことです。

しかし、最善の策だと思っていたものが  
うまくいかなかった場合、  
どのようなことが起こるのでしょうか。

**韓**国のジョン・ソンウンは、  
教員になるための試験に  
合格することができません  
でした。アメリカ・ユタ州のティナ・  
ローバーは、生涯をささげようとした  
職を失いました。アメリカ・オハイオ  
州のトッド・シュレンスカーは、結婚  
するという霊的な確信を受けました  
が、結局その婚約は破棄されました。  
イタリアのアレッシア・マッツォラーリ  
(仮名)は、ある人との完璧だと思っ  
ていた関係が終わってしまいました。

だれも「第二案」に頼ることを望ん  
でいません。しかし、わたしたちの計  
画が失敗したときも、天のお父様は御  
自分の子供たちをお見捨てにはなり  
ません。人生がうまくいくためには  
様々な良い方法があります。時に、  
わたしたちの道を塞ぎ、計画を変えさ  
せた大きな岩が、自分に必要な理解  
や経験を与え、より良いものに導いて  
くれたということに気づくかもしれま  
せん(教義と聖約122:7参照)。

## 履歴書ではなく性格を形造る

ソンウンは教師になるという長年の

夢を達成するために一生懸命勉強し  
ました。「わたしは常にすべてのこと  
に対して最善を尽くしてきたので、  
自分が望んだり祈り求めたりしたこ  
とを、ほとんどいつも得ることができ  
ました」と彼女は言います。しかし、教  
員認定試験を受けたときは、そうなり  
ませんでした。「試験に落ちたとき、  
1日ですべての夢を失ったように感じ  
ました」と彼女は語ります。

ティナは他の会社が自分の働く  
会社を買収したとき、最初は心配して  
いませんでした。新しい組織は彼女  
に長期にわたる地位を保証したので、  
胸躍る新しい仕事に大きな望みを  
持ちながら、仕事に没頭するようにな  
りました。何か月かたって解雇された  
とき、彼女は「失望し、困惑し、悲し  
み、そして怖くなった」と言います。

ソンウンとティナは、履歴書に残る  
ことだけに焦点を当てるのではなく、  
人格を形成することに焦点を当てる  
こともできると気づきました。この  
二人の女性は福音の勉強や祈りを通  
して慰めを得ました。

「使徒パウロはわたしのすばらしい

友人で、わたしが忍耐強くなり、常に  
試練に立ち向かうことができるように  
助けてくれました。彼はいつも前向き  
で、自分のために神様が用意してくだ  
さるものを喜んで待ち望み、自分の  
都合で望むことはしませんでした。

わたしは彼の経験から幾つかのこ  
とを学びました。待つという期間は、  
わたしたちが単に得たいものを得る  
ために経なければならぬ過程では  
ありません。むしろそれは変化する  
ことを通して、わたしたちが天の御父  
が求めるような人物になるための過  
程なのです」とソンウンは言います。

ティナは自分にとって最も必要な変  
化は、もの見方を変えるということ  
だと気づきました。「わたしはこの世  
的な価値観で自分の価値を測ってい  
たことに気づいて驚きました。仕事  
や地位のおかげで自分は価値のある  
人物だと思っていましたが、それらは  
取り去られてしまいました。わたしは  
今、自分が天の御父の娘であり、神様  
のような素質を持っているという永遠  
の真理の中で自分自身の価値を見つ  
けました」と彼女は振り返ります。



ティナとソウンの二人は、人格を形成することが必ずしも楽しいことばかりではないが、個人の成長によって得られる結果は良いものであるということを認めています。ソウンはこう言います。「わたしが教員認定試験に失敗した後の1年は最もつらく、落ち込んだ時期でしたが、同時に最も貴重な時期でした。わたしはほかの人たちの困難についてより良く理解することができるようになり、ほかの人々に心を配り、彼らを助けたいと強く望みました。」

モルモン書の中のアンモンや彼の同僚たちの経験からティナが学んだことは、主がいかにして彼女の信仰を強化し、能力を最大限に発揮できるようにして下さるかということです。「主の計画は、ニーファイ人が問題を解決するためにレーマン人に対して剣を使うのではなく、レーマン人を救うことでした。モーサヤの息子たちは強い信仰を必要とする試練を与えられましたが、忍耐力をもって苦難に耐えるならば、成功するという約束を受けました(アルマ 26:27 参照)。忍耐することはわたしにとって最も厳しい試練の一つです。自分に用意された計画をすべて知りたいと思ってしまうからです。しかしわたしは天の御父の計画や時はわたしたちにとって、常に最善であることを知っています。」

#### どんなことがあっても戒めを守る

トッドは伝道から戻って来たとき、輝かしい将来が目の前にありました。彼は学校で、すばらしい女性と出会いました。数か月の交際と霊的な確信を経て、トッドはプロポーズをし、彼女はそれを受け入れました。彼らは

夏の終わりに結婚式を予定し、二人とも準備のために学校から家に戻りました。

「学校で別れて3週間後に、彼女は婚約を破棄しました。悲痛という言葉ではわたしの気持ちを十分に表現することができません。わたしの中には答えを見いだせない質問がたくさんありました。まったく意味が分かりませんでした。わたしは主の宮で確信を受けたのに、今ではその関係は終わってしまいました。これほど強く証を試されたことはありませんでした」とトッドは思い出します。

彼はこう続けます。「残念なことに、別れから何年かたっても、立ち直ることができませんでした。わたしは再び確信を得てもどうやってそれを信じればよいのか分かりませんでした。わたしはいつも主を信頼し、戒めを守るために最善を尽くしてきました。すべてが無駄に思えました。」

アレッシアもある男性との関係は偶然のものではないと思っていました。「わたしたちの関係はとても良好だったので、すべてのカップルが遭遇するようなごく普通の問題はあったものの、関係が終わるとは思ってもいませんでした」と彼女は思い出します。

アレッシアのボーイフレンドが伝道に出たとき、彼女は別々でいることがつくありませんでした。それは思いがけない理由によるものでした。「彼が伝道に出ている間、わたしは自分自身をよく知るようになりました。わたしは自分の人生の中でたくさんのがまだしっかりできていないこと、また、謙遜けんそんになって現実と向き合うよりも馬鹿な考えに何度も身を任せていたことに気づきました。わたしは愛さえ



あればすべてうまくいくというおとぎ話の中で生きていました。そのせいでわたしはもっと大切なことを見逃してしまいました」と彼女は振り返ります。

それでもまだアレッシアは彼が伝道から帰って喜びの再会を果たし、関係を続けることを期待していました。しかし、彼が戻って来てからまもなくして二人は別れました。「それはわたしが覚えているかぎり、最もつらい経験でした」とアレッシアは言います。

トッドとアレッシアはそれぞれの経験の中で、人生における重要な人間関係が終わりを迎えたとしても、主への従順と忠誠を捨てることはできませんでした。周りのすべてが変化し、不確かになったとき、主は二人にとって錨いかりとなりました。

「だれかと結婚するという確信を得たのに、なぜそれが実現しなかった

かについて、すべての答えを受けたわけではありません。しかし、それはわたしにとって重要なことではないと気づきました。ほんとうに重要だったのは、わたしがイエス・キリストに対する信仰をまだ持っていて、その信仰を使って、主が自分のために用意してくださったすべてのこと信じようとしていたことだったのです」とトッドは思い起こします。

アレッシアは、主に完全に忠誠を誓うならば、自分に必要な強さが与えられることを知っていました。「自分がどのような人物になりたいかを決める時期がやって来たのだと分かりました。中途半端な人生を送るか、それともキリストの真の弟子になるための道を歩み始めようか、自分に問いました。わたしは主を深く知り、主をほんとうに愛し、主の戒めを外面的にだけでなく、心から誠実に守ることによって、



### 最善はこれからだ

「振り返るのは、燃え尽きて灰となった経験からではなく、まだ熱の残る経験から最高のものを学ぶためです。そうして必要なことを学習し、最高の経験を生かしたら、将来に目を向け、**信仰が常に将来を指し示している**ことを覚えていてください。」

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホルランド長老  
「最善はこれからだ」『リアホナ』2010年1月号, 18

より良い人物になる努力をしたいと思いました」と彼女は言います。

### 将来への希望とキリストに対する信仰を高める

予期せぬ障壁に遭ったとき、このヤングアダルトたちは4人とも現実を生き、未来について計画する勇気を得るためにもがきました。しかし彼らは主に対する信仰が強まったことに気づきました。

ソンウンは試験に落ちた後、新しいことに挑戦するのが難しくなったことを覚えています。しかし、その後重要な発見をしました。「ほんとうの失敗は、過去にこだわり、何かを成し遂げるための努力をほとんどしなくなってしまうことだと気づきました。わたしは悲しみ続けるのではなく、この困難な時期を学ぶ機会に変えようと決めました。人生を理解する能力が広がり、深められ、物事の終わりは、必ず別の物事の始まりをもたらしことを学びました。」彼女はそれから試験を再び受けて合格し、今では「毎日、生徒と楽しい時間を過ごす幸せな教師」になりました。

不確かな未来を信じることは難しいものでしたが、ティナは何か自分が待っていることを信じることにしました。「わたしは学校に再入学し、芸術と技術の分野の勉強をしました。それはわたしがかわりたいと思っていた分野でしたが、必要なスキルを持っていませんでした。今は天の御父の知恵のおかげで、新しく、今までよりずっとすばらしい冒険を始める準備ができています」と彼女は語ります。

トッドは6年間デートを続け、主に対する信仰を強めるために努力しま

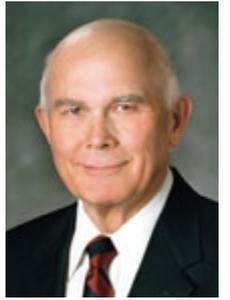
した。とてもすてきだと思った女性がいっても、彼は過去の経験からの疑念と戦い、それが将来への希望を打ち砕くことのないようにしなければなりませんでした。「6年間消えることのなかった疑念に屈しないと決意することは簡単ではありませんでした。主に対して怒ったこともありますが、主と主の促しをほんとうに信じていると自分自身に証明するために確固として努力しました」と彼は言います。新しい出会いの後、トッドは神殿結婚をしました。

「御霊<sup>みたま</sup>から来る気持ちを完全に信じるようになるまで長い間努力した後に、主が妻のようなすばらしい人をわたしに与えてくださった理由を考えることがよくあります。主はわたしたちを祝福することを待っておられるという証があります。しかし、それは主の時によって行われます」とトッドは言います。

アレッシアは再び自分を主にささげることによって、個人的な深い証を得ました。「救いの計画は自分にとって現実味を帯びたものとなり、自分の聖約はより強く、深いものになりました。キリストの贖<sup>あがな</sup>いは、もはや理論上のものではなく、それまでのように字面だけを読んで得た知識とは違うことに気づきました。心の中で変化が起こり、確かな証が芽生えました。」今では自分が新しい人になった気がする」と彼女は言います。

人生という旅においてどんな変化があったとしても、永遠の人生の目的地は天の御父が御自分の子供たちのために計画しているものです(モーセ1:39参照)。「第二案」が主の「第一案」を実現するためのものだったことに気づくことがあるかもしれません。■

このテーマについてより詳しく知りたい方は以下をご覧ください。ポイド・K・パッカー「これらの最も小さい者」『リアホナ』2004年11月号, 86-88, ロバート・D・ヘイルズ「主を待ち望む——みこころが行われますように」『リアホナ』2011年11月号, 71-74, アン・M・ディブ「雄々しくあれ」『リアホナ』2010年5月号, 114-116



十二使徒定員会  
ダリン・H・  
オークス長老

# 神権の祝福の大切さ

神権の祝福とは、  
霊的な事柄に対する力を授けることなのです。

**神** 権の祝福の中で、主の僕<sup>しもべ</sup>は、聖霊の導きのままに神権を行使し、祝福を受ける人の利益となるように天の力を呼び寄せます。そのような祝福は、メルキゼデク神権者が施すことができます。この神権はあらゆる霊的な祝福の鍵<sup>かぎ</sup>を握っています（教義と聖約107：18，67参照）。

## 神権の祝福の例

神権の祝福には様々な種類があります。これから数々の事例を挙げるに当たっては、神権の祝福はそれを必要とするだれにでも与えられますが、要請がなければ授けられないという点を心に留めてください。

病人の癒<sup>いや</sup>しの祝福は、聖典にあるように最初に油を注ぎます（ヤコブの手紙5：14－15；マルコ6：13；教義と聖約24：13－14；42：43－48；66：9参照）。祝福師の祝福は、聖任を受けた祝福師が授けます。

大切な決定を下すために導きを望んでいる人は、神権の祝福を受け

ることができます。個人的な問題を解決するために霊的な力を特別に必要としている人も、祝福を受けることができます。子供たちが何かの理由で家庭を離れるとき、例えば学業や兵役、長期の旅行の場合、父親の方から神権の祝福を申し出ることもよくあります。

以上のような状況の中で授けられる祝福は、時に「慰めと助言を与える祝福」と呼ばれます。これは普通、父親か夫、または家庭の中のそのほかの長老が授けます。この祝福は、それを受けた本人の霊的な導きとして、家族の記録に残し、保存しておくことができます。

神権への聖任や、教会の召しへの任命に関連しても、神権の祝福は授けられます。恐らくこれが、最も頻繁に施されている神権の祝福でしょう。

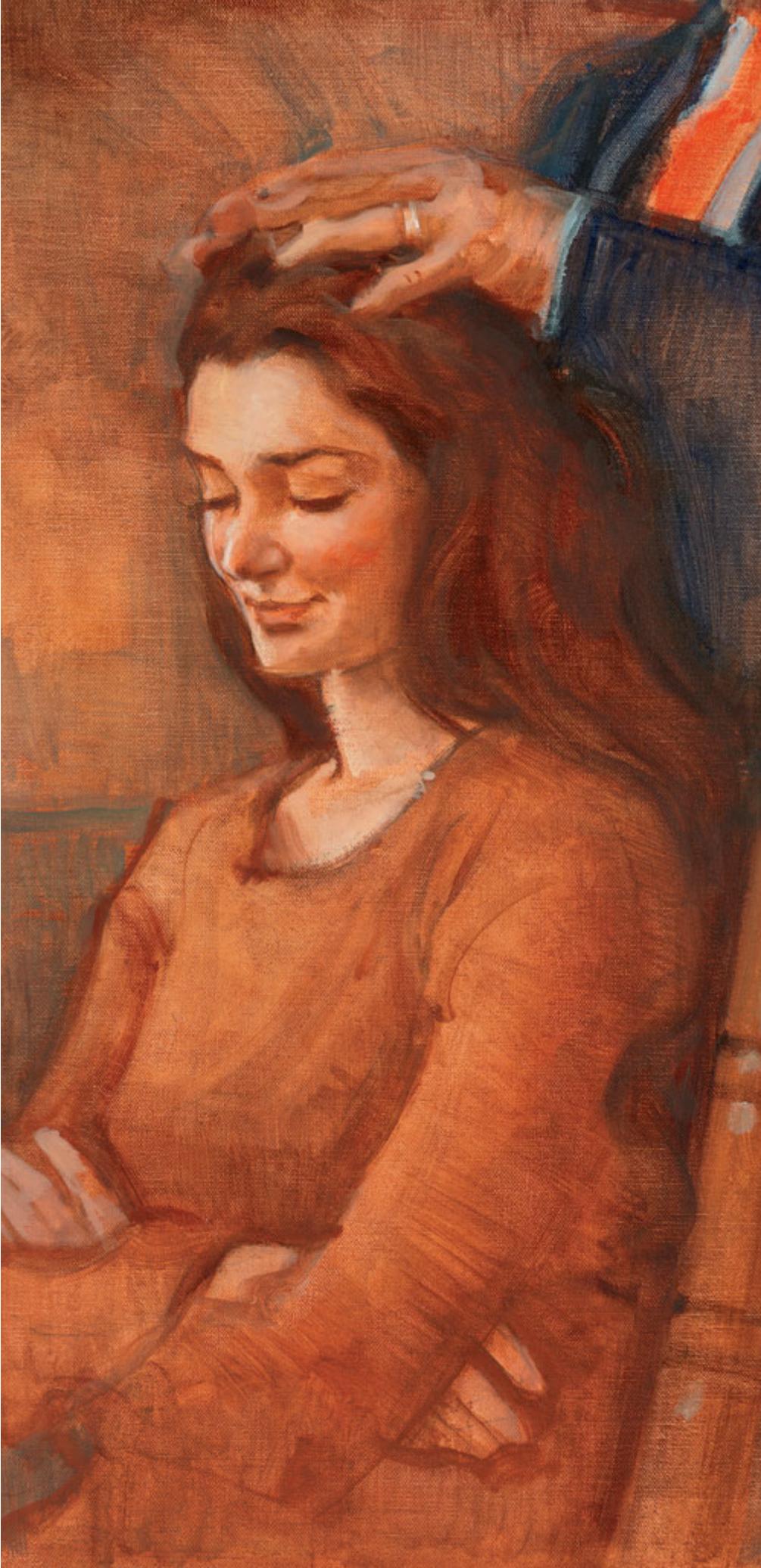
仕事のうえで大きな責任をこれから引き受けようとするときに祝福を求めた人が、わたしたちの中には大勢います。かつてわたし自身も、何年も前にそのような祝福を受け、直ちに慰

めを覚え、長い期間にわたって導きを受けることができました。

## 神権の祝福の意義

神権の祝福にはどのような意義があるのでしょうか。世の中の宝を探しに、一人の若者が家庭を離れる準備をしていると考えてみてください。もし父親がこの若者に方位磁石を与えれば、息子は自分の道を知るために、この道具を利用するでしょう。金銭を与えれば、この若者は世の物を得るために経済力を活用するでしょう。神権の祝福とは、霊的な事柄に対する力を授けることなのです。それは手で触れたり、重さを量ったりすることはできませんが、永遠の命への道に立ちふさがる障害をわたしたちが克服しようとするとき、大きな意味を持つものなのです。

神権の祝福を授ける場合、メルキゼデク神権者にとって、主に代わって語ることは、きわめて神聖な責任です。主が近代の啓示の中で述べられたように、「わたしの言葉は……成就する。



わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じ」なのです(教義と聖約1:38)。主の僕が聖霊に感じて語るとき、その言葉は「主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となり、主の声となり」ます(教義と聖約68:4)。

しかし、祝福の言葉が、聖霊の導きを受けず、単に祝福する神権者の希望や意見を述べただけであれば、祝福は主の御心と一致する場合にだけ成就することになります。

ふさわしいメルキゼデク神権者は自分の子孫に祝福を残すことができます。聖文にはその例が数多く見られます。アダムの祝福(教義と聖約107:53-57参照)、イサクの祝福(創世27:28-29, 39-40; 28:3-4; ヘブル11:20参照)、ヤコブの祝福(創世48:9-22; 49章; ヘブル11:21参照)、そしてリーハイの祝福などです(2ニーファイ1:28-32; 4章参照)。

近代の啓示の中で、教会員の両親は、その子供たちを教会員の前に

連れて来るように命じられています。そこで長老たちは、「イエス・キリストの名によって彼らに手を置き、その名によって彼らに祝福を授けなければならない」と定められています（教義と聖約 20:70）。両親が聖餐会に乳児を連れて来て、長老（通常は父親）が命名し、祝福を授けるのは、このためなのです。

神権の祝福は一人の人に与えられるだけではありません。時として何人かの集団に授けられることもあります。預言者モーセは死の直前に、すべてのイスラエルの人々を祝福しました（申命 33:1 参照）。預言者ジョセフ・スミスはカートランド神殿で働く「姉妹たちに祝福を宣言し」、「会衆」をも祝福しました。<sup>1</sup>

場所も神権の祝福の対象となります。福音を宣べ伝えるために、様々な国が祝福され、奉献されています。神殿と礼拝の家も神権の祝福によって主に奉献されます。主の業のために使用される場合は、このほかの建物も奉献されます。「教会員は自分の家を、聖なる御霊の宿る神聖な場所として……奉献できる。」<sup>2</sup> 宣教師や神権指導者は、自分を受け入れてくれた家庭に、祝福を残すことができます（アルマ 10:7-11; 教義と聖約 75:19 参照）。青少年の皆さん、皆さんもあとしばらくすれば、そのような祝福を施すように依頼されるでしょう。霊的な備えをするようにお願いします。

### 神権の祝福の経験

さらに幾つかの神権の祝福の例を挙げてみましょう。

およそ 100 年前、サラ・ヤング・バーンスは助産婦の資格を取りました。



**永遠の命への道に立ちふさがる障害を  
わたしたちが克服しようとするとき、  
大きな意味を持つものなのです。**

彼女はアリゾナ州で仕事を始める前に、ある神権指導者から祝福を受けました。彼女はその中で、「常に正しいことを行い、妊婦にとって最善の事柄を行えるように」祝福されました。45 年間にわたって、サラは 1,500 人の子供を取り上げ、母親と子供を一人も死なせることはありませんでした。「難しい問題に出遭ったときはいつでも」と彼女は思い出を語っています。「何者かが靈感を与えてくれました。そして何を行えばよいのかを知らせてくれたのです。」<sup>3</sup>

1864 年、ジョセフ・A・ヤングは、東部における教会の問題を処理するという特別な使命に召されました。父親であるブリガム・ヤング大管長は、彼が無事に旅を終えて帰って来られるように祝福しました。帰路、ジョセフ・ヤングは大きな列車事故に遭い

ました。彼は次のように伝えています。「列車全体が破壊され、わたしのいる車両の、わたしの隣の席までそれが及びました。ところがわたし自身はかすり傷一つ負わずに脱出できたのです。」<sup>4</sup>

神権の祝福について話そうとすると、様々な思い出が走馬灯のようにわたしの脳裏によみがえってきます。わたしの息子や娘たちが、人生における最も困難な時期を乗り越えられるように祝福を求めて来たのを覚えています。靈感に満ちた約束の数々と、それが実現したときに強められた信仰について思い出すと、喜びがわき上がってきます。わたしは息子のことを考えると、新しい世代の持つ信仰に誇らしい思いがします。司法試験を前にして、遠く離れた父親と会うことができないために、息子は家族の中でいちばん連絡の取りやすい神権者である義理の弟に、神権の祝福を依頼しました。混乱した若い改宗者が、自虐的な生活態度を改められるように祝福を求めてきたときのことを覚えています。この青年は普通とは違った祝福を受けました。わたし自身が自分の口をついて出た言葉を聞いて驚いてしまいました。

霊的な力を必要としているときには、神権の祝福を要請することをためらわないでください。■

1987 年 4 月の総大会説教から。

注

1. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第 2 巻, 399 で引用
2. 『手引き 第 2 部——教会の管理運営』(2010 年) 20. 11
3. レナード・J・アリントンとスーザン・A・マドセン, *Sunbonnet Sisters: True Stories of Mormon Women and Frontier Life* (1984 年), 105 参照
4. ジョセフ・A・ヤング, *Letters of Brigham Young to His Sons*, デイーン・C・ジェシー編 (1974 年), 4 で引用

あかし  
**証**

# 分かち合ってください

「あなたがたの光を掲げて、  
世の人々に輝き渡るようにしなさい。」

(3 ニーファイ 18 : 24)



# 祈りのカ

教会機関誌

ポール・バンデンバーグ

左から――

ホセリート、ジョアンナ、ローザ、ケン。

フィリピン・セブ神殿の前で。

フィリピン・セブ島の10代の若者が  
祈りの答えを受けることについて  
話しています。







## わたしが大切にしている関係

「わたしが天の御父と祈りを通して話をしない日はありません。それは、わたしにとって大切な会話の時間です。この会話がなければ、わたしは道に迷ってしまうことでしょう。このような関係を天の御父との間にまだ築いていない人は、それを築けるよう努めてください。そのように努めると、御父の靈感と導きを生活の中に受けられるようになります。」

トーマス・S・モンソン大管長  
「聖なる地に立つ」  
『リアホナ』2011年11月号、  
84

ケンがこの経験から学んだ最も大切なことは、「祈りは自分が謙遜けんそんになっているというしるしです。なぜなら、自分は弱いので強くなれるように、神様だけが助けることがおできになるということを知っているからです。」(教義と聖約 112:10 参照)

## 祈りは祝福をもたらす

時々、わたしたちは慰めや強さだけではなく、それ以上のものが必要なことがあります——時々、物質的な祝福が必要な場合もあるのです。タニア・Dは、そのようなときのことを覚えています。タニアの家族は、特に経済的に大変な時期に直面していたことがありました。「ある土曜日の晩のことでした。わたしたちには、たった40ペソ〔およそ1ドル〕しかその週に使えるお金がなく、夕食も、家のストーブで燃やす炭すらありませんでした」とタニアは話しています。「母がわたしに、これらの必要な物がすべて書かれたリストをくれました。全部買うには250ペソ必要でした。最初に買わなければいけなかったのは、夕食を作るための炭でした。」タニアは、全部を買うために十分なお金がないことが分かっていました。それから、翌日教会に行くためのバス代がないことにも気がつきました。「わたしは母に、皆で教会に行くバス代が足りないと言いました。でも母はほんとうに信仰深く、『神様が与えてくださるわ』と言うだけでした。」

店に行く途中で、わたしは泣いていました。必要な物を買うお金が足りなくて、どうしたらいいか分からなかったからです」とタニアは言っています。2枚ある20ペソ札の1枚を丸めてポケットに入れたとき、助けになるだろうと考えることができた、唯一のことをしました。お祈りをしたのです。「わたしは天の御父に、何とかしてわたしたちが必要な物を手に入れる方法が分かるように祈りました。」

しかし最初の店に着いたとき、彼女は炭の値段が5ペソから20ペソに上がっていることを知り、このように話しています。「わたしは買うのをためらいました。でも、御霊みたまがそれでも買うようにとささやいているのを感じたので、わたしは買いました。残りのお金は20ペソしかありませんでしたが、



## ビデオを見ましょう

タニアの話のビデオ(英語、ポルトガル語、スペイン語)を視聴するには、[youth.lds.org](http://youth.lds.org)に行き、2012年の青少年のテーマの項から、“Pure and Simple Faith”のビデオを検索してください。

まだたくさん買う物がありました。弟のためのおむつや、飲料水も買わなければなりません。そのために、次の店に食料品を買いに行きました。とても高い買い物でした。わたしは20ペソを入れたポケットに手を入れました。すると、丸まった20ペソのお札が5枚入っていました。店主の目の前で、わたしは泣き出してしまいました。

「結局、必要だった物を全部買うことができました。わたしたちは、次の日に教会に行くのに十分なバス代もありました。家に帰ったとき、わたしは自分の部屋に行って神様から頂いた祝福について感謝の祈りをささげました。わたしは、神様がほんとうに生きておられ、祈りにこたえてくださることを知っています。特に、最も神様を必要とするときに誠実な祈りをささげるときに、こたえてくださいます。神様はほんとうにそうした祈りにこたえてくださいます。」

## 祈りによってわたしたちは天の御父のそばに いることができる

天の御父はわたしたちの祈りを聞き、こたえてくださると確信できます。その一方で、わたしたちは、いつもすぐに祈りはこたえられるわけではなく、またいつも自分がこたえてほしいようにこたえられるわけでもないことを覚えておく必要があります。わたしたちの祈りは、神の御心みこころによりふさわしいときにこたえられます。

フィリピンのセブ島の10代の若者は一人一人、調子の良いときも悪いときも、仲間といるときも独りのときも、満潮のときも干潮のときも、天の御父がいつもわたしたちのためにいてくださることを学びました。そして、もしわたしたちが天の御父に誠実な祈りによって心に向けるならば、御父はいつも喜んでわたしたちを祝福してくださいます。■

# 約束と祈り

パブロ・ミレレス・ベッツ

**モ**ルモン書の驚くべき点は、教会員となる前から人々に大きな永遠の変化をもたらすことです。メキシコ・クエルナバカ伝道部の宣教師であったわたしはこの大きな変化を<sup>ま</sup>目の当たりにしました。

伝道に出て6か月後、支部のある会員が20歳の女性とその家族を同僚とわたしに紹介してくれました。その若い女性は、末日聖徒が何を信じているのか知らなかったのでたくさんの質問をしてきました。モルモン書が人の疑問に答えてくれる書物であることを知っていたわたしたちはモルモン書を女性に渡して、モルモン書が真実かどうか誠心誠意祈る人に対してモルモン書の中で与えられている約束について話しました。

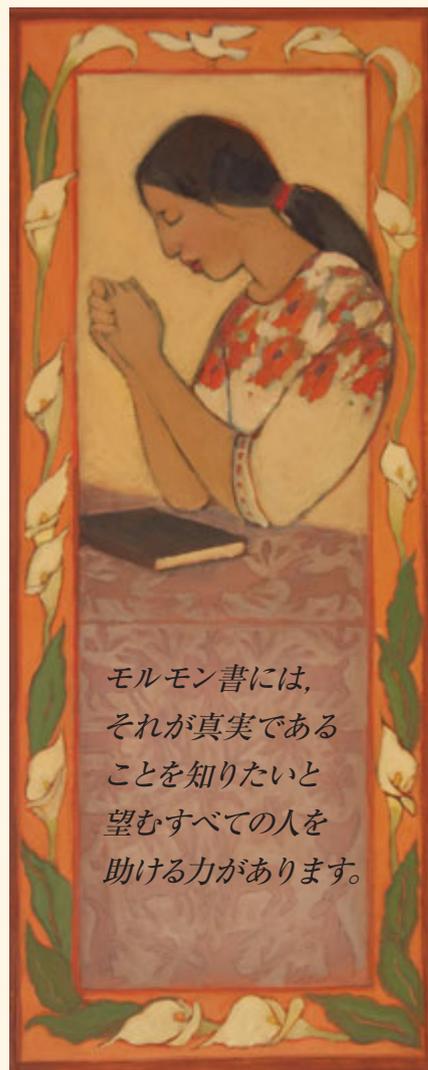
3週間にわたり、女性は教会に出席しわたしたちと会い続けました。わたしたちは、彼女がすでに大切な一歩を踏み出していたことを知りませんでした。彼女はモルモン書について祈っていたのです。あるレッスンの最中に彼女は自分の経験について話してくれました。女性はわたしたちがレッスンで話した事柄について深く考え続けていました。そして、自分で祈ってみたいと思ったので、ひざまずいてモルモン書が真実かどうかを神に尋ねました。祈った後に平安を感じ、さらにモルモン書を読み進めるよう促されました。モルモン書を読み

ながら御霊<sup>みたま</sup>に圧倒されそうになったと言います。

女性は自分の経験についてこう語りました。「自分が特別な存在だということを、これまでにないほど強く感じました。これまでわたしの心には、どうしても埋めることのできない穴がありましたが、何かその穴をふさぎ始めました。わたしはうれしくて涙が出ました。こんな気持ちになるなんて信じられませんでした。天の御父がわたしの祈りにこたえてくださったことが分かりました。また、天の御父がわたしを御存じで、わたしをとて愛しておられたために祈りに耳を傾け、こたえてくださったことも分かりました。」

女性が自分の経験について話すのを聞いて、わたしの心は喜びでいっぱいになりました。そのときに自分が聖なる地に立っていることが分かりました。聖霊は、彼女の言葉が確かに真実であるという確認をわたしに与えてくださいました。彼女の証<sup>あかし</sup>を聞いて、わたしは天の御父がわたしたちに対して抱いておられる偉大な愛を思い起こしました。天の御父はわたしたちを非常に愛しておられるので、天の御父とその真理を知る手段としてモルモン書を与えてくださいました。モルモン書に記されている原則に従うならば、わたしたちの生活は変わります。

そのレッスンの終わりの出来事を今でも覚えています。その姉妹が



モルモン書には、それが真実であることを知りたく望むすべての人を助ける力があります。

わたしたちにこう尋ねたのです。「モルモン書が真実だと分かった今、どうしたらよいですか。」

わたしたちは答えました。「バプテスマを受けてください。」

彼女の返事は短いものでしたが、その言葉には彼女の証の強さと簡潔さが表れていました。「では、バプテスマを受けます。」

モルモン書は、わたしたちが幸福と平安を見いだすうえで力となります。モルモン書を読むと、わたしたちはイエス・キリストの福音に従って生きようという決意をいっそう固くすることができます。この姉妹が救い主の模範に従ってバプテスマの水に入る決意をしたのとちょうど同じように。■

# あかし 純粋な証とは？

エリス・アレクサンドリア・ホームズ

あかし  
あなたの証は、  
自分が思うより  
強いのかも  
しれません。

**あ**なたはある証会に出席しているとします。その場にいる会員が立ち上がって証を述べるのを見て、自分も証をすべきだと感じます。でも何を話したらよいのでしょうか。壇上で涙が出てきたらどうしたらよいのでしょうか。あるいは、涙が**出なかったら**どうしましょう。次第に、自分に証があるのかどうか自信がなくなるかもしれません。あるいは自分の証が何なのか確信がなくなってしまうかもしれません。以下の指針は、証とはどのようなものであり、どのようなものでないかを知るうえで助けとなるでしょう。

**証は、真理に対する確信であり、知識であり、真理に対する信仰である**

「純粋な証」は、純粋な信仰から始まります（アルマ4：19）。証とは、あなたが信じている事柄や真実であると知っている事柄に対する霊的な確証です（教義と聖約80：4参照）。証を述べる際、**知っています、信じています、証します**などの言葉を用いるときに最も純粋に、力強く心に訴えかけます。「モルモン書が真実だと知っています」と心から言うことができるならば、人々の人生に変化をもたらす力を得、御霊を招いて人々に影響を与えることができます。



大管長会第二顧問  
ディーター・F・  
ウークトドルフ管長  
「タマスコに行く途中でとどまる」  
「リアホナ」2011年5月号, 70

## 全体像を見る

「キリストについて知りたいと熱心に求める者は結局それを見いだします。たいていはパズルのように一度に一つずつしか与えられませんが、個人的に神聖な現れを受けて主を理解するようになるのです。個々のピースは分かりにくく、全体のどこなのかははっきりしないかもしれません。どのピースも全体をもう少しははっきり見るための助けになっています。そしてある程度ピースが集まると、きちんとした全体像が見えてきます。それまでの経験を振り返ると、救い主が確かに一緒におられたことが分かるのです。一度に全部ではなく、ほんの少しずつ、知らず知らずのうちに分かるようになります。」

自分のために特別に作られたパズルのピースが詰まった大きな箱を想像してみてください。箱の前面の絵を見ながら、パズルをはめていきます。二つのピースがぴったりと合ったら、正しい位置にはまったことがわかります。証も同じようなものです。霊的な経験を重ねていくうちに、様々な証のピースがぴったりと合い始め、福音の真理を信じ、知るようになります。

現時点で教会に関するすべてのことが真実だと分からなくても、知りたいという義よしになかった望みを持ち学ぼうと真摯しんしに努力するかぎり、天の御父はあなたが知ることができるよう祝福し助けてくださいます。

### 証は個人的なものである

パズルに取り組む中で、家族や友人が時々作業を手伝ってくれることがあるかもしれません。しかし結局のところ、あなたのパズルはあなた自身が作り上げ守るものなのです。時折両親や友人の信仰に頼ることはできますが、霊的な経験を重ねるにつれ



自分自身の証を保てるようになります。

福音の中で成長するためには、自分自身の証をはぐくむことは重要です。パズルを組み立てる方法は人それぞれです。端のピースからつなげていく人もいれば、まず色を合わせていく人もいるでしょう。同様に、わたしたちはそれぞれ異なる順序で信仰をはぐくみ経験を重ねながら証を培っていくのです。



### 以下は、純粋な証に関する青少年の言葉です

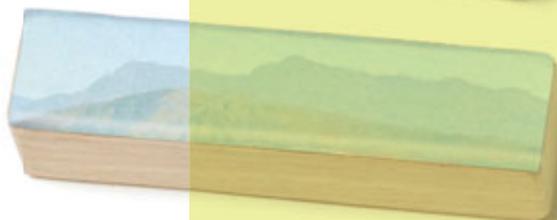
「子どものような証がとてすばらしい証となることがあります。イエス・キリストが生きておられ、天の御父が生きておられ、わたしたちを愛しておられるという証はほんとうにすばらしい証です。」——マティアス・C、アルゼンチン

「純粋な証があることはとても大切だと思います。その証を使って人々を福音のもとに導くことができるからです。」——クエード・H、オーストラリア

「証は、いちばん大きないかり錨いかりです。自分の周りで何が起きようと、強い証があるならばより良い姿勢で問題に対処することができます。」——ゼーン・V、アメリカ合衆国、カリフォルニア州

「純粋な証は、自分自身で見だし、心から信じているものでなければいけないと思います。証を伝えると、人々に影響を与え、人々の証も強めることができます。」——ザマゴマン・M、南アフリカ

TESTIMONY



何かについて確信がないのなら、導きと真理を求めて心から祈ってください。祈りは予期せぬ方法でこたえられることがよくあるので、目と心を開いて答えを待ち受けてください。

### 証は増し続ける

何も作業せずに、完成したパズルが箱から出て来ることはないのと同様に、証を一度に得ようと思うべきではありません。福音が真実であることを、1ピースずつ学んでいくのです。

強い証を保つには、絶え間ない努力が必要です。福音の知識を増そうと努力し続けるならば、聖霊はあなたの努力を祝福してくださり証は増し続けます。■

## わたしは……？

証を述べるときには出来事や経験を話さなければいけないのでしょうか。

証を述べるときに自分の話や個人的な経験を話すことがよくあります。これは、証が強まる過程を説明する良い方法です。しかし、話は証ではありません。関連のある短い話は要点を明らかにするうえで役立ちますが、その話がどのようにあなたの証を強めたか、そしてその経験からどのような福音の真理を学んだかを必ず話してください。証とは、福音についてあなたが知っている事柄であって、あなたがどこへ行き何をしたかではありません。



十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老はこのように教えています。「証とは聖霊の証を通じて、頭や心の中で真実であると知っている事柄です（教義と聖約 8：2 参照）。勧告や、奨励や、単に興味深い経験談ではなく、真理を公言するときに、その言葉が真実であることを確認なせる聖霊を招くことができます。」<sup>1</sup>

さらに、どのような経験について話すのかにも注意してください。経験の中には自分やだれかにとってきわめて個人的なものがあります。例えば、罪や悔い改め、神聖な霊的な経験などがそうです。このような話は、促しを受けないかぎり公の場で話すべきではありません。促しを受けた場合には、具体的な話をせず、出来事の詳細ではなく経験から学んだ事柄に焦点を当てて話しましょう。

### 証の中で感謝や愛の表現を用いる必要があるのでしょうか。

証をする際に愛や感謝の表現を用いることは不適切ではありませんが、これらの表現は証とは見なされません。証は、福音について霊的に学んだ事柄に焦点を当てたものです。愛や感謝の表現が証に取って代わるべきではありません。

十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は次のように語りました。「気がかりなことがあります。ほとんどの会員の証が『感謝します』『愛しています』という段階にとどまっており、『知っています』と謙遜ながらも心からはっきりと言える人があまりにも少ないのです。」<sup>2</sup>

### 本物の証をするためには、涙を流したり感情をあらわにする必要がありますか。

多くの人は、証をする際や御霊を強く感じたときに涙を流したり感情をあらわにしたりします。しかし、御霊を感じたときにすべての人に同様の情緒反応が表れるわけではありません。証をする際に他の人と同じように感情を表現する必要はありません。

ハワード・W・ハンター大管長（1907 - 1995 年）は次のように語っています。「大きな感動や涙を流す

出来事が、御霊の現れと同じように扱われているのではないかと懸念しています。確かに主の御霊は涙を流すような大きな感動をもたらすことがありますが、そのような表面的な現れを御霊の現れと混同してはなりません。」<sup>3</sup>

### 自分に証があるか自信がなくても証を述べようとするべきでしょうか。

自分の証はあまり強くない、または述べるほどの証ではないと感じてしまうことがありますが、証を述べると、自分がほんとうはどれほど強い証を抱いていたかに気づくでしょう。証を述べることを恐れないでください。証を述べれば述べるほど証が強まるのを感じてください。

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は次のように教えています。

「次のように言う宣教師は決して珍しくありません。『まだ証がないのに、どのように証したらよいのですか。どうしたら、神が生きておられ、イエスがキリストであり、福音が真実であると証できるのですか。そのような証がまだないのに、証をするなんて、不正直ではないでしょうか。』

次の原則をぜひ覚えてください。つまり、証は実際に証をしていく中で得られるものであるということです。霊にかかわる知識を求めていると、いつか、哲学者の言う『信仰の飛躍的成長』を経験する時が来ます。そのとき人は、光と闇の境目にやって来て、闇の中に足を踏み入れてみると、一、二歩先が照らされるという経験をするのです。」<sup>4</sup>

#### 注

1. デビッド・A・ベドナー  
「家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わる」  
『リアホナ』2009 年 11 月号, 19
2. M・ラッセル・バラード  
「純粋な証」『リアホナ』2004 年 11 月, 40
3. ハワード・W・ハンター  
『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』（2004 年）, 99 で引用
4. ボイド・K・パッカー  
「霊的な知識の探求」  
『リアホナ』2007 年 1 月号, 17 - 18

次のことを自問したことはありませんか。  
以下はそのような疑問に対する答えです。



# 人前で演じる

わたしは人生を演じていました。役を替えるまでは。

ブリタニー・トンプソン

10代の若者であったわたしにとって、学校は劇の舞台でした。映画の中に出て来る悪者が抜け目のない決め台詞を言い放つ姿はとてもしっかりいいものです。わたしはそんなふうになりたいと思っていました。最高の悪者のように舞台の主役になりたかったのです。わたしは学校の友人に自分を印象づけるために自分の道徳を低く見せようと思いました。不適切な言葉を使ったりだれかを笑いものにしたりするときに聞こえる笑い声が好きでした。

わたしは、観客に応援してもらえる人物になりたかったのです。そこで、どうやったら人々を引き付けられるかを考えました。生物の授業ではコメディアンを演じ、バレーボールのチームメイトからパーティー好きだと思ってもらえるように努め、純粋で世間知らずの若い女性だというわたしの評判を打ち砕きました。「友達から澄ました優等生だなんて思われたくない」と思っていたのです。

わたしは人々が思っているような深刻な罪を実際に犯していたわけではなかったため、乱暴な態度を執ってもかまわないと自分に言い聞かせてい

ました。それは間違いでした。とうとう、わたしは現実の映画作品を自分で見ていられなくなってしまったのです。自分の人気が高まれば高まるほど、自分が演じる役が嫌いになっていきました。

ある日、二人の友人がジェニファーという友人について話していました。ジェニファーは優しくて親切なスポーツ好きの女の子で、自分の信じていることを臆せず守り通す人でした。中学1年生の中で最も魅力的で、人気があり、賢い友人がこう言いました。「ジェニファーはみんなと全然違うわ。ジェニファーみたいに自分の教会を信じる勇気があればどんなにいいかしら。あんなふうにいる人はほかに見たことがない。」わたしはあ然としました。

「わたしを差し置いて何てことを言うのだろう」とわたしは思いました。「だって、わたしの教会の標準こそ高いのに。」その友人がわたしを良い模範とは思ってもいなかったことにわたしは怒りを覚えました。しかし突如、わたしは映画館の最前列で自分の人生についての映画を見ているような気持ちになりました。

これまで友人に対して悪い模範を示してきたことを反省しました。わたしを見て「彼女のように勇敢で特別な人になりたい」と思う人がどこにいらっしゃるでしょうか。自分がこんな人格になってしまったことがほんとうに嫌になりました。

人格と評判を変えるには長い時間がかかりました。みんなが喜ぶような無礼な言葉を口にせず口をつぐもうと今も努力しています。でも、だれかの感情を傷つけることなく友人を笑わせることができることに気づきましたし、下品な冗談をだれかが言っていたら部屋から出てからかいの的にならずに済むことも知りました。友達をたくさん作るために「悪者」になる必要はないのです。わたしは自分の姿勢と態度を変えました。自分の信じていることに素直に従うことは、自分がどのような人であるかを隠そうとするよりもずっと良いと信じているからです。■



# 親切なささやき

「敵を愛し、にくむ者に親切にせよ。」(ルカ 6:27)

デボラ・ムーア

実話をもとに書かれました。

「**今**日はカーソンが来ているわよ」と初等協会の部屋の近くの廊下にいる男の子を指さしながら、ジェームズのお母さんが言いました。

「ええっ？」ジェームズは不満そうです。カーソンはジーンズによれよれのシャツを着ていました。自分のお父さんやお母さんなら、あんな服を着て教会に来ることは絶対に許してくれないと分かっていました。カーソンがしているほかのことも自分のお父さんやお母さんなら見過ごすことはないでしょう。

先週学校で、カーソンは先生に口答えをして教室の外に出されてしまいました。カーソンはいつもジェームズが学校に着て来る服のことでからかったり、学校でいちばん背が低いことをばかにしたりしていました。

「カーソンがウイン姉妹を怒鳴ったり、けんかをけしかけたりしたらどうしよう」とジェームズが聞きました。

「きっと大丈夫よ。カーソンは今日初めて教会に来たんだから、たぶん緊張していると思うの」とお母さんは言いました。

クラスが始まると、ウイン姉妹はだれが聖典を持って来たかとたずねました。ジェームズはクラスのほかのみんなと一緒に手を挙げました。でもカーソンはあたまよこ頭を横にふってはさしやうにしています。ジェームズはそれを見てびっくり

しました。いつもなら宿題をやってこないときカーソンはふざけるのです。ジェームズはそのことについて考えれば考えるほど、自分がもし初めて教会に行くとしたらどんな気持ちができるんだろうと思うようになりました。

ウイン姉妹は自分の聖典をカーソンに渡しました。カーソンに聖文を読む順番が回ってきたとき、ジェームズは心配になりました。カーソンが聖典をゆかに投げつけたり、読みたくないと言ったりしたらどうしたらいいのでしょうか。

でもカーソンはそんなことはしませんでした。開いたページを見つめたまましかめつららをしていたのです。しばらくしてジェームズはカーソンが上手に読めないことに気がきました。学校ではまったく分からなかったことです。

ジェームズはどうすると思いますか。  
ジェームズはカーソンをばかにするのでしょうか。  
知らんぷりすると思いますか。  
あなたがジェームズだったらどうしますか。  
どうなったのか  
次のページをめくってみましょう。



ジェームズはカーソンのほうに体を寄せ、小さな声で「まことに」とささやきました。

カーソンはおどろいているようですが、その言葉を読んでからその先を読み続けました。カーソンがつまずくたびにジェームズが助けました。読み終わると、カーソンはジェームズの方を向いて軽く頭を下げました。

その後学校で何らかの変化が

起こるのかどうかジェームズにはわかりませんでした。おかしいことにそんなことは気にも留めませんでした。自分をいつもばかりにしている子を助けられただけで良い気分でした。そしてだれもその気持ちをうばい取ることはできませんでした。■



**あ**る日、わたしと友達<sup>たち</sup>が運動場<sup>うんどうじょう</sup>でゲーム<sup>ゲーム</sup>をしているともう一人の女の子<sup>おんなこ</sup>が入<sup>はい</sup>ってきました。その子はほかの子をいじめたり、意地悪<sup>いじめ</sup>を

したりすることで知られていました。その子がゲームのルールを変えようとするので、わたしはこう言いました。「あなたは自分のすきなようにしていいけど、わたしたちはわたしたちのやり方で遊ぶわ。」するとその子のがっかりして行ってしまいました。その後、自分がその子に言ったことについて考えてみたとき、わたしはその子の気持ちを傷つけてしまったと思いました。後でその子を見つけるとわたしはこう言いました。「ごめんね、わたしたちと一緒に遊んじゃいけないという意味じゃないから。」するとその子は平気よと言いました。その子とわたしたちは友達じゃないかもしれないけれど、その子に優しくしてあげることでイエス様がわたしにしてほしいと望んでおられることをしたと思います。

レーガン・K, 9才, (アメリカ合衆国, ユタ州)

こんな言葉をかけてみたら  
どうでしょうか





じゅうにしとていんかい  
十二使徒定員会の

L・トム・

ちやうろう  
ペリー長老は

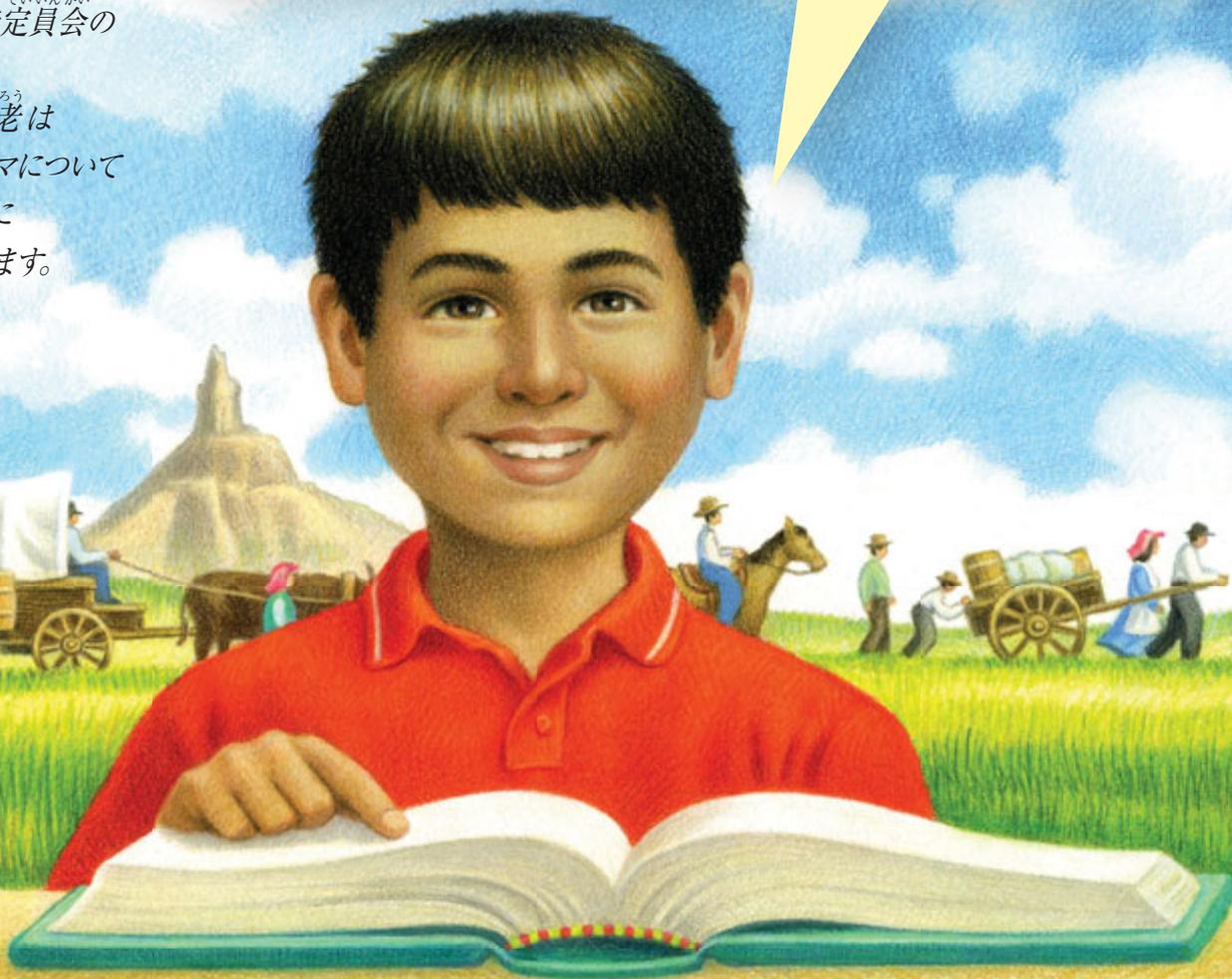
このテーマについて

つぎ  
次のように

はな  
話しています。

むかしはいたくしゃよひと い じだい  
昔開拓者と呼ばれる人たちが生きていた時代がありました。

なにか  
かれらから何を  
まな  
学ぶことができるでしょうか？



7 がつ 24 日、ソルトレイク 盆  
ち 地では開拓者がこの地に  
とうちやく 到着したことを記念して

いわ  
お祝いします。

開拓者たちは家や仕事、農場、愛  
する家族さえも後に残して、荒野の  
へ旅立ちました。

かいたくしゃ  
広大な平原をわたりながら開拓者

うた たの  
たちはおどりや歌を楽しみました。  
とてつもなく大きな試練に立ち向か  
うために、自分たちの心やれいを奮  
た  
立たせるためでした。

やま うつく しゃかい つく あ  
山あいに美しい社会を作り上げる  
ために、開拓者たちは神と指導者を  
しん 信じる固い信仰を持って働きました。

けだか こころざし かい  
気高い志をもった開たく者たちは、

しんこう ゆうき そうい くふう  
信仰と勇気と創意工夫というすばら  
しい遺産をわたしたちに残してくれ  
たのです。■

「将来に立ち向かうために過去に取られた方法」  
『リアホナ』2009年11月号、74。「深い意味のある  
お祝い」『エンサイン』1987年11月号、70、72から

絵：マイケル・ローレンス

# 歴史を作る

きょうかい きかんし  
教会機関誌

チャド・E・ファレス

**ソ**ーマ、エスタ、そしてカタ・Bはハンガリーのブダペストに住んでいます。ここは歴史豊かな王宮や王族、美しい芸術、そして数々の建造物がある町です。子供たちは学校で自分の住んでいる

まち れきし まな  
町の歴史を学びますが、それとは別の  
きょうかい れきし まな  
教会歴史について学ぶことにも興味  
をも  
を持ってしています。

「ジョセフ・スミスがおいのりをして、  
てん とうさま さま まえ  
天のお父様とイエス様がジョセフの前に

すがた、あらわ  
み姿を現されたときのことを学ぶのが  
好きです」と7才のエスタは言います。

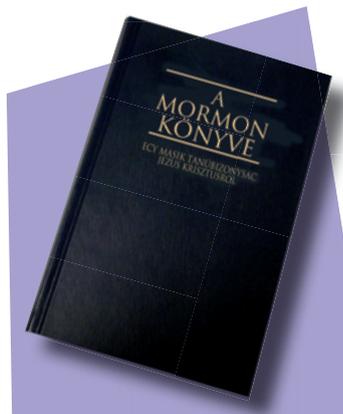
10才のソーマはアルマのむすこのアルマについて読むのが好きです。「始めは悪い人でしたが、後で善い人になる道を選ぶようになったところが好きです。」

ジョセフ・スミスやアルマのむすこのアルマのことを知っている人はブダペストにはあまりたくさんはいません。でも、ソーマとエスタと5才のカタは良い模範を示し、正しいことを選ぶことで、この国に住むもっとたくさんの人が教会について知るようになるというなど思っています。■





エスタの好きな科目は図工です。

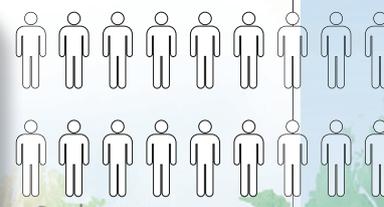


ハンガリー語のモルモン書は1991年に出版されました。



ソーマは家の近くを自転車で走るのが好きです。

ハンガリーでは  
およそ2,200人に1人が  
教会員です。



ドイツ・フライベルク神殿は  
ブダペストにいちばん近い神殿で、  
ブダペストから560キロくらい  
はなれた所にあります。



# わたしは ふくいんの げんそくを まもって 生活することで せいぎを えらびます



左—絵／ポール・マン。下—絵／リチャード・ハル © 51 右—絵／フランシス・ピーン

**い**つ 家に 帰れるか 分か  
らないまま でんどうに  
出ることを そうぞうできま  
すか。 どのような 気持ちに なるで  
しょうか。 じゅんびするために 何を  
したら よいでしょ。

モーサヤ王の 4人の むすこ  
アンモン、アロン、オムナー、それに  
ヒムナイと 友だちであった アルマは  
14年間も でんどうしました。モーサ  
ヤの むすこたちは みな 自分の  
国の 王さまに なることが できた  
はずです。でも、そのかわりに 自分  
の 気持ちに したがいでんどうに  
出たのです。4人の むすここと アルマ  
は イエス・キリストの ふくいんを  
うけいれました。そして、自分たちの  
てきである レーマン人にも ふくいん

を 分かち合いたいと 思ったのです。

この わかものたちは かみさまの  
力が なければ、自分たちの でんどう  
を せいこうさせる ことは できない  
と 知っていました。アルマ書 だい  
17しょう2せつから 3せつには どの  
ようにして この 力を うけたかにつ  
いて 書かれています。「かみの こと  
ばを 知るために せいぶんを ねっし  
んに しらべて きたので、すでに し  
んりを ふかく 知るようになっ  
ていた。……かれらは しばしば いのり、  
また だんじきも したので、よげんの  
れいと けいじの れいを うけてい  
た。そして、教えるときには、かみの  
力と けんのを もって 教えた。」

この わかものたちにとって、だんじき  
と いのりは かみさまからの しゆくふ

くを うけるのに 大きな たすけに  
なりました。アルマと モーサヤの  
むすこたちのように 天の お父さまが  
あなたのために よういして くださっ  
ている しゆくふくを うけるために  
あなたも だんじきをし、いのることが  
できます。■



## うた 歌と せいぐ

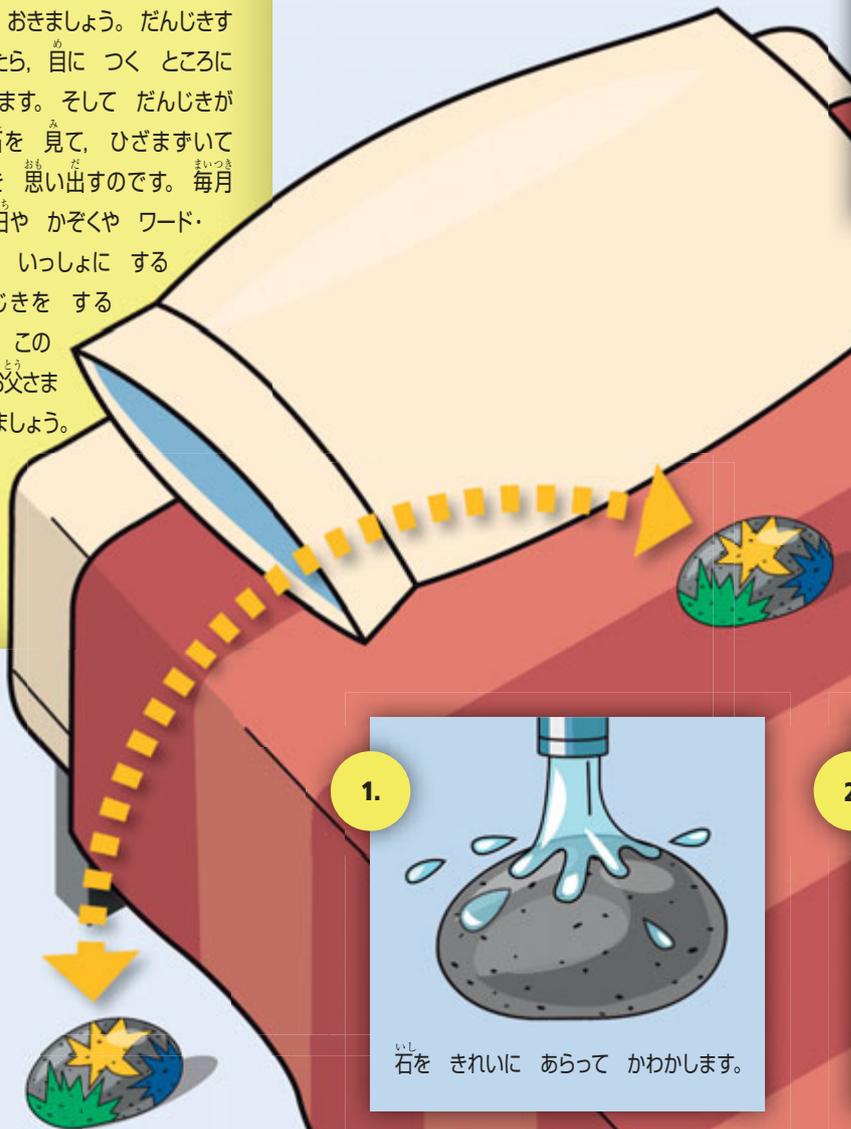
- 「かしこい人と おろかもの」  
『子供の歌集』132
- 1ニーファイ3:16

かつどう

天のお父さまに おいのりをして、だんじきする りゆうを お話するのを わすれないように するために、色を めった きれいな石を まくらもとに おきましょう。だんじきする前に おいのりしたら、目につく ところに石を おいて おきます。そして だんじきがおわたら この石を 見て、ひざますいて おいのりすることを 思い出すのです。毎月 だんじき あんそく日や かぞくや ワード・しぶの かいいんと いっしょにする とくべつな だんじきをする 日には、わすれずに この石を 見て、天のお父さまに おいのりを しましょう。

ひつよなもの——

ひょうめんが なめらかな 石  
 アクリル絵のぐか フェルトペン  
 絵ふで



1.



石を きれいに あらって かわかします。

2.



紙ざらか こうこくの 紙に  
 絵のぐを 少し 出します。

3.



絵ふでか フェルトペンで  
 石に 色を めります。  
 石に 名前を書いたり、自分の すきな  
 もようや 形を 書いても よいでしょう。

4.



絵のぐや フェルトペンの インクが  
 かんぜんにかわいてから  
 目につく ところに  
 石を おいて おきましょう。

CTRゲーム——

いのりと だんじき

だんじきの はじめと おわりに いのることの 大切さについて かぞくで 話し合ひましょう。こんど かぞくが だんじき するとき、だんじきする もくてきについて 話し合ひましょう。だんじきをする 前に おいのりをして、あなたが だんじきをする りゆうを 天のお父さまに お話ししましょう。



いんだ」とトーマスが小さな声で言いました。

「分かった、それじゃあ、お父さんが助けてあげよう。あかしてというのは、ね、自分がほんとうだと分かっていることや信じていることをみんなに話すことなんだよ。聖文を読むのが好きだってことを話すのはどうだい。聖文を読むといつもみたまを感じるよね」とお父さんが言いました。

けれどもトーマスはまだ話す気になれません。みんながトーマスの方を見て、どうするのか待っている様子でした。「できないよ、ぼく、あかして何だかまだよく分からないんだ。」首をふりながらトーマスはそう答えました。

するとお父さんはトーマスのうでをぼんぼんとたたいて「分かった、じゃあ今度にしようね」と言ってくれました。

その夜、トーマスはモルモン書を手にしてベッドの上で座りました。お父さんの言うとおりにお祈りしました。聖文を読むたびにいつも確かに良い気持ちができるからです。トーマスは毎

日1章ずつ読むことにしていました。が、このごろ一つ一つの章がとても長くなってきました。ニーファイ第一書第17章を開いたトーマスは、こうつぶやきました。

「うわー、長いなあ。」そこで天のお父様に助けてくださるように短いお祈りをしました。するとおどろいたことに、あつという間に時間が過ぎていったのです。

ちょうど電気を消そうとしていたところに、お父さんがおやすみを言いながらやって来ました。

「ねえ、お父さん、聞いて！」

「どうしたんだい」

「毎日読む分が長くなってきたから、1週間全然モルモン書を読んでいなかったんだけど、今晩は読みたくなったのでお祈りをしたんだ。そしたら天のお父様が助けてくださったよ。1章全部読んだんだけど、5分ぐらいにしか感じられなかった。お祈りってすごいね。」

「トーマス、今自分が何を言ったか分

かっているかい。あかしをしたんだよ。」お父さんはほほえみながらそう言いました。

「ほんとう？ それどういうこと？」とトーマスがたずねました。

「おいのりが助けになったと話すということは、おいのりについてあかしをするってということなんだよ。」

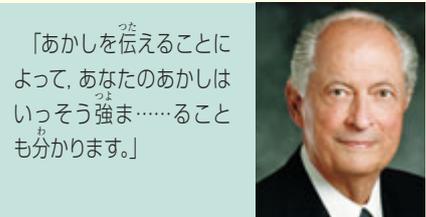
トーマスはおどろいて思わず口をぽかんと開けてしまいました。今までいろいろな人からあかしについて教えてもらったことを思い出しました。ついに自分もあかしすることができたのです。

トーマスはうれしくて思わず笑いたい気分でした。トーマスはお父さんにだきついてこう言いました。

「わあ、やったあ！お父さん、来週の家庭の夕べであかしてもいい？ぼくの番じゃないの分かっているけど、おいのりについて話したいんだ。」

「それはすごくいい考えだね」とお父さんが言いました。

お父さんが部屋を出た後、トーマスはその日あったことを思い返してみました。家族や聖文、おいのり、そのほかにも感謝することがたくさんあります。特にその日はあかしが得られたことをとても感謝しました。トーマスはあかしとは何か、またどのように分かち合えばよいか分かったのです。



「あかしを伝えることによって、あなたのあかしはいつそう強ま……ることも分かります。」

十二使徒定員会  
ロバート・D・ヘイルズ長老  
「個人のあかしを得る」  
『聖徒の道』1995年1月号, 24

# あかしを強める

**あ**かしは美しい植物に似て  
います。少しずつ成長して  
いきますが、手入れをし、  
守っていくことが必要です。この絵の  
植物がいきいきとあざやかに見える  
ようにするために、下の指示に従って  
ください。

人は何かが真実だと分かったとき、  
それが真実であるというあかしを得  
ます。聖霊は、あなたが心で真理を  
理解できるように助けてくださいます。  
そして、平安や幸せ、光、温かい気持  
ちをあたえてくださるのです。以下の  
文を読んで、それが真実だと分かる  
たびに、このページにかかれた花に  
一つずつ色をぬってください。

- 神様は、わたしの愛する天のおん父です。
- 天のおん父は、わたしのいのりを聞き、それにこたえてくださいます。
- イエス・キリストのあがないのおかげで、わたしはいつの日か再び天のおん父と住むことができます。
- ジョセフ・スミスは地上に福音を回復しました。
- 今日わたしたちには生ける預言者がいます。
- 聖文を読むと、天のおん父がわたしに何を知ってほしいと思っておられるかがわかります。

植物が水と光を受けて生長するよ  
うに、よい選択をするときにあかしは  
強められます。下にあかしを強める方  
法がしょうかいされています。今月  
あかしを強めるのに役立つことをした  
ら、その都度この絵にかかれた葉に  
色をぬってください。

- 天のおん父にいのる。
- 家庭の夕べや初等協会であかしを述べる。
- 聖文を読む。
- 初等協会や聖さん会で話をよく聞いて、そこから学ぶ。
- 日記にあかしを書く。
- 人に親切にする。
- あかしについての預言者の説教を読む。(最初に、『リアホナ』2009年3月号にのっているヘンリー・B・アイリング管長の「まことの教会」を読むとよい。) ■

# わたしたちのページ



アリーナ・A, 7才 (ウクライナ)



「わたしの かぞく」,  
ルカス・O, 5才 (ブラジル)



「神殿」,  
シェルリヤン・P,  
10才 (サモア)



マレーシアに住む12才のユージーン・Yは、おじいさんとしょうぎを打つのが好きです。時間があるときに、友達とバスケットボールやバドミントンをするのも好きです。新しく友達を作ったり、中国の音楽を聞いたりするのも大好きです。



主が生きておられ、わたしたちを愛してくださっていることを知っています

わたしたちは毎晩家族で聖文を読み、イエス・キリストの教えを学んでいます。教会指導者が総大会で聖文を使って話をする時、わたしたちにはその教えがよく分かります。その前に家族で学んでいるからです。毎日聖文を学ぶことはとても大切だと思えます。わたしたちは天のお父様の子供で、天のお父様が生きておられることを知っています。また、天のお父様とイエス・キリストがわたしたちを愛してくださっていることも知っています。

トマス・A, 8才; アロン・A, 6才; セシリア・A, 10才  
(アルゼンチン)



もくひょうを たてる (これから したいと 思うことを きめる) のが すきです

わたしは イエス・キリストの 絵の ついた まくらを 作りました。まくら作りは 前から したいと 思っていました。バプテスマを うけることが できて かんしゃしています。わたしは ノートに もくひょう (これから したいこと) を 書くのが すきです。わたしは 何でも やってみることが すきなので、お母さんを見て いつも 同じように しています。

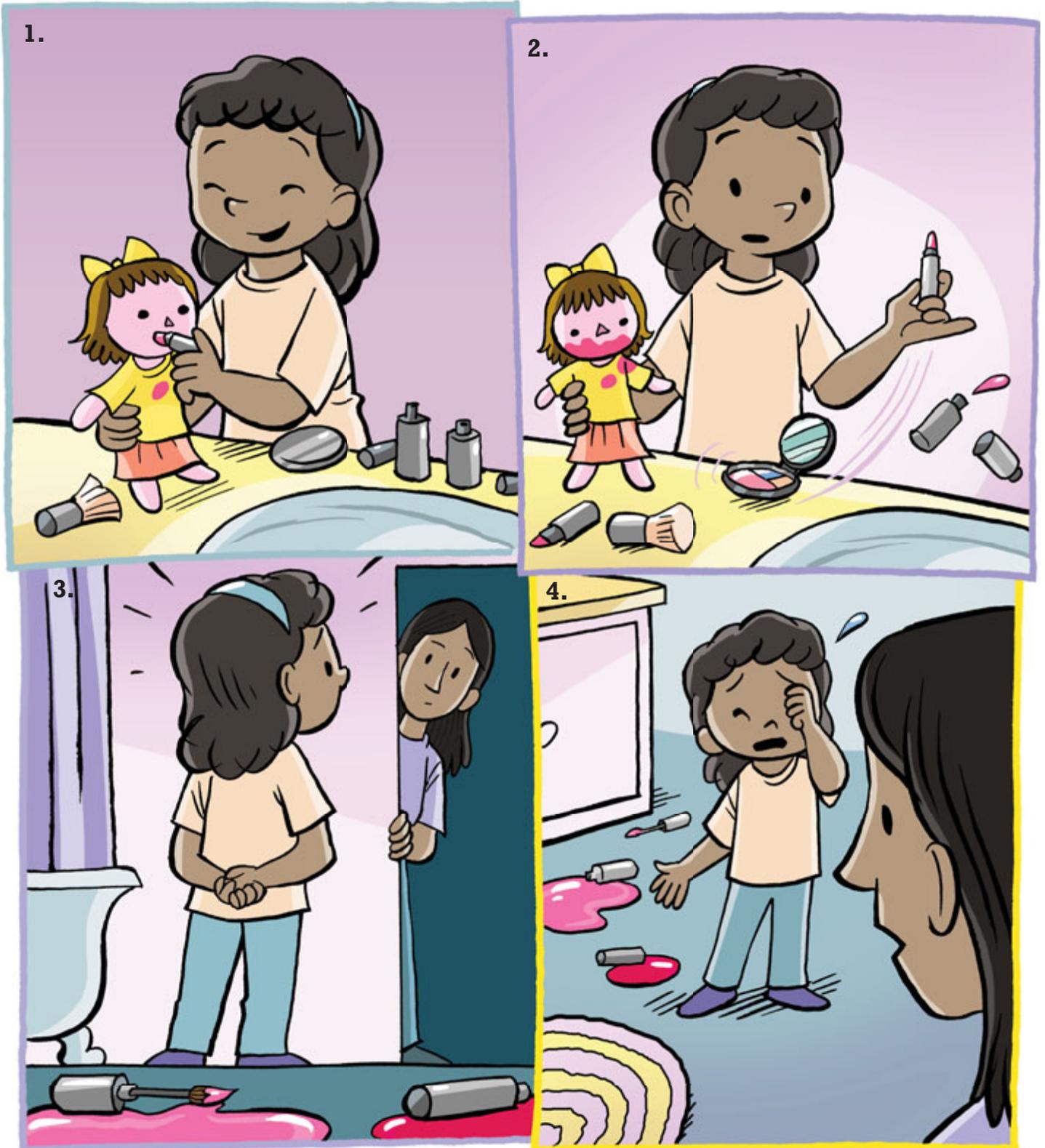
ミリアム・C, 8才 (メキシコ)

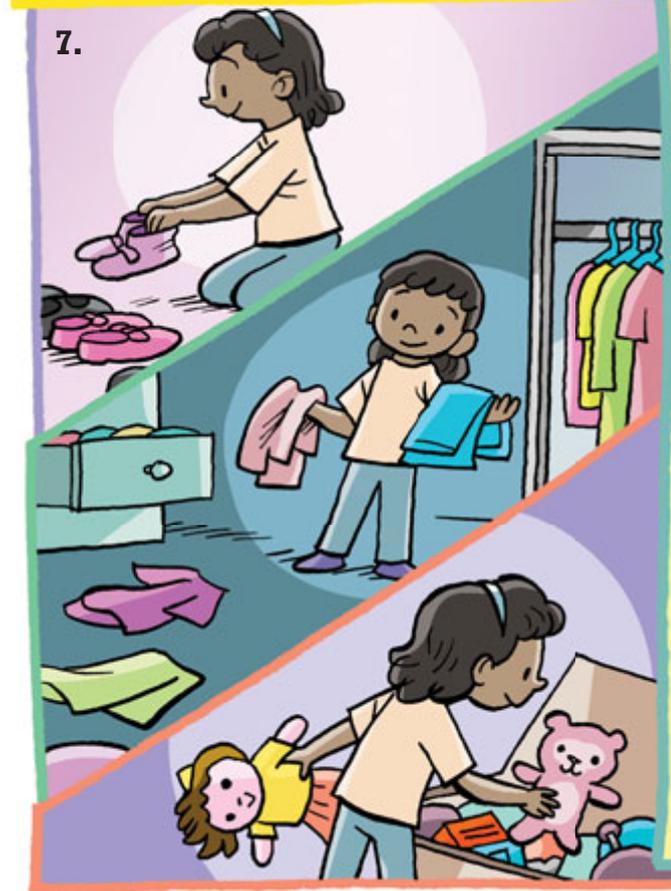


# まちがったことをしてしまった ケルシー

ジェーン・マクブライド・チョート  
じつわを もとに 書かれました。

「わたしたちは、<sup>しょう</sup>正じき[で]あるべきこと……をしんじる。」(しんこうかじょう1:13)





# まちがいから <sup>まな</sup>学ぶこと

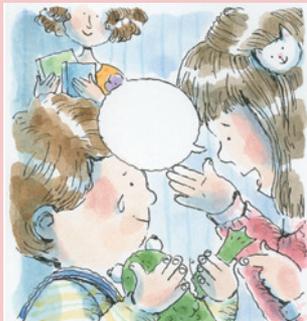
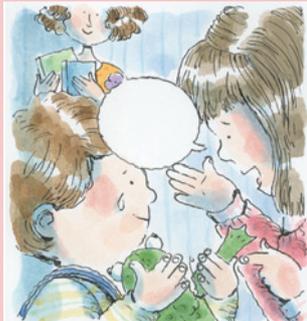
ダーシー・ジェンセン

**ケ**ルシーのように ときどき わたしたちは まちがったことを してしまいます。そのとき ごめんなさい という 気持ち を <sup>おこな</sup>行いに あらわすことが できます。<sup>した</sup>下の 絵を 見て、ほかとは ちがうものに まるをつけましょう。

1. わるいことを したと みとめる。



2. 「ごめんなさい」と言って あやまる。



3. 二度と しないと やくそくする。



4. まちがいを あらためるために いっしょうけんめいに どりよくする。



# しょうじきになる

この絵にある子はしょうじきです。この絵の中から、ボール、ろうそく、けいたいでんわ、とけい、クッキー、犬、にんぎょう、はね、えんぴつ、パイ、せいてん、スプーンを見つけ出してください。



# 教会のニュース

教会のニュースおよび出来事についてもっとお知りになりたい方は [news.lds.org](http://news.lds.org) にアクセスしてください。

## 新伝道部会長が着任

今

年初めに教会は110人の新しい伝道部会長の名前を発表した。その多くは今月、夫人とともに2年から3年の務めを開始する。

伝道部	新伝道部会長
アルゼンチン・バヒアブランカ	マヌエル・パレーノ
アルゼンチン・ネウケン	ポール・R・ラベル
オーストラリア・アデレード	ブラッドリー・D・カーター
オーストラリア・パース	R・ブルース・リンゼイ
オーストラリア・シドニー	フィリップ・F・ハウス
ベルギー / オランダ	アルデン・C・ロビンソン
ブラジル・ベレン	ホセ・C・シッシ
ブラジル・ペロオリゾンテ	パッション・F・フォルトウナート
ブラジル・カンピナス	カーロス・E・ペロッティ
ブラジル・クイアバ	キース・R・リーパー
ブラジル・ポルトアレグレ北	D・レイン・ライト
ブラジル・ポルトアレグレ南	パルメニオ・C・カストロ
ブラジル・サルバドール南	マルセロ・アンドレッソ
ブラジル・サンパウロ東	ロナルド・A・フェリン
ブラジル・テレジナ	アルバシール・L・シードシュラグ
ブルガリア・ソフィア	マイケル・S・ウィルステッド
カリフォルニア州 オークランド / サンフランシスコ	デビッド・N・ウィードマン
カリフォルニア州サンフェルナンド	ケネス・T・ハル
カリフォルニア州サンタローザ	ルネ・R・アルバ
カンボジア・プノンベン	デビッド・C・ムーン
カナダ・カルガリー	ハワード・ニコラス
カナダ・ハリファックス	ブライアン・リービット
カナダ・ウィニペグ	カーク・M・トーマス
チリ・サンティアゴ東	デビッド・L・ライト
チリ・ピニャ・デル・マール	フレデリコ・M・ケーンライン
中国 <sup>ホンコン</sup> ・香港	パル・D・ホークス
コロンビア・ボゴタ北	マーク・F・アンデルン
コロンビア・ボゴタ南	レトピン・ロザノ
コロンビア・メデリン	ロベルト・O・ピターチ

伝道部	新伝道部会長
コスタリカ・サンホセ	チャド・R・ウィルキンソン
コンゴ民主共和国・ルブンバシ	フィリップ・W・マクマリン
デンマーク・コペンハーゲン	ショーン・D・ゼーデルホルム
ドミニカ共和国・サンティアゴ	ジョン・ダグラス
イギリス・バーミンガム	R・クレイグ・ラスムッセン
イギリス・ロンドン	デビッド・J・ジョーダン
イギリス・ロンドン南	ロジャー・C・ミラー
フランス・リヨン	ブレイク・M・ロニー
ジョージア州アトランタ	ジョン・R・ハーディング
ドイツ・ベルリン	ヘンリー・W・コサック
ガーナ・クマシ	レオン・A・ホルムズ
ギリシャ・アテネ	エリック・B・フリーストン
ハイチ・ポルトープランス	ヒューバート・ピエン・エイメ
ホンジュラス・コマヤグア	カンデイド・フォーチュナ
ハンガリー・ブダペスト	ローウェル・V・スミス
アイダホ州ボカテロ	マービン・T・プリンカーホフ
イリノイ州シカゴ	ジェリー・D・フェン
インド・ニューデリー	ピーター・E・サックレー
日本・福岡	C・サミュエル・グスタフソン
日本・東京	L・タッド・バッジ
韓国・ソウル	ブレント・J・クリステンセン
マダガスカル・アンタナナリボ	デビッド・R・アダムス
メリーランド州ボルチモア	マーク・L・リチャーズ
マサチューセッツ州ボストン	ダニエル・W・バックカード
メキシコ・クエルナバカ	ブルース・C・クッシュ
メキシコ・グアダハラ	G・ウェスレー・ワグナー
メキシコ・グアダハラ東	ルイス・F・カマリロ
メキシコ・エルモシージョ	アルベルト・E・エルナンデス
メキシコ・メキシコシティ南	ロベルト・バラデス
メキシコ・モンテレー西	エドワード・M・スワップ
メキシコ・プエブラ北	ラルフ・N・クリステンセン
メキシコ・タンピコ	ラルフ・B・ジョーダン三世
メキシコ・ハラバ	パウロ・ロベス
ミシシッピ州ジャクソン	マーク・J・マクドナー
モンタナ州ビリングズ	クリス・J・メカム

## 新設された伝道部

変化する必要に対応するため、教会は8つの新しい伝道部を設立し、また伝道部の統合も行った。

コロンビア・バランキジャ伝道部とコロンビア・カリ伝道部の分割によって**コロンビア・メデリン伝道部**が新設される。

ガーナ・アクラ伝道部とガーナ・ケープコースト伝道部の分割によって**ガーナ・クマシ伝道部**が新設される。

メキシコ・ベラクルス伝道部の分割により**メキシコ・ハラパ伝道部**が新設される。

メキシコ・プエブラ伝道部が分割されて**メキシコ・プエブラ北伝道部**と**メキシコ・プエブラ南伝道部**が新設される。

パプアニューギニア・ポートモレスビー伝道部とフィジー・スバ伝道部の分割によって**バヌアトゥ・ポートビラ伝道部**が新設される。

ユタ州ソルトレーク・シティー伝道部、ユタ州ソルトレーク・シティー南伝道部、ユタ州オグデン伝道部を再編成して、**ユタ州ソルトレーク・**

**シティー西伝道部**と**ユタ州ソルトレーク・シティー中央伝道部**が新設された。

ネバダ州ラスベガス伝道部とネバダ州ラスベガス西伝道部を再編成して、**ネバダ州リノ伝道部**が新設される。

**ロシア・モスクワ西伝道部**は近隣のバルト諸国伝道部、ロシア・ノボシビルスク伝道部、およびロシア・モスクワ伝道部に分割・吸収される。

これらの変更は伝道部の指導者の交代に伴って7月に行われる。伝道部の数は計347になる。

新たに新設された伝道部の場所を知るには、[ldschurchnews.com/articles/62067/New-missions-created.html](http://ldschurchnews.com/articles/62067/New-missions-created.html)にアクセスしてください。■

伝道部	新伝道部会長
モザンビーク・マプト	パウロ・V・クレットリー
ネブラスカ州オマハ	マイケル・D・ウェストン
ネバダ州リノ	デビッド・N・ハーマンセン
ニューメキシコ州ファーマントン	ドイル・L・バット
ニューヨーク州ニューヨーク北	トーマス・B・モーガン
ニューヨーク州ニューヨーク南	ケビン・E・カルダーウッド
ニューヨーク州ユティカ	ジョセフ・B・ワースリン, ジュニア
ナイジェリア・カリバー	ジョン・E・コシン
ノースカロライナ州シャーロット	ロナルド・L・クレブフン
ノースカロライナ州ローリー	マーク・A・バーンヒゼル
ノルウェー・オスロ	ドン・A・エバンス
オハイオ州クリーブランド	マイケル・L・ベリンガ
オクラホマ州タルサ	スコット・K・シャムウェー
パプアニューギニア・ポートモレスビー	スリアシ・ベア・カウフシ
パラグアイ・アスンシオン	P・デビッド・アガッツァーニ
ペルー・リマ中央	アラン・M・ボルグ
ペルー・リマ南	ショーン・ダグラス
ペルー・ピウラ	チャド・A・ローリー
フィリピン・バコロド	マーロ・O・ロペス
フィリピン・バギオ	ウィリアム・J・モナハン
フィリピン・ラオアグ	ジュリアス・ジョナ・F・バリエントス
ポルトガル・リスボン	ステファン・L・フラッキガー
ロシア・ロストフナドヌー	ウィリアム・H・ブローズ

伝道部	新伝道部会長
ロシア・ウラジオストック	グレゴリー・S・プリントン
スコットランド / アイルランド	アラン・H・ブラウン
シンガポール	ブラッドリー・S・メインズ
サウスダコタ州ラピッドシティ	カーティス・E・アンダーソン
スペイン・バルセロナ	マーク・L・パーチェ
スペイン・マドリッド	スコット・T・ジャクソン
スペイン・マラガ	モンテ・M・ディア・ジュニア
台湾・台北	デビッド・O・テイ
テキサス州ヒューストン南	ブライアン・K・アシュトン
タイ・バンコク	デビッド・M・シニア
ウクライナ・ドニエプロペトロフスク	J・ロバート・バン・ブルゲン
ウルグアイ・モンテビデオ	デビッド・K・アームストロング
ユタ州オグデン	マウリス・D・ヒアーズ・ジュニア
ユタ州プロボ	ジョン・A・マッキューン
ユタ州ソルトレーク・シティー中央	リチャード・W・モファット
ユタ州ソルトレーク・シティー西	アール・S・スウェイン
バヌアトゥ・ポートビラ	ラリー・E・ブルワー
ベネズエラ・バルセロナ	フアン・C・チャシン
ベネズエラ・マラカイボ	フアン・F・ソリジャ
ワシントン D.C. 南	マシュー・L・リッグス
ワシントン州スポケーン	ドナルド・E・ミューレン
西インド諸島	ダニエル・S・マール2世
ジンバブエ・ハラール	ブライソン・C・クック



ダリン・H・オークス長老と、仙台で宣教師として働いたクリスティン夫人、  
2011年3月の悲惨な津波と地震以後日本でなされてきた復旧状況を視察する。

## オークス長老、地震から1年後の日本を視察

地震とそれによって生じた津波が日本を襲ってからおよそ1年、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老と七十人会長のドナルド・L・ホールストロム長老は日本を訪問し、希望と愛のメッセージを伝えた。

2月の12日間でオークス長老とホールストロム長老は、夫人のクリスティン・オークス姉妹とダイアン・ホールストロム姉妹を伴って、アジア北地域を訪問し、熊本、長崎、仙台、東京に立ち寄り、東北地域の多くの沿岸部も見て回った。

「教会のニュース」の記事の中で、オークス長老は、その訪問の目的の一つを説明した。「およそ1年前に起きたひどい災害と津波の後、わたしたちは慰めを与えたいと願い、教会の宣教師や会員と集会を持つときに

いつもしているように、<sup>あかし</sup>教えと証を述べたいと思っていました。」

オークス長老と教会のその他の指導者は日本の末日聖徒、宣教師、友人たちと集会を持ち、「主があなたの苦難を聖別して益としてくださる方法を探る」よう彼らを励ました。

ブラジルでのM・ラッセル・バラード長老、西アフリカでのジェフリー・R・ホランド長老、カリブ海地域でのデビッド・A・ベドナー長老、オーストラリアおよびニュージーランドでのクエンティン・L・クック長老、中央ヨーロッパでのD・トッド・クリストファーソン長老、およびブラジルでのニール・L・アンダーセン長老など世界中の教会指導者の働きについて読むには、news.lds.orgあるいはprophets.lds.orgにアクセスしてください。■

## 教会、家族歴史の方針を理解するよう 会員に求める

『教会のニュース』編集補佐  
サラ・ジェーン・ウィーバー

**教**会指導者は、神殿での儀式に名前を提出する際に教会家族歴史の方針を学んでさらに理解を深めるよう末日聖徒に求めている。

「常識、教義、そして敬意の道理目的にかなって」ウェブサイトNew.FamilySearch.orgの使用条件が設定されていると教会家族歴史部管理ディレクターのデニス・C・ブリンホルムは語る。

その条件は簡潔で率直なものである。サイトにログオンする度に「利用者は神殿の身代わりの儀式に有名人の名前や承認されていない抽出プロジェクトで集めた人の名前など、自分とは関係のない人の名前を提出すべきではない」という項目に同意しなければならない。

最近見られた教会の身代わりのバプテスマの方針への違反行為を受けて、教会の『指導手引き第2部』でも述べられている方針が再確認された。

「忘れてはならないことの一つに次のことが挙げられます。先祖を探求し神殿で行われる業のために名前を準備することは確かに責任ですが、特権でもあるということです。御業<sup>みわざ</sup>に対して鍵<sup>かぎ</sup>を保持する人々がその特権を会員に広げたのです。この業に対する鍵は教会の大管長が保持しています」とブリンホルム兄弟は語っている。

教会指導者は死者の身代わりのバプテスマのために名前を提出する会員に次のことを求めてきた。

- 自分の家族の家系内でのみ取り組む。
- 有名人の名前を提出してはならない。
- ユダヤ人大量虐殺の犠牲者など、承認されていない団体からの名前を提出することはできない。

教会指導者はユダヤ教指導者と会談した後の

1995年に確立した教会の方針への違反に関する疑問に対応して2012年2月に声明を発表した。

その声明を通して教会は身代わりのバプテスマに対して承認されていない団体からの名前を受け付けないという強い決意を再確認し、不正に操作することでしか、すでに機能している安全機能を解除する方法がないことを指摘した。

そのような行為はウェブサイトNew.Family Search.orgへの教会員のアクセスが差し止められるだけでなく、地元の指導者も場合によっては懲罰処置を受けることになりかねない。

「個人が故意に教会の方針を侵したり、愛と尊敬に基づく表明として理解されるべきものが争いの原因となったりするのは悲惨なことである」と声明文には述べられている。

「しばらく学習しなければならないでしょう。そして権利、責任、鍵、特権、これがだれの業で、それがどのようになさなければならないのか、またその業を導くのはだれなのかということをもう一度思い起こすのです。もしそれが分かれば、うまくいくでしょう。皆さんのためにシステムをより良いものにできるのです」とプリムホール兄弟は語る。■

**教会の指導者は死者のバプテスマのために名前を提出する会員に自分の家系の中でその作業を進めるよう伝え、有名人の名前やユダヤ人大量虐殺の犠牲者のような承認されていない団体からの名前を提出すべきではないと伝えた。**





新しいウェブサイトの準備に当たって、「依存症回復プログラム」管理者は依存症回復の個人的な経験談を求めています。

### 依存症回復プログラム、回復と癒しの経験談を募集

今年の後半に立ち上げる予定のウェブサイト、「依存症回復プログラム」(ARP)の準備に当たり、教会では依存症回復の個人の経験談を求めている。

自分の経験談を紹介しようと思う人は以下の情報を [arp@ldschurch.org](mailto:arp@ldschurch.org) まで電子メールでお送りください。情報の機密は保持されます。

- 姓名、年齢、性別
- あなたの写真(必須ではない)
- 教会との関係/会員資格
- あなたの依存症、または、あなたの愛する人の依存症についての概略
- ビデオ、音声、文章、あるいは、それらすべてを使ってあなたの経験を紹介することについての同意書。
- あなたの経験談。依存症の結果どうなったのかを教えてください(ふさわしくない詳細は伝える必要はありませんが、あなたの依存的行為があなたや周囲の人に及ぼした影響については内容に含めてください)。助けが必要だと分かったときの生活状況を短くまとめてください。キリストを通じてどのように癒しを経験し、望みが回復されたときに何を経験したか説明してください。現在の生活についてまとめ、赦し、悔い改め、奉仕を通じて経験した教訓や祝福をまとめてください。

### フィジーの教会員、洪水の犠牲者に人道支援を提供する

2月、フィジー・スバ地域の3ステークがフィジー北部および西部の洪水犠牲者のために食料、家財道具、文房具などを集める運動を行った。

フィジーはその年の初めに連日の豪雨に襲われ、洪水が広がり、西部と北部地域では地滑りが多発した。洪水によって死亡した人もおり、数千人が自宅からの避難を余儀なくされた。

洪水がフィジー西部と北部地域を襲ったとき、地元の教会指導者は直ちに洪水の被害地域に住む人々に避難所として集会所を開放した。

地域七十人でもあり、教会フィジーサービスセンターマネージャーでもある、タニエラ・ワコロ長老は、地元の教会指導者が洪水について警告された直後の2月6日に、運動を開始した。会員は食料、衣類、寝具、台所用品、文房具などの収集と仕分け作業を行った。その後それらの物資は困窮する人々に配給された。

*lds.org* にアクセスして、この話やその他の話についてさらに閲覧することができます。■



スティーブン・E・スノー長老は今年の後半までに教会歴史家兼記録者の仕事の引き継ぎを完了する。

### スティーブン・E・スノー長老、教会歴史家として召される

大管長会は近ごろ七十人  
会長会のスティーブン・E・スノー長老の教会歴史家兼記録者としての召しを発表した。前任者は七十人のマーリン・K・ジェンセン長老だった。

スノー長老は七十人会長会から解任され、ジェンセン長老は2012年10月の総大会で名誉会員になる。

それまでスノー長老とジェンセン長老は訓練と引き継ぎのためにもともに働くことになる。■

開拓者から学んだこと

昨年12月、わたしは落ち込んでいて、家を飾り付け、クリスマスを祝う気分ではありませんでした。その後わたしは2011年12月号の『リアホナ』の記事を読みました。そこには開拓者がクリスマスをどのように祝ったのかが記されていました。贈り物もなく食べ物もほとんどなかったにもかかわらず、楽器もなかった彼らは口笛でメロディーを奏でて踊りました(「小さな、簡単なこと」の「初期の開拓者のクリスマス」9参照)。その記事のおかげでわたしは態度を変えることができ、元気を出すことができました。時々わたしたちは自分が持っているものを悟らず、正しくその価値を認めていないことがあります。

アナ・ロサ・デ・メーロ・フェレイラ  
(ブラジル・リオデジャネイロ)

毎日神を求める

2012年1月号に感謝しています。夫とわたしはアダム・C・オルソンの記事「世界の不思議を再発見し……霊的無関心という危険を避ける」(20ページ)を読んですばらしい経験をしました。その記事のおかげで毎日の生活において常に神を求める必要性を知ることができました。その機関誌のメッセージは導かれて書かれたことを知っています。なぜならその多くが最も必要としているときに生活の中に影響を及ぼすからです。

ダイアナ・アラセリ・ペロキ・デ・ラノン  
(アルゼンチン・ブエノスアイレス)

ご意見、ご感想を [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) までお寄せください。掲載されるお手紙は、紙面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。■



今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。

「わたしたちの受け継ぎのすばらしさ」

16ページ——家族と一緒にその記事を読んでください。L・トム・ペリー長老の次の言葉を強調します。「開拓者が砂漠をばらのように美しくしたように、わたしたちが彼らの模範に従い、彼らの伝統を喜んで受け入れるならば、わたしたちの生活と家庭も美しく栄えることでしょう。」初期の開拓者が示した模範に、どうしたらもっと従えるか家族に尋ねるのもよいでしょう。最後に「恐れず来たれ、聖徒」(『賛美歌』17番)を歌って終えるのもよいでしょう。

「希望をもって将来と向き合う」

35ページ——グリコ兄弟の話 요약するか、あなたか知人が希望をもって未来に立ち向かった個人的な話をしてもよいでしょう。「将来信仰を持つことが困難になるようなチャレンジとはどのようなことですか。このチャレンジに直面するときに積極的な態度を持ち続ける

ために何ができますか」

というような質問をして、家族がそのメッセージを生活に応用できるように助けます。その記事の最後の2段落を読んで終えるのもよいでしょう。

「純粋な証とは?」

54ページ——その記事が教える証とはどのようなものか分かち合うことによってレッスンを始めます。その後、証を述べることに関する質問を要約するのもよいでしょう(56-57ページ参照)。御霊の促しを受けたら、家庭の夕べの中で互いに証し合うように勧めるか、自分たちの日記に証を記すよう勧めます。

「親切なささやき」

59ページ——ルカ書第6章27節を読みます。その後でジェームズやカーソンについての話を分かち合い、途中で話をやめて子供たちに最初のページのいちばん下にある質問に答えるように言います。家族が互いに親切になれるよう励まします。■

「屋外での」家庭の夕べ

10歳のとき、わたしは両親、兄弟、姉妹たちと一緒にバプテスマを受けました。とても幸せなことに、大人になるまで毎週家庭の夕べをしていました。家庭の夕べはわたしたち家族の関心事でした。

教会員になって45年以上になります。5人の子供を持ち、その伝統は今も続いています。月曜の夜は家族のために予定を空けています。

月の最後の月曜日は、わたしたちが「屋外での」家庭の夕べと呼んでいる少し長い活動をします。映画を見に行ったり、病気の人を訪れたり、公園で遊んだり、ロラやロロ(わたしたちの祖父母)を訪ねたり、様々なことをします。

最も忘れられない野外での活動は、路上で暮らす子供たちに奉仕したことです。そのように困った人たちを助けたときに感じた喜びと幸福感は表現できません。小さなことで、その子供たちに幸せを味わってもらおうとしています。そして彼らを心にかけている人たちがいること、またわたしたちは皆神の子供であることを知ってもらいたいです。■

テタ・マフンガ・オビアル(フィリピン)

## 世の汚れに 染まらず

ジュリー・トンプソン

**数**年前のことになりますが、遅番の掃除の割り当てがあって、ユタ州バウンティフル神殿に行った時のことです。その場に集まった人が多かったので、一部の人は帰ってよいと言われるのではないかと一瞬思いました。そうであれば、わたしは真っ先に手を挙げるつもりでした。しかし心の中でそんなはずはないと思いました。「わたしたちを早く帰すわけがない。彼らは、つまらない仕事を全員に割り当てて、きっちり2時間ここで働かせるのが自分たちの務めだと思っているのだから。」わたしは以前に受けた割り当てのことを思い出しました。1時間以上かけて掃除をしたものの、ぞうきんは返却する際、手渡されたときと同じくらいきれいだったのです。今回も2時間かけて、必要もなさそうな掃除をする覚悟をしていました。お察しのとおり、わたしはその晩、奉仕の精神ではなく義務感から神殿に行ったのです。

わたしたちのグループは、ディボーショナルを行うために小さな礼拝堂に案内されました。そのディボーショナルを司会した管理人の話は、神殿内の清掃に対するわたしの考え方を根底から覆すものでした。歓迎の言葉を述べた後、彼はこう言いました。わたしたちは、掃除の必要がないほどきれいなものを清掃するためではなく、主の宮を一点の汚れもない状態に保つためにここにいるのだということです。地上で最も神聖な建物の管理人として、わたしたちは神殿をまったく汚れのない状態に保つ責任があるということでした。

彼の言葉はわたしの心にしみ渡りました。わたしは主の宮を守るという新たな熱意をもつ



何も汚れていない  
神殿で、  
なぜ掃除をするのか  
とっていました。  
しかし程なくして、  
掃除すること自体に  
ほんとうの意味が  
あるのではないことを  
知りました。

て、自分に割り当てられた所に向かいました。そして、穂先の柔らかなはけで、扉の木枠や幅木(壁の基部に回した板)、テーブルやイスの脚部の細かな溝のほこりを丁寧に払い落としました。もし以前にこの割り当てを受けていたらばかばかしく思えて、いかにも忙しそうな振りをしながらぞんざいにほこりを払っていたのではないかと思います。しかし今回は、はけを使ってどんな小さなくぼみのほこりも慎重に払い落としました。

この割り当ては心身ともに疲れる作業ではなかったもので、祝福されてその間じっくりと考える余裕がありました。まず、自分の家ではそれほど細かいところまで注意を払っていなかったことに気づきました。人目につきやすいと思われるところはきれいにしましたが、家族や自分だけしか知らないところはなおざりにしていたのです。

次に、福音生活を送るうえでも同じようなことをしていた自分に気づきました。周囲の目に触れるところでは福音の原則に従って生活し責任を果たしましたが、家族や自分しか知り得ないことはぞんざいにする傾向がありました。教会に出席し、召しを受け、責任を果たし、家庭訪問をする姿は、ワードのだれの目にも映ります。しかし、定期的な神殿参入、個人と家族の聖文研究や祈り、家庭の夕べはおろそかにしていたのです。教会で福音を教え、話の責任を果たす一方で、心から愛をもって人に接することができないこともありました。

あの晩、握り締めたはけをじっと見ながら自分にこう問いかけました。「わたしの日ごろの生活でもっと注意を払うべき小さなくぼみは何だろうか。」わたしは、生活する中で人目を引きそうなどころばかりをただ漫然と見栄えよくすることに気取られていないで、一点の汚れもない生活を送れるように今まで以上に努力しよう決心しました。

わたしは「自らは世の汚れに染まらずに」という教訓に触れる度に(ヤコブの手紙1:27)、あの神殿の清掃作業から学んだことを思い出します。■



「ピーターソンにある家」 ルコント・スチュアート画

ユタ州ピーターソンにある農場のこの安らかな景色は、

1847年1月14日にネブラスカ州ウインタークォーターズでの、末日聖徒に対する主の約束の成就を表現しています。

「主の言葉と御心<sup>みこころ</sup>」と称されるこの示現は、ブリガム・ヤング大管長に与えられました。

そのとき彼は、ウインタークォーターズの仮の家を離れ、

ソルトレーク溪谷へと草原を引き続き横断して行くために聖徒たちを備えていました。

「人々は皆、自分の影響力と財産をすべて使って、主がシオンのステークを設ける場所にこの民を移すようにしなさい。」

「もしあなたがたが忠信を尽くして清い心でこれを行うならば、あなたがたは祝福されるであろう。

あなたがたは大小の家畜の群れと、畑と、家と、家族について祝福されるであろう。」(教義と聖約 136:1, 10-11)



「末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、  
神聖な約束を尊ばなければなりません。  
……聖約を忠実に守ることは、幸福になるための条件です。  
この聖約の中には、バプテスマの聖約、神権の聖約、  
結婚の聖約などが含まれます」と、  
トーマス・S・モンソン大管長は説明しています。  
「聖約を守ることはわたしたちの今の幸福や、  
いずれ受ける永遠の命に不可欠であるため、  
天の御父にわたしたちが約束したことを  
理解することが大切です。」  
「神と交わす聖約を理解する」20 ページ参照。